



神戸製鋼グループ
環境・社会報告書

2014

KOBELCO SUSTAINABILITY REPORT

KOBELCO

TOP MESSAGE

[社長メッセージ]

神戸製鋼グループのものづくりを通じた 環境・社会貢献の、 新しいステージが始まっています。

くらしと社会のすみずみまで広がる、独創的な製品・技術。

ものづくりを通じた環境・社会貢献が、神戸製鋼グループのCSR活動の特長です。

中長期の経営ビジョンと共に新しいステージに入る環境・社会貢献活動について、

(株)神戸製鋼所社長・川崎博也がお話します。

くらしと社会を支えるものづくりが、
神戸製鋼グループの使命です。

神戸製鋼グループは、1905年の創業から1世紀以上もの間、ものづくりを通じてくらしや産業・社会を支えてきました。

当社グループには、鉄鋼、溶接、アルミ・銅など素材系の事業、産業機械、建設機械、エンジニアリングなど機械系の事業を中心に、電力卸供給、不動産、電子材料など幅広い事業分野があります。こうした事業から生まれる製品・技術により、産業や人々の生活の基盤を担うことが、私たちの使命だと考えています。

中長期経営ビジョン

「KOBELCO VISION“G”」に基づき、
事業を通じた環境・社会貢献を進めます。

神戸製鋼グループは、中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION“G”」に基づき、さまざまな事業改革を進めています。中でも、環境や社会に貢献するものづくりの強化は重要なテーマです。

当社グループには、環境負荷の低減や、未利用資源の有効活用など、社会が直面する課題の解決につながる製品・技術が多数存在します。こうしたものづくりを強化することで、地球環境や社会に貢献する企業体を目指します。

「KOBELCO VISION“G”」は第2ステージ(2013年度～2015年度)に入っています。第1ステージ(2010年度～2012年度)に構築した基礎の上に、環境・社会に貢献する付加価値を持った新たな製品・技術の開発を推進します。

株式会社 神戸製鋼所
代表取締役社長

川崎博也

グループ企業理念

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

神戸製鋼グループは、皆様の大きなご支援のもと、「技術と技能の研鑽に努め、製品やサービスの提供を通じて、社会のニーズに応えること」、「一人ひとりを互いに尊重しあいながらもグループの和を意識し、同じゴールに向かって一丸となって努力すること」により、社会の発展や働く人々の幸福を実現すべく活動してきました。また昨今の企業を取り巻く環境の厳しい変化の中では、「チャレンジ精神」を持ち、変化に対して迅速に、かつ的確に対応すること」が一層重要になってきていると考えています。

上記の企業理念には、このような思いが込められています。引き続き、この企業理念を全グループ社員が共有し、神戸製鋼グループが社会と共に発展することを目指してまいります。

自動車軽量化や水素ステーションなど、
環境保全につながる
新しい技術開発を加速します。

「KOBELCO VISION“G”」の第2ステージと並行して、地球環境の保全と関連する事業テーマが生まれています。例えばCO₂排出量の低減につながる自動車燃費規制に応え、車体を軽量化する鉄鋼製品(高張力鋼板=ハイテン)の中国でのジョイントベンチャーや、当社単独でのアルミパネル材製造拠点の設立を進めています。

北米のシェールガス革命も、大きなテーマです。シェールガスを活用するためには、鋼材、溶接材料、産業機械、ショベルやクレーン、環境対策など幅広い分野の技術が必要です。グループ内の連携を強化し、シェールガス革命に対応していきます。

燃料電池車の普及に必要な水素ステーションについても、独自技術を活かした参入を目指しています。燃料電池車の黎明期である今、グループの総合力を発揮し、次代の水素社会を支えていきます。

地域に愛される企業を目指し、
さまざまな社会貢献活動に取り組みます。

神戸製鋼グループは日本や世界の各地に拠点を展開しています。地元に関わり込んだ企業市民として、地域社会に貢献するさまざまな活動を行っています。

事業所近隣の清掃や、地域と一体化したイベントの開催などは、地域に愛される企業を目指す基本的な活動です。兵庫県の2カ所の森林ではKOBELCO GREEN PROJECTとして従業員による「森林整備活動」を行っています。小・中・高校生から森や自然に関する童話を募集し、絵本化する「KOBELCO森の童話大賞」もスタートしました。ラグビーを中心としたスポーツを通じた社会貢献にも引き続き力を入れていきます。

社員一人ひとりを主役に、
コンプライアンスの徹底を進めます。

こうした活動の根源にあるのは、安全とコンプライアンスです。常日頃、お客様や社会に貢献する仕事を心がけていても、ただ一度の過ちで信頼はたちまち失われてしまいます。社員一人ひとりが自らの課題としてコンプライアンスを考え、仕事や組織の中で徹底していきます。

本報告書を通じて、環境・社会に貢献する神戸製鋼グループの活動の一端にふれていただければ幸いです。

神戸製鋼グループの概要 [2014年3月31日現在]

会社名	株式会社神戸製鋼所
英文社名	Kobe Steel, Ltd.
グループブランド	KOBELCO
創立	1905年9月1日
設立	1911年6月28日
社長	川崎 博也
資本金	2,509億3,003万3,900円
売上高	連結:1兆8,246億円 単体:9,937億円
従業員数	連結:36,019名 単体:10,586名(出向者を除く)
連結子会社および 持分法適用関連会社	209社

グループ事業別売上高(連結)



1 鉄鋼事業	8,085	6 神鋼環境ソリューション	681
2 溶接事業	883	7 コベルコ建機	3,182
3 アルミ・銅事業	2,956	8 コベルコクレーン	566
4 機械事業	1,498	9 その他	712
5 エンジニアリング事業	391		(億円)

(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高などの消去額710億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆8,246億円となります。

3つの視点で、神戸製鋼グループの 環境・社会貢献活動を報告します。

※2014年度版の編集方針

本報告書は、CSR委員会下部組織の報告書作成部会が、各部門との議論を通じて、ステークホルダーの皆様にとって関心の高い事項や、事業活動としての重要性(マテリアリティ)を考慮し、3つの編集の視点から報告内容を選択して企画・構成しました。

コンプライアンスは、神戸製鋼グループが企業としての社会的責任を果たすための出発点です。コンプライアンスに基づく、公正で健全な企業活動について報告します。



▲セミナーを通じた
コンプライアンスの徹底

コンプライアンスの 徹底



事業活動を通じた 環境への貢献

生産工程での環境配慮に加え、CO₂排出量の削減や未利用エネルギーの活用を実現する環境配慮型製品の提供、森林整備活動などを通じた地域社会への貢献を報告します。



▲自動車の燃費を改善する高張力鋼板やアルミニウム合金の提供

ステークホルダーとの つながりづくり

株主様・投資家様、お客様・お取引先様、地域社会の皆様、社員、海外の現地社会など、多様なステークホルダーとのつながりを深めるための社会貢献活動を報告します。



▲神戸製鋼ラグビー部による、東日本大震災の復興支援活動

本報告書は、「GRIガイドライン第3版」「ISO26000 社会的責任に対する手引」を参考にすると共に、環境報告については「環境報告ガイドライン2012年版」を、また防災については2005年8月1日に公表された防災に関するPR文書(中央防災会議企業評価・業務継続ワーキンググループ)を参考に作成しました。

■ 報告対象期間

本報告書は、2014年度版として2013年度(2013年4月1日から2014年3月31日まで)の、神戸製鋼グループの環境および社会に対する活動実績に基づいて作成しました(一部、対象期間外の内容を含みます)。環境への取り組みや社会貢献に関しての基本姿勢と、これまでの、そして現在、さらに将来の活動についても述べています。

■ 報告対象組織

原則として、(株)神戸製鋼所および国内外グループ会社の活動を報告対象としています。
※環境データの集計対象会社は、当社ホームページをご覧ください。

 http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2014/

■ 主要な環境パフォーマンス一覧

神戸製鋼グループの主要な環境パフォーマンス一覧は、当社ホームページをご覧ください。

 http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2014/



ECOWAY

神戸製鋼グループは、「環境」イメージの浸透と従業員の「環境」マインドの醸成を狙いとして、環境シンボルマークを設定しています。
フリーハンドの「青々と生い茂る木の葉」がナチュラルで優しいイメージを表現し、矢印と「ECOWAY」という言葉を組み合わせて「環境先進企業グループへの道を一歩ずつ確実に進んでいく企業姿勢」を表しています。

CONTENTS

神戸製鋼グループ 環境・社会報告書2014

社長メッセージ	1
神戸製鋼グループの概要	2
編集方針/目次	3

特集

KOBELCO with LIFE

くらしと社会を快適に、安全に支えています。
こんなところに、コベルコの製品と技術。

コンプライアンスを徹底し、
公正で透明な経営と事業を推進します。



神戸製鋼グループの事業とCSR	11
コンプライアンスの強化・徹底	13

環境報告

3つのVISIONに基づく環境経営で、
事業活動を通じて環境保全に貢献します。



環境経営基本方針と6つの実施事項	15
2013年度の活動ハイライト	16
環境マネジメント	
環境中長期目標とその取り組み	17
環境活動クローズアップ アルミのバリューチェーン	19
マテリアルバランス	21
あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底	
地球温暖化対策	23
資源循環の促進	26
化学物質の適正管理	28
環境負荷の低減	29
製品・技術・サービスでの環境への貢献	
製品を通じたCO ₂ 排出量削減	30
素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献	31
社外からの表彰	33
研究開発による環境への貢献	34
環境関連情報の開示	35
環境会計	36
全員参加による取り組みの展開	36
リスク管理の徹底	37
海外事業所におけるリスク管理活動	38

社会性報告

多彩な社会貢献活動による、
ステークホルダーとのつながりづくりを進めます。



社会貢献活動の考え方	39
2013年度の活動ハイライト	40
社会貢献活動クローズアップ 1 第1回 KOBELCO 森の童話大賞	41
社会貢献活動クローズアップ 2 スポーツを通じた社会貢献活動	43
優れた製品・サービスの提供	45
株主・投資家の皆様との関わり	47
社会との共生	49
海外での社会貢献	54
社員が働きやすい職場環境	55
防災への取り組み	57
各事業所の環境保全への取り組み	59
読者の皆様からの評価	63
第三者コメント	64

KOBELCO

with LIFE

ハイジュールネット

落石のエネルギーを吸収する防止柵

マイクロバイナリー

温泉や工場の熱から電気を創ります

砂防えん堤

魚の道を守りながら、土石流や流木などをせき止めます

溶接材料

約800種類の溶接材料で、あらゆる産業のものづくり力向上に貢献

円形鋼管

東京スカイツリー® 頂部のゲイン塔に使用された、耐震安全性に優れた製品で、世界最高強度です

空調用ヒートポンプ

高いエネルギー効率で年間70%ものCO₂排出量を削減

アルミ

車体を軽量化し、燃費向上によりCO₂排出量を削減

ハイブリッド油圧ショベル

従来機比16%の燃費性能を向上させた20トンクラスのハイブリッド油圧ショベル

クレーン

最大25%燃費削減を可能とする省エネクレーン*

* 指定同一条件下での当社従来機との比較

スチームスター

工場内の小型ボイラから発生した蒸気で発電

溶接ロボット

人に代わって溶接作業を行い、工場の安全衛生に貢献

くらしと社会を快適に、安全に支えています。 こんなところに、コベルコの製品と技術。

鉄道車両用 アルミ形材

軽量化と静音化を実現するアルミ材で国内トップシェア

電力卸供給 (IPP)

国内最大規模の電力卸供給と高度な環境保全を実現

アルミ チタン

軽くて強い部品が地球にやさしいフライトを実現

MIDREX® プラント

CO₂排出量を大幅に削減する天然ガスを使った製鉄法

バイオ 天然ガス

下水汚泥や食品などからエネルギーを取り出します

クランク シャフト

エンジンの動力をプロペラへ伝える船舶の基幹部品

鉄鋼製品

車体を軽量化しCO₂排出量を削減する鉄鋼製品（ハイテン、弁ばね用線材など）

水処理設備

くらしや工場の排水をきれいにして自然に還します

フレア護岸

高波や高潮を跳ね返し、景観や生態系も守ります

エアコン用 銅管

高い熱伝導性で、快適さとCO₂削減を両立

燃料電池車用 水素ステーション

低コストでコンパクトな水素供給用ユニットで貢献

アルミ缶

快適なくらしに欠かせないリサイクルの優等生

電気レス スクリュ コンプレッサ

ボイラの蒸気で駆動する電気のいらぬ圧縮機

コベライアン

工場の消費電力を約40%も削減する汎用圧縮機

ふだんはなかなか気づかないけれど、神戸製鋼グループの製品と技術は、身近なところでより良いくらしや社会に貢献しています。空気や水をきれいにしたり、再生可能なエネルギーを創ったり、災害の被害をくいとめたり。さまざまな製品と技術が、安全で快適な毎日を支えているのです。皆さんと共に生きるコベルコ。その一部をご紹介します。

乗り物を 軽くするコベルコ



自動車軽量化による
CO₂排出量削減効果 マイナス

約**440**万トン/年

アルミやハイテンの活用で乗り物を軽量化。
燃費の向上とCO₂排出量削減に貢献しています。

アルミ製品による軽量化

自動車

グローバルな体制で
自動車軽量化を加速しています。

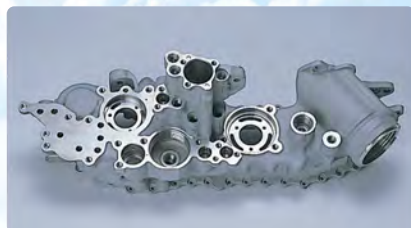
神戸製鋼は、アルミ材による自動車の軽量化にいち早く対応し、パネル、バンパーやサスペンションなど各部位の適用拡大に向け、中国と米国で生産体制を強化中です。地球規模での自動車軽量化によるCO₂排出量削減に貢献します。



飛行機

軽さと強さを両立する
航空機用アルミ・マグネ鋳造品。

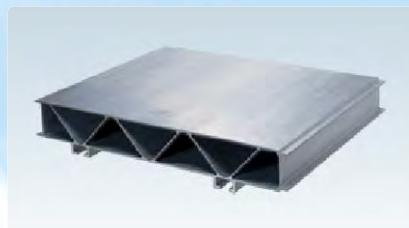
優れた鋳造技術や解析技術を活かし、軽さに加え卓越した耐久性が求められる航空機部品にアルミ・マグネ鋳造品を提供しています。機体の軽量化によるCO₂排出量の削減により、快適さと共に地球環境に配慮した空の旅を実現します。



新幹線

軽さに加え、静音性の高い
アルミ形材を開発。

新幹線など鉄道車両用のアルミ形材で、神戸製鋼は国内トップのシェアを持っています。軽量化と共に走行中の騒音や振動を低減するため、静音性の高い独自の部材「ダンシェープ®」を開発し、アルミ車両に採用されています。



鉄鋼製品による軽量化

自動車

軽くて強い高張力鋼板
「ハイテン」の活用を進めています。

「ハイテン」は一般的な鋼板より強度をあげた鋼板で、主に自動車の車体骨格部材に使用され、車体の軽量化に大きく貢献しています。

神戸製鋼は、より強度の高い「超ハイテン」の開発・製造で世界をリードしています。



船舶

船の基幹部品「クランクシャフト」で
世界40%のシェア。

エンジンの動力をプロペラへ伝える基幹部品が「クランクシャフト」。神戸製鋼は船舶用の組立型・一体型クランクシャフトで世界40%のシェアを持っており、マイクロレベルの寸法制御技術が高い評価を得ています。



エアコン熱交換器用銅管

高い熱伝導性能で、CO₂排出量を大幅に削減しています。

(株)コベルコ マテリアル銅管が提供する高性能溝付銅管は、エアコンの熱交換器に使用される銅管として開発されたものです。高い伝熱性能によりCOP*を1990年比の2倍に改善。エアコンの省エネルギーの先駆けとして、年間約460万トンものCO₂排出量を削減しています。



*COP: エアコンの性能を表示する指数で、消費電力に対する冷暖房能力の比

アルミボトル缶材

リサイクル性に優れた缶材の主流。

リサイクル性に優れた飲料用アルミ缶材で、神戸製鋼は国内で約30%のシェアを有しています。さらに、複雑な加工が要求されるボトル缶材では、国内70%のシェアを獲得。アルミ缶リサイクルの促進に貢献しています。



水処理

くらしと産業の水を常にきれいに保ちます。

(株)神鋼環境ソリューションは、くらしの中の上下水処理から、産業廃水・汚泥処理、純水・超純水製造設備など、水処理に関するフルラインナップの技術と設備を提供。くらしと産業に関わる「水」の、多様なニーズにお応えします。



ヒートポンプ

使った電力の何倍もの熱エネルギーを利用できる省エネ技術。

ビルや工場などの冷房・暖房に用いられるヒートポンプは、投入エネルギー（電力）の何倍もの熱エネルギーを利用できることから、省エネルギー機器として普及が進んでいます。神戸製鋼は、「ハイエフミニシリーズ」で業界最高のエネルギー効率を実現しています。



くらしを 快適にするコベルコ

快適さと地球環境への配慮を両立する技術を、毎日のくらしの中にお届けしています。

特集

KOBELCO

with

4E=

CHAPTER

02



エアコン熱交換器用銅管の
CO₂排出量削減効果 マイナス

約460万トン/年

エネルギーを創る コベルコ

捨てられていたエネルギー源を上手に使う。
「もったいない」から始まる、コベルコの技術。



産業機械・建設機械分野と
製鉄プラント分野の
CO₂排出量削減効果

マイナス

約**3,410**万トン/年

バイオガス発電システム

「あべのハルカス」が導入した先進の創エネルギー技術。

(株)神鋼環境ソリューションでは、下水汚泥などから発生するバイオガスをエネルギー源として活用する事業を推進。大阪の新しいランドマーク「あべのハルカス」では、ビル内のごみから発生させたバイオガスをエネルギーとして活用しています。



マイクロバイナリー

温泉熱や廃熱を活かして発電します。

神戸製鋼は、温泉熱や工場の廃熱など、これまで利用できなかった熱で発電する「マイクロバイナリー」を開発。温泉地などへの販売を推進しています。70～95℃程度の熱源で発電できるため、幅広い分野での利用が考えられます。



MIDREX®プロセス

天然ガスを活用し、CO₂排出量を削減する製鉄法。

天然ガスを還元剤として活用し、CO₂排出量を大幅に削減する製鉄プロセスです。中近東を中心に世界で約70基が稼働しており、シェールガス革命による新たな需要が期待されています。



電力卸供給(IPP)

国内最大規模の電力卸供給事業。

くらしの中で使われる電力の供給も、神戸製鋼グループの仕事の一つです。神戸製鉄所に隣接する神鋼神戸発電所では、発電規模140万kWという国内最大規模の電力卸供給事業を推進。神戸市のピーク時の電力需要の約70%をまかなっています。国内の他の拠点にも拡大を図っています。



砂防えん堤

土石流を防ぎ、自然の生態系を守る山間部の堤防。

土石流を防ぐため、山間部の溪流に設置されます。神戸製鋼では、鋼製のパイプを組み合わせて作る透過型のえん堤を提供。パイプの間を水が流れるため、魚や水生動物が行き来することができ、自然の生態系も守ります。



フレア護岸

高波の“越波”^{えっぱ}を食い止め、景観とも調和する護岸です。

曲面構造にそって波の方向を海側へと変化させることで、押し寄せてきた波が護岸を越える“越波”を防ぎ、高潮や津波の勢いも弱めます。消波ブロックを置く必要もなく景観を損ないません。神戸製鋼の海岸工学の結晶です。



ハイジュールネット

山間部の落石を受け止める、安全・安心のネット。

神鋼建材工業(株)の「ハイジュールネット」は、山肌で起こる落石の大規模なエネルギーを吸収し、被害を最小限に食い止める、文字通りの“セーフティネット”です。地形や地質にあわせた設置が可能であり、日本各地の山間部で安全を守り続けています。



移動電源車

幾多の災害復旧に貢献してきた、日本初の“走る発電所”。

神鋼造機(株)が日本で初めて開発した移動電源車は、東日本大震災をはじめ幾多の自然災害で、NTTの通信基地局や電力各社のバックアップ電源として、インフラの復旧を支えてきました。ディーゼル発電機とトラックを一体化して移動できるようにした、走る発電所です。



特集

KOBELCO
with LIFE

CHAPTER

04

災害を防ぐコベルコ

自然災害から暮らしや生命を守るものづくりも、コベルコの仕事です。



100年を超える
蓄積から生まれた、
**防災・災害
復旧支援技術**

神戸製鋼グループの事業とCSR

神戸製鋼グループは、企業としての社会的責任(CSR)を果たすことをグループ経営の重要な施策と位置付け、具体的な行動指針として「企業倫理綱領」を制定しています。
特に、ものづくりを担うメーカーとして、環境に配慮した生産活動や製品開発を重視し、環境と社会に貢献しながら持続的に発展する企業グループを目指します。

持続可能な社会へ



優れた製品・サービスの提供

安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分に配慮し、優れた製品・サービスの提供を通じて社会に貢献する。

環境への貢献

地球環境の保全と豊かで住みやすい社会づくりに貢献する。

社員が働きやすい職場環境

社員の人格・個性を尊重し、ゆとりのある豊かな職場環境を実現する。

ステークホルダーとの関係強化

ステークホルダーの立場を尊重する。顧客、取引先、社員、株主等を含む幅広い社会との健全で良好な関係維持に努める。

企業倫理規範

海外の現地社会への貢献

海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に寄与する。

コンプライアンスの強化・徹底

法令その他の社会的規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行う。

地域社会との共生

地域社会に貢献する良き「企業市民」たることを目指す。

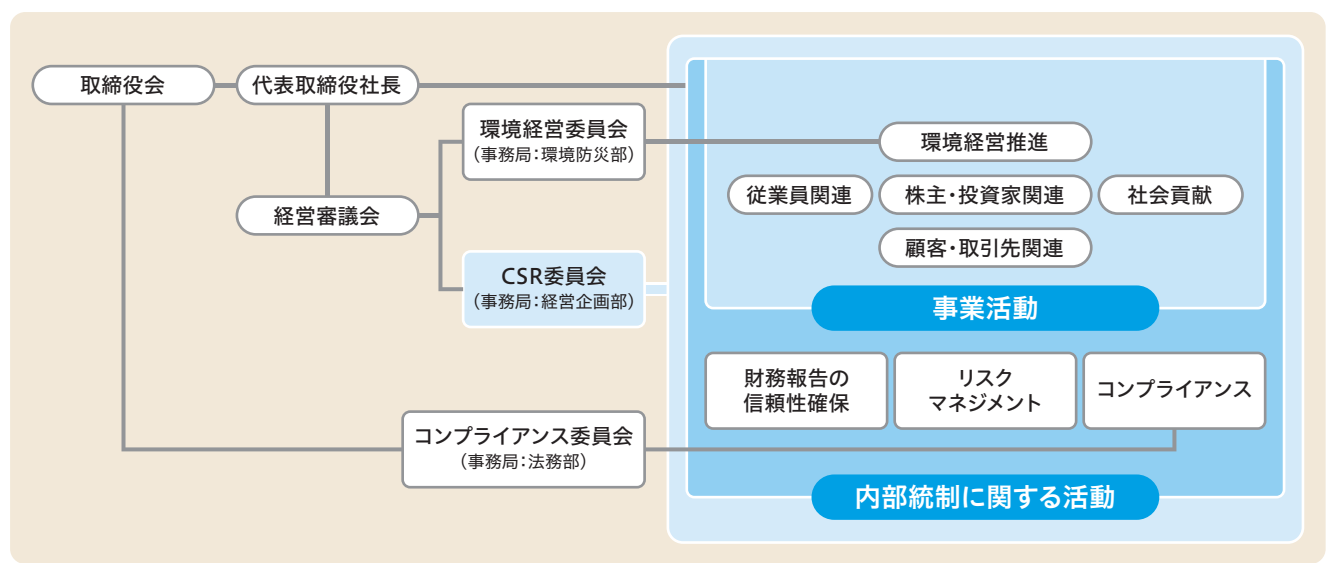
「企業倫理綱領」は、法令・社会的規範などを遵守し、より良い会社になるための理念と行動指針を示しており、「企業倫理規範」「企業行動基準」、およびその「実施要領」によって構成されます。

「企業倫理規範」は、神戸製鋼がさまざまな企業活動を行う上で、会社および役員・社員が遵守すべき7つの規範を示しています。「コンプライアンスの強化・徹底」を基本に、環境への貢献と、顧客、取引先、従業員、地域社会など多様なステークホルダーとの関わりを通じて、企業としての社会的責任を果たす基盤となるものです。「企業倫理規範」を日々の業務の中で実践するために、とりわけ重要な行動の基準について定めたものが「企業行動基準」です。「企業行動基準」の各項目については、その内容をさらに詳しく解説した運用マニュアルを作成し、従業員一人ひとりが実践に努めています。

神戸製鋼グループは、全ての企業活動を「企業倫理規範」「企業行動基準」に則って行うことで、より良い環境や社会に貢献していきます。

CSR推進体制

推進体制図

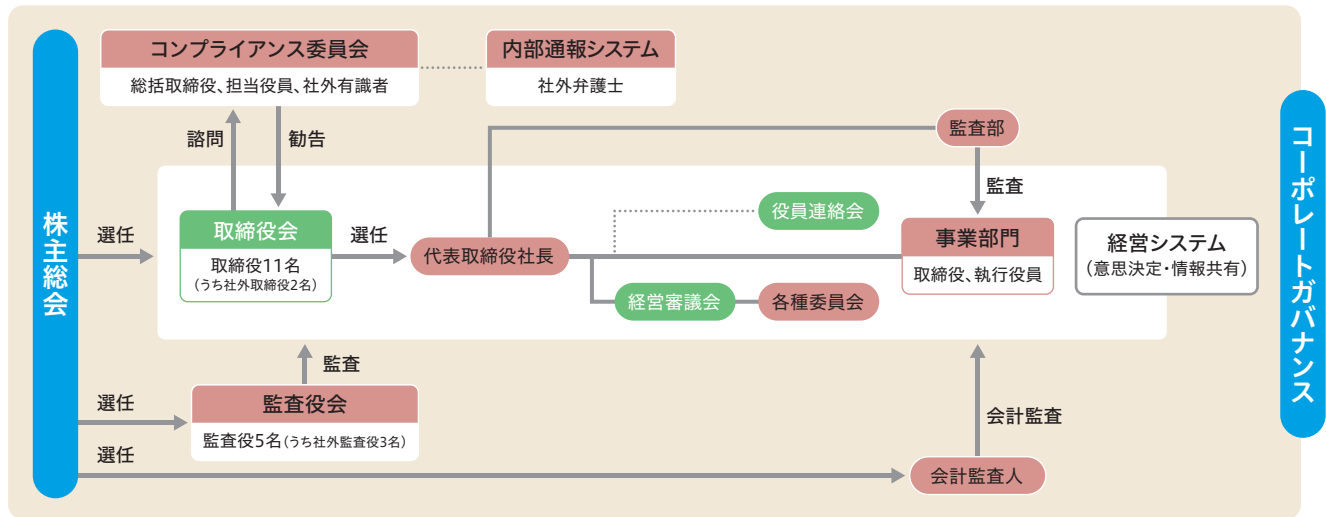


神戸製鋼グループのCSRに関する基本方針の決定およびその活動を集約する機関として、2006年より「CSR委員会」を設置しています。
また、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」

を設置しており、重要事項に関する審議・提言・進捗確認を行っています。
CSR委員会は、これらのCSRに関する活動を取りまとめ、「神戸製鋼グループ 環境・社会報告書」として発行しています。

コーポレートガバナンスの強化と充実

コーポレートガバナンス体制



神戸製鋼は執行役員制度を採用していますが、経営の意思決定と日常業務の執行は密接不可分と認識しています。したがって、業務執行の中核は株主および取引先などの関係者に対し法的責任を負う取締役が担うべきであると考え、主要な事業部門は取締役が業務執行を統轄しています。
現行の取締役会は、経営トップ、本社部門の重要な役割を担う者、経営に重要な影響を与える事業部門の長、またはこれに準ずる者、および経営の透明性・公平性を確保し業務執行の監督機能を強化する観点から招聘した社外取締役2名を含む

11名で構成しています。執行役員は、取締役会から選任され、取締役から委嘱された業務を執行する重要な役職であると位置付けています。
このような経営体制のもと、神戸製鋼は監査役制度を採用し、社外監査役3名を含む5名の監査役による経営監査機能を一層強化することで、企業統治の実効性を高めています。また、内部監査については、独立した監査組織として監査部を設け、全社的な業務執行に関する監査を行っています。
(注) 取締役人数および監査役人数は、第161回定時株主総会終了後の予定人数です。

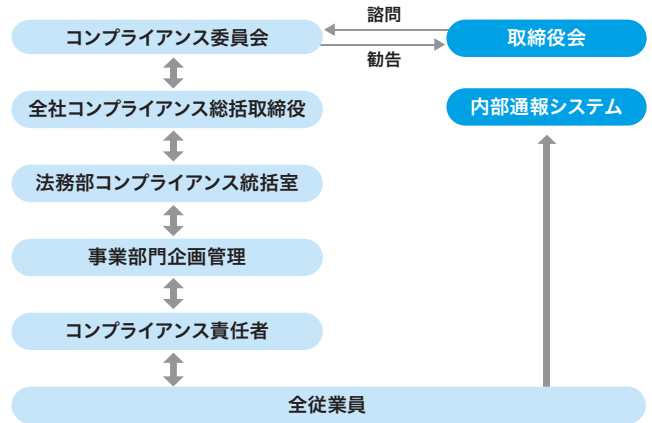
コンプライアンスの強化・徹底

神戸製鋼は、コンプライアンスを企業存立の大前提であると考えます。これからも経営陣が先頭に立ち、コンプライアンスの定着のための諸施策を推進していくことにより、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化を持った企業グループを目指します。

コンプライアンス体制

神戸製鋼は、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」を設置しています。社内委員2名に対し、公正中立な立場の社外委員が5名と過半数を占める同委員会では、推進計画の立案、進捗状況の確認、「内部通報システム」への通報事案に関する審議などを行っています。

また、「全社コンプライアンス総括取締役」「全社コンプライアンス担当役員」、専門部署としての「法務部コンプライアンス統括室」を設置し、事業部門の企画管理担当部署や各部署に設置する「コンプライアンス責任者」と連携しながら取り組みを行っています。



■ コンプライアンス教育

神戸製鋼は、役員およびグループ企業の経営幹部を対象とした「コンプライアンス トップセミナー」をはじめ、各階層別研修にコンプライアンスに関する内容を織り込み、社員がキャリアの節目ごとに幅広く研修を受ける機会を設けています。特にコンプライアンス責任者に対しては、毎年研修を受講することを要請しています。また、法令教育e-ラーニングを毎年実施し、全社員がコンプライアンスへの理解度を確認する機会としています。



▲コンプライアンス トップセミナー

■ コンプライアンス・マニュアルの整備

神戸製鋼は、「企業倫理綱領」の「企業行動基準」に記載された各項目について、より詳しく説明した「社員のための行動手引き」を作成し、全社的なコンプライアンス・マニュアルとして社員に配布しています。このマニュアルは、後述のリスク管理活動で全社が共有する「共通リスク」の項目と連動しており、リスク管理活動の基本マニュアルにもなるものです。



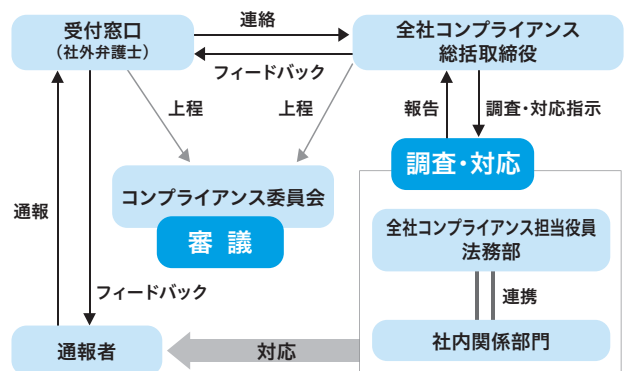
さらに、独占禁止法、下請法、個人情報保護法、安全保障貿易管理などの個別の法令マニュアルも整備し、社員が業務の中で疑問に思ったことを参照しやすい形で整理しています。

各種詳細マニュアル

- 独占禁止法遵守マニュアル
- 下請法遵守マニュアル
- 知的財産情報イントラネット
- 個人情報管理マニュアル
- 企業秘密管理マニュアル
- 安全保障貿易管理イントラネット
- 企業対象暴力対策マニュアル
- 公務員との付き合い方マニュアル
- セクシュアルハラスメント防止マニュアル

■ 内部通報システム

法令・倫理などのコンプライアンス違反によるリスクの顕在化・拡大を未然に防止し、また早期に問題を把握し、対策を講じるためのしくみとして、「内部通報システム」を設置しています。これは、社内において法令に違反するような不正行為を発見した場合、中立的な立場にある弁護士会推薦の弁護士（社外弁護士）を受付窓口として通報できるようにしたものです。通報内容はコンプライアンス委員会で審議され、適切な対応につなげるしくみとしています。また、グループ各社にも展開しています。

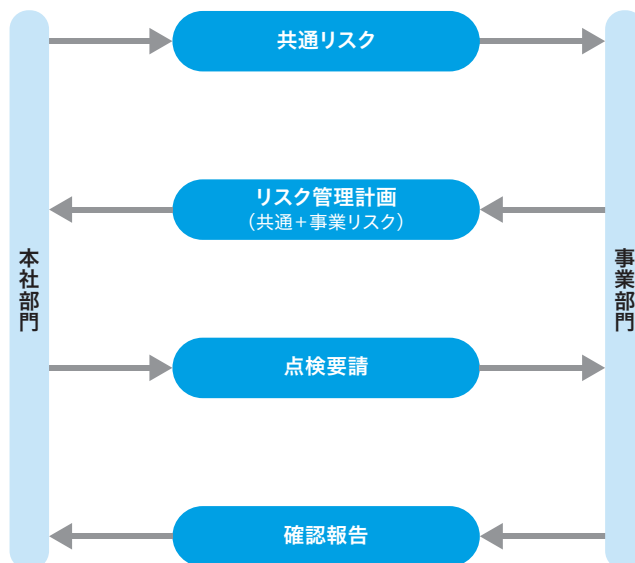


リスク管理活動

神戸製鋼グループは、自らの部署のリスクを、自らが点検し、改善につなげていくという「リスク管理活動」に取り組んでいます。

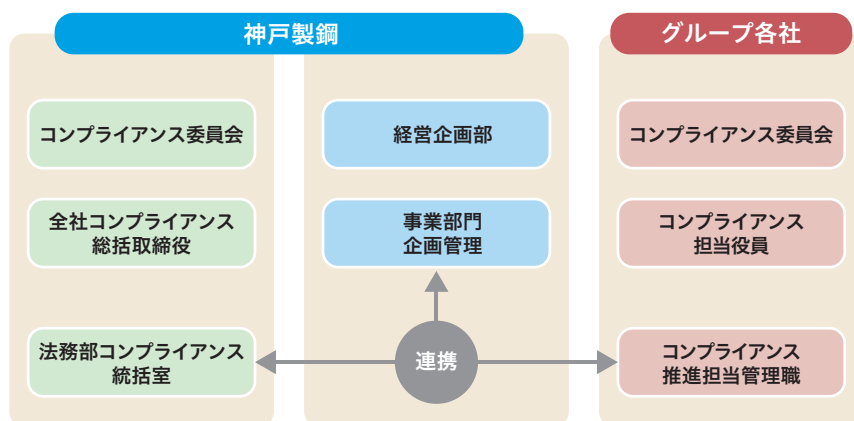
この活動は、本社スタッフ部門が、法令や社会の変化を踏まえた上で発信した全社の「共通リスク」に基づいて、各部署が独自の「事業リスク」も加えて、「リスク管理計画」を策定し、事業の中で実行していくというものです。また、年度末には、一年間の活動結果を経営トップも含めた事業部門、部署の責任者が点検・確認して、次年度以降の取り組みにつなげています。

すなわち、各事業部門の中で、コンプライアンスも含めたリスク管理のPDCA(Plan, Do, Check, Action)のサイクルが回るしくみとし、この取り組みを継続することで、それぞれの事業の中に、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化が定着することを目指しています。



グループでの取り組み

神戸製鋼グループは、グループ各社において、コンプライアンス委員会などの設置、「企業倫理綱領」の制定に加え、内部通報システムを導入しています。各社には「コンプライアンス担当役員」と「コンプライアンス推進担当管理職」を設置し、神戸製鋼と連携しながら各社での取り組みを進めています。また、グループ会社においても、神戸製鋼と同様に、リスク管理活動に取り組んでいます。



コンプライアンスに対する高い「感度」を持った企業グループを目指します。

全社コンプライアンスの総括 専務取締役 梅原尚人

神戸製鋼グループでは、法令や社会規範の遵守なくして企業の存立はあり得ないとの認識の下、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つと位置付け、その徹底に取り組んでおります。

従来より、コンプライアンスの定着を図るべく、グループ全体でのコンプライアンス体制の整備、リスク管理活動の推進、各種マニュアルの作成および周知活動の実施、階層別教育などに取り組んでまいりました。

今後とも、それらの取り組みに加え、さらなる充実に向けた施策の実行を通じて、コンプライアンスに対する「感度」の高い組織文化の醸成を図り、ステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指してまいります。



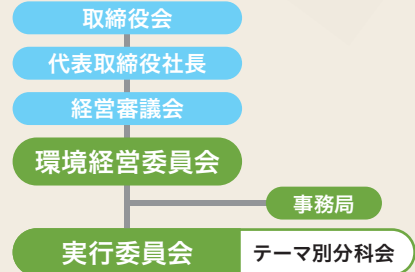
環境報告

3つのVISIONに基づく環境経営で、「環境先進企業グループ」を目指します。

神戸製鋼グループは、全ての生命体を育む健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針と、6つの実施事項を策定しています。事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

6つの実施事項を検討・提言する機関として「環境経営委員会」を設置し、グループの全従業員が参画する環境経営で「環境先進企業グループ」を目指します。

グループ環境経営推進体制



環境経営基本方針

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

<p>VISION. 1 環境に配慮した 生産活動</p>	<p>VISION. 2 製品・技術・サービス での環境への貢献</p>	<p>VISION. 3 社会との 共生・協調</p>
---------------------------------------	--	-------------------------------------

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上 (グループの環境力向上)

6つの実施事項

- | | |
|--|--|
| <p>1 あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化対策 P23~25 ● 資源循環の促進 P26~27 ● 化学物質の適正管理 P28 ● 環境負荷の低減 P29 <p>2 製品・技術・サービスでの環境への貢献 P30~34</p> | <p>3 環境関連情報の開示 P35</p> <p>4 社会との共生・協調 P41~42、53</p> <p>5 全員参加による取り組みの展開 P36</p> <p>6 リスク管理の徹底 P37~38</p> |
|--|--|

神戸製鋼グループは環境経営を着実にかつ地道に推進していきます。

環境経営委員会委員長(常務執行役員) 水口 誠

神戸製鋼グループは「環境に配慮した生産活動」、「製品・技術・サービスでの環境への貢献」、「社会との共生・協調」を環境経営基本方針として定めて実践することにより社会的責任を果たし、グループの環境力を高め、企業価値の向上に取り組んでおります。

今後もこの環境経営基本方針の下、環境活動を着実かつ地道に行い、地域の皆様と共に歩む企業グループを目指して、環境経営を推進していきます。



ECO HIGHLIGHTS

2013年度の活動ハイライト



P25 →

1 あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底

鉄鋼業界初!構内ディーゼル機関車の「アイドリングストップ化」を実現

神戸製鋼(株)は、加古川製鉄所内で運行している構内ディーゼル機関車の「アイドリングストップ化」を実現。燃料消費量を約25%削減し、CO₂排出量を年間約1,100トン減らすことが可能となりました。



P33 →

2 製品・技術・サービスでの環境への貢献

フレア護岸が「全建賞」を受賞

神戸製鋼は、高波の越波^{えつば}などを防ぐフレア護岸が評価され、国土交通省と共に「全建賞」を受賞しました。フレア護岸は、越波を抑制しながら景観や生物系を保護するなど、環境保全にも貢献しています。



P35 →

3 環境関連情報の開示

「第10回 国際水素・燃料電池展」に出展

2014年2月に東京ビッグサイトで開催された「第10回 国際水素・燃料電池展」で、水素製造・精製装置から水素ステーションまで、水素社会への一貫した取り組みを紹介しました。



P41 →

4 社会との共生・協調

第1回 KOBELO森の童話大賞

子どもたちが森へのおもいを童話にし、優秀な作品を絵本にする、環境貢献の新しい取り組みです。たくさんの応募の中から金賞の2作品を絵本化し、兵庫県内の学校や図書館へ寄贈しました。



P36 →

5 全員参加による取り組みの展開

神戸製鋼グループ環境会議を開催

環境への取り組みの横展開などを目的に、毎年開催される「神戸製鋼グループ環境会議」。2013年度はグループ会社56社を含め110名が参加し、環境負荷低減の活動事例などを共有しました。



P38 →

6 リスク管理の徹底

海外グループ会社で「現地環境調査」を実施

神戸製鋼は、日本国内に準じた環境管理体制の整備を目指し、海外の製造拠点での「現地環境調査」を毎年実施しています。2013年度は、中国、韓国、オランダのグループ会社6社で実施しました。

環境中長期目標とその取り組み

神戸製鋼グループは、環境経営基本方針に基づいた「6つの実施事項」について、2013-15年度「中期環境経営計画」を策定し、環境に配慮した事業活動を推進しています。

実施項目	長期方針	中期での目標
1 あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底	地球温暖化対策	■ 徹底した省エネルギー活動に取り組み、業界ごとの自主行動計画を達成する。
	資源循環の促進	■ 原料・副原料の使用量適正化、再資源化・新規リサイクル技術および用途の開発などを進め、業界ごとの自主行動計画を達成する。
	化学物質の適正管理	■ グループ全体で継続して化学物質を適正管理する。将来リスクの可能性のある化学物質（ジクロロメタン、鉛など）の削減・代替活動に取り組む。
	環境負荷の低減	■ きめ細かな操業管理、設備管理を継続し、ばい煙などの環境負荷低減に取り組む。
2 製品・技術・サービスでの環境への貢献	全ての製品開発・技術開発において、環境に配慮し、環境調和型製品や新たなビジネスを創出する。	■ 環境に資する高機能製品の拡販に努めると共に、バイナリー発電などによる再生可能エネルギー機器や水素社会に対応する機器などの開発・販売を推進し、低炭素社会への取り組みを強化する。
3 環境関連情報の開示	環境関連情報を積極的に開示し、利害関係者とのコミュニケーションを図る。	■ 情報開示を継続し、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図る。
4 社会との共生・協調	環境の側面から社会との共生・協調を図る。	■ 森林整備活動、子どもたちへの環境教育を進めると共に、新たな貢献活動として「KOBELCO森の童話大賞」などを含むKOBELCO GREEN PROJECTに取り組む。
5 全員参加による取り組みの展開	神戸製鋼グループの全社員が、継続して環境マインドの向上に努める。	■ 環境教育（階層別教育、e-ラーニング）による全従業員の意識・知識・気付き能力の向上を図る。また、コベルコエコライフノートの普及参加を継続して促進する。
6 リスク管理の徹底	リスク低減に向け、常に組織的、計画的に取り組む。	■ グループ全体で環境マネジメントシステムを維持整備すると共に、環境監査、環境確認調査などを実施するなど、事業所における法令遵守のためのしくみを確立していく。 ■ 海外においても、現地環境調査を継続し、海外グループ会社の環境管理レベルの向上を図っていく。

自己評価		○:計画通りに進捗 △:課題あり ×:計画未達	
2013年度の実績		2014年度の取り組み	掲載ページ
○ガスタービン設置工事に着手するなど省エネルギーに関係する設備投資案件を着実に実行すると共に、操業改善など草の根的な省エネルギー活動を推進した。	評価 ○	■経団連策定の低炭素社会実行計画の達成に向け、引き続き省エネルギー活動に取り組んでいく。	23
○2015年各業界目標を反映した計画を推進し、すでに目標を一部事業部門で達成した。グループ全体の再資源化率は約98%に改善している。	評価 ○	■各業界目標を反映した計画を円滑に推進していく。また、事業部門の垣根を越えたりサイクルに積極的に取り組む。	26
●加古川製鉄所で微量PCB廃棄物の誤出荷が発生した。原因の究明を行い再発防止策の徹底を図ると共に、情報開示を行った。	評価 △	■環境監査、グループ環境会議においてグループ会社も含め有害物質管理の周知徹底を図る。 ■化学物質(ジクロロメタン、鉛など)の削減・代替活動に取り組む。	28
●加古川製鉄所の降下ばいじん量(製鉄所影響値)は、2013年7月 3.21t/km ² /月と自主管理目標値 3t/km ² /月を超過した。	評価 △	■加古川製鉄所において再発防止策を図る。 ■引き続き、きめ細かな操業管理・設備管理を継続し、環境負荷低減に取り組む。	29
○水素・燃料電池分野で神戸製鋼グループ横断のプロジェクト体制を発足させ、水素ステーションビジネスで一定の実績をあげた。また、神戸市FCV [※] 導入促進協議会での活動など、環境ビジネスへの取り組み強化を図った。	評価 ○	■神戸市FCV [※] 導入促進協議会に積極的に参加するなど低炭素社会への貢献に取り組む。 ■エネルギー・低炭素技術分野における新たなビジネスチャンスとなる芽を探索する。	30
○環境・社会報告書、ホームページ、環境モニターなどにより環境情報を公開した。 ○各種展示会に出展し、当社グループの環境関連製品・技術の紹介を行った。	評価 ○	■引き続き、適切な情報開示を行っていく。	35
○「第1回 KOBELCO森の童話大賞」は、21都道府県347名から応募いただき、金賞2作品は絵本化し、兵庫県内小中高校・図書館などに約1,700セットを寄贈した。 ○兵庫県内2カ所に加え、大阪府茨木市内で森林整備活動を開始した。	評価 ○	■「KOBELCO森の童話大賞」が幅広く認知される活動を行い、より多くの子どもたちに参加していただけるようPR活動を展開していく。 ■森林整備活動の実施、児童館出前エコ教室への参画を継続する。	41 ・ 53
○全社階層別教育・環境講演会を行い、法令遵守意識・リスクへの気付き能力向上を図った。 ○コベルコ エコライフ ノートへの参加を奨励し、従業員の家庭における環境意識啓発を図った。	評価 ○	■e-ラーニングや階層別教育などの環境教育を継続し、環境意識の啓発を行う。 ■引き続き、コベルコ エコライフ ノートへの参加を奨励し、環境意識啓発を図る。	36
●グループ会社が運転管理を請け負っている1事業所において、環境データの不適切な取扱事象が発生した。原因の究明を行い再発防止策の徹底を図った。 ○海外においては、中国・韓国・オランダのグループ会社6社の現地環境調査を実施した。また、東南アジア・中国で、環境セミナーを開催した。	評価 △	■環境監査方法の改善を行うなど、リスク管理体制の充実・強化を図る。 ■中国での環境管理レベル向上を目的に、中国内に環境に関する相談窓口を開設する。また、引き続き、海外グループ会社に対し、環境セミナーを実施する。	37

※FCV:燃料電池車

アルミのバリューチェーン

あらゆるプロセスで、“環境負荷の低減”という価値を創出します。

原料の調達から、製品の使用段階まで。

あらゆるプロセスで、神戸製鋼グループは環境負荷を低減する努力を続けています。

中でもアルミニウム製品では、使用済み製品の多くが原料として生まれ変わる、

効率的なバリューチェーンを実現しています。

*鉄鋼や機械など他の事業部門でも、使用する原料・素材の特性にあわせたバリューチェーンを構築しています。

製品

自動車や鉄道車両を軽量化し、CO₂排出量を減らすなど、さまざまな側面で環境負荷低減に貢献しています。

長年培ってきた材料技術と製造技術を駆使して、アルミニウムを用いたさまざまな自動車部品を開発し、自動車の軽量化に貢献しています。

フード



アルミ製品の
自動車部品への
適用例

トランクリッド

ステー体型バンパービーム
(当社開発品)

サブフレーム



足回り鍛造品



サイドシル



ドアビーム(ブラケット付き)



▲スクラップ回収炉

リサイクル

アルミはリサイクルの優等生。
製品の多くは原料として生まれ変わります。

真岡製造所では、使用済みアルミ缶(UBC)を原料とするスクラップ回収炉を工場内に設置し、CAN to CANを実現しています。



物流

省エネルギーに配慮した製品出荷を心がけています。

お客様の立地条件に応じた出荷ルートの見直しなど、きめ細やかな配慮により、輸送に係るエネルギーの削減に努めています。

管理

全従業員一丸となって事務所などの省エネルギー化を進めています。

LED、メタルハライドランプなどの積極的採用、自然光の活用、および昼休みの消灯による照明電力の削減、ヒートポンプの活用、緑のカーテンの実施による空調電力の削減など、多岐にわたる省エネルギー化を進めています。

製造

各工程で設備・機器の効率化や省エネルギー化を推進しています。

溶解時の排熱を利用するリジェネバーナの採用、最新鋭のコンプレッサを用いたロス削減など、神戸製鋼グループ独自の省エネルギー技術を製造現場で多数導入しています。



▲蒸気コンプレッサ



▲溶解炉



▲アーク炉

資源の最大活用

貴重な資源であるアルミニウムを、大切に扱うものづくりに取り組んでいます。

アルミは溶解時に減損が発生します。真岡製造所では、独自開発のアルミ回収装置を用いて、減損を極力抑えたものづくりに取り組んでいます。



▲アルミ回収炉



▲回収されたアルミ

マテリアルバランス

神戸製鋼グループは、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営を展開しています。その一環として、エネルギー効率の向上と、副生ガスや排熱、水、資源などの有効利用、副産物の再資源化に継続的に取り組んでいます。

神戸製鋼における資源・エネルギーの利用状況

■ 鉄鋼事業部門

神戸製鋼のエネルギー使用総量の95%を占める鉄鋼事業部門は、2013年度に1,155万トンの鉄鉱石と616万トンの原料炭・コークス、11PJ^{※1}の石炭、石油、都市ガスなどの燃料および93万MWhの購入電力を使用しました。生産工程で生成するコークス炉ガス、高炉ガス、転炉ガスなどの副生ガスを鋼材加熱用の燃料や自家用発電所の燃料などとして、ほぼ全量を有効に活用しています。さらに、廃熱を利用した発電を積極的に実施しており、副生ガスによる発電と合わせて、生産工程で使用する電力の60%以上をエネルギー回収による発電でまかっています。

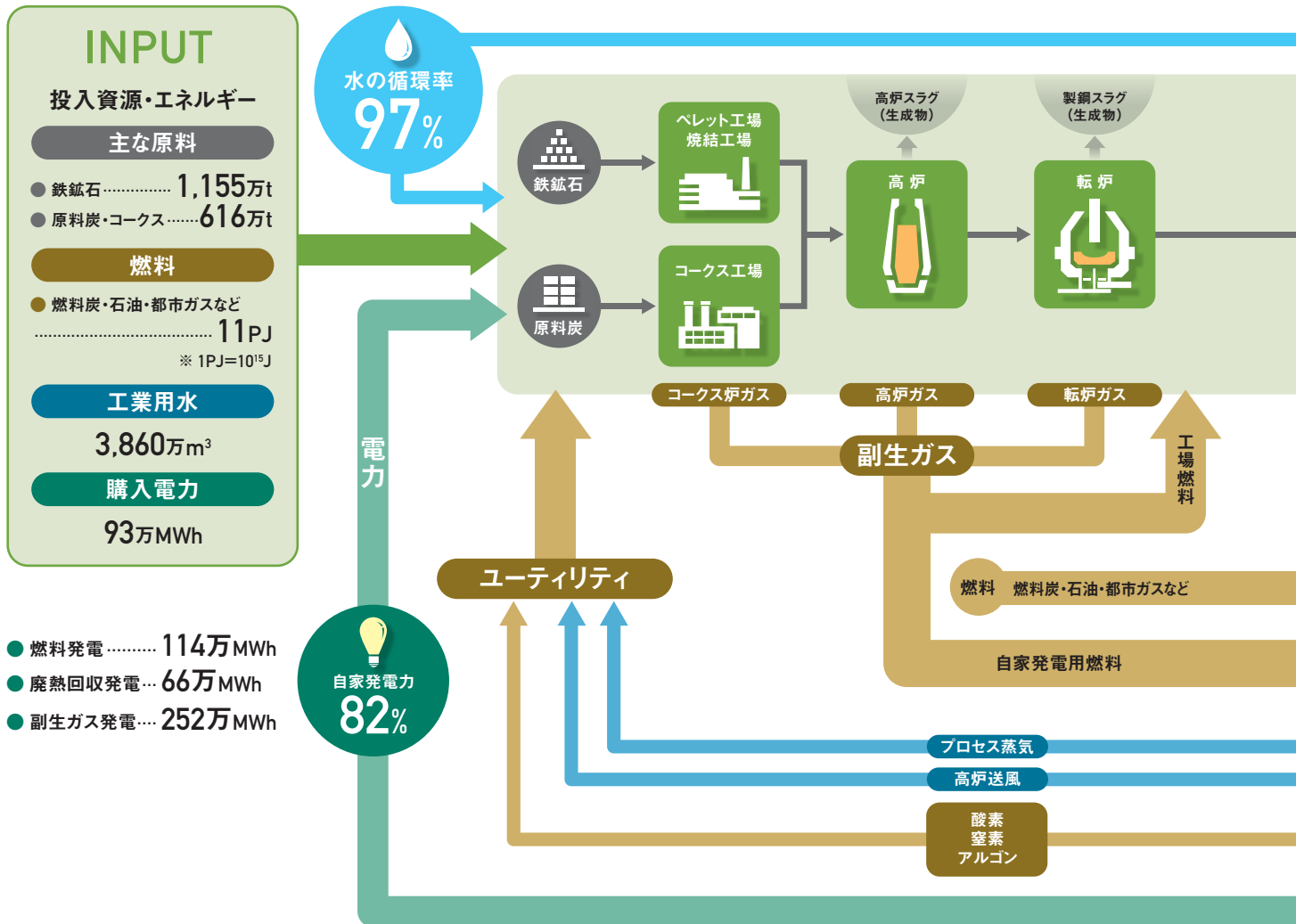
また、生産工程から生成する鉄鋼スラグ^{※2}と、ダスト、スラッジなどの副産物については、社内で原料として再利用する他、セメント用資材や路盤材にするなど有効活用を図っており、副産物の98%をリサイクルしています。

今後も、資源やエネルギーの効率的な利用およびその技術開発を進めるなど、あらゆる面で環境に配慮したものづくりを進めていきます。

※1 1PJ=10¹⁵J

※2 鉄鋼スラグ:鉄鋼精錬の際に熔融した銑鉄などから分離・回収する生成物。高炉スラグや製鋼スラグなど。

■ 鉄鋼事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2013年度)



- 燃料発電..... 114万MWh
- 廃熱回収発電... 66万MWh
- 副生ガス発電... 252万MWh

■ 溶接事業部門

溶接事業部門は、金属製の線材やフープと、溶剤、水ガラスなどを原料として、溶接に使用する溶接棒や溶接ワイヤを生産しています。2013年度は、藤沢、茨木、西条、福知山の各工場合計で、18万トンの原料と、エネルギーとして6.5万MWhの電力や0.2PJの都市ガスなどの燃料を使用して、17万トンの製品を生産しました。結果として1.7万トンの副産物が発生しましたが、そのうち98%をリサイクルしています。

● 溶接事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2013年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
線材、フープ、溶剤、水ガラスなど	18万t	溶接棒、溶接ワイヤなど	17万t
エネルギー		廃棄物	
購入電力	6.5万MWh	発生量	1.7万t
都市ガスなど	0.2PJ	リサイクル率※	98%

※リサイクル率:発生量のうち、最終埋立処分以外の処理を行った量の比率

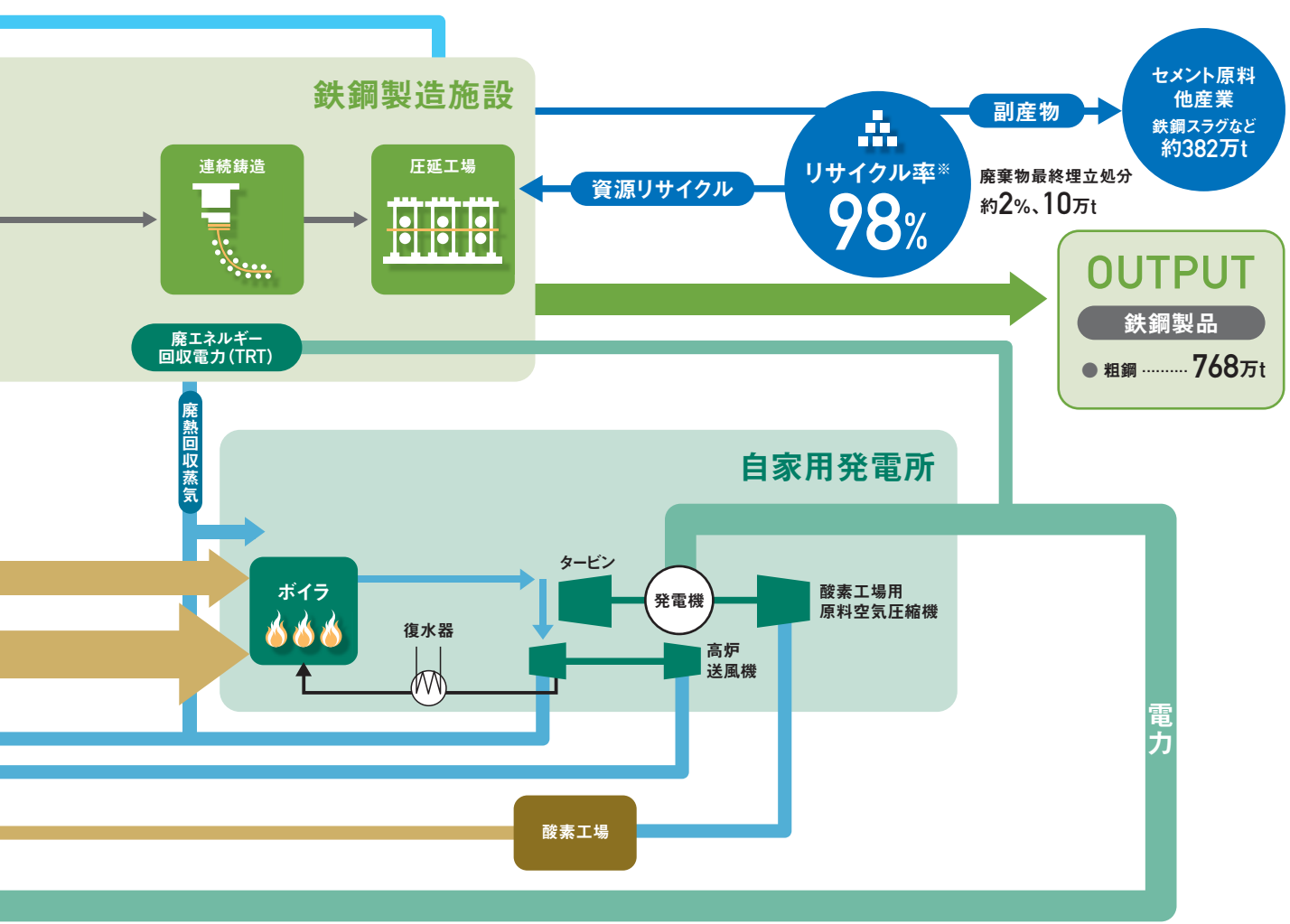
■ アルミ・銅事業部門

アルミ・銅事業部門は、アルミ、銅の地金やスクラップなどを原料として、各種アルミ製品および銅製品を生産しています。2013年度は、38万トンの原料と、エネルギーとして45万MWhの電力や3.5PJの都市ガスなどの燃料を使用して、34万トンの製品を生産しました。

溶解・铸造に伴う鉱さいや集じんダスト、排水スラッジなど、2.4万トンの廃棄物が発生しましたが、96%をリサイクルしています。

● アルミ・銅事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2013年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
アルミ地金、銅地金など	38万t	アルミ製品、銅製品	34万t
エネルギー		廃棄物	
購入電力	45万MWh	発生量	2.4万t
都市ガスなど	3.5PJ	リサイクル率※	96%



地球温暖化対策

神戸製鋼グループは、地球温暖化問題に対応して、事業活動のあらゆる面で省エネルギーなどの合理化や研究開発を推進し、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

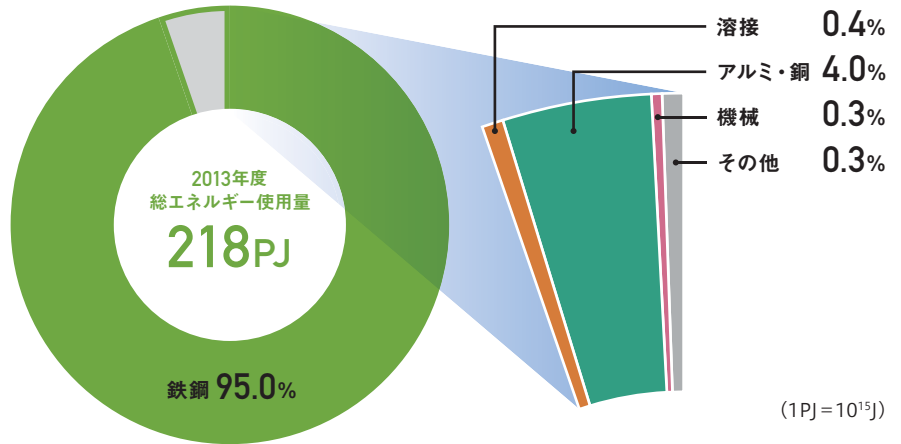
生産工程における省エネルギー

神戸製鋼グループは、2013年度、グループ全体で218PJのエネルギーを使用しました。(原油換算562万kℓ)

そのうち、約95%が鉄鋼関連事業、約4%がアルミ・銅関連事業で使用されています。

生産性改善・燃料管理改善や、高効率設備導入、排熱回収などによる省エネルギーに継続して取り組んでいきます。

事業部門別エネルギー使用量(グループ会社含む)



鉄鋼事業部門

鉄鋼事業部門では、2013年度、生産量が増加した影響もあり、エネルギー使用量は前年比で5.2%、CO₂排出量は5.9%増加しました。粗鋼1トンあたりのエネルギー原単位は1990年度比で16.7%、CO₂排出原単位は16.4%改善しました。

加古川製鉄所では、自家発電所のさらなる高効率化を目指し、高効率ガスタービン2号機の建設を行っています。

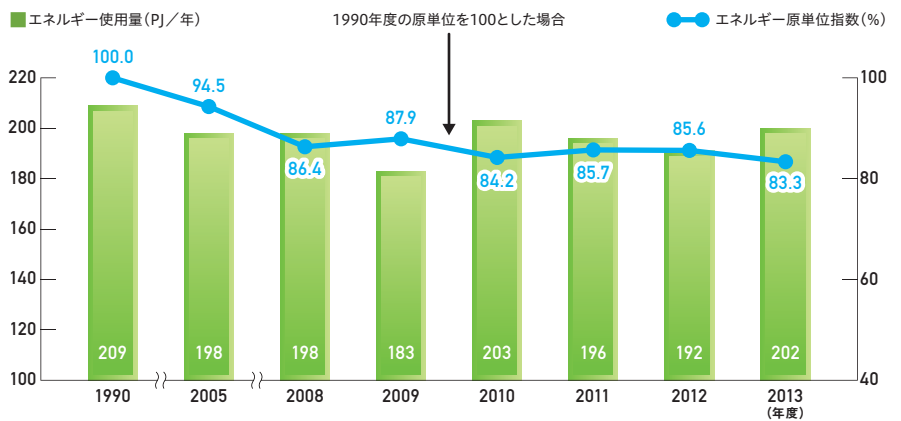
また、各事業所において、ポンプ、ファンなどの高効率化や加熱炉などの操業改善、ロス低減といったきめ細かな対策を実施しています。

今後も、業界目標である「低炭素社会実行計画」の達成に向けて、省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。



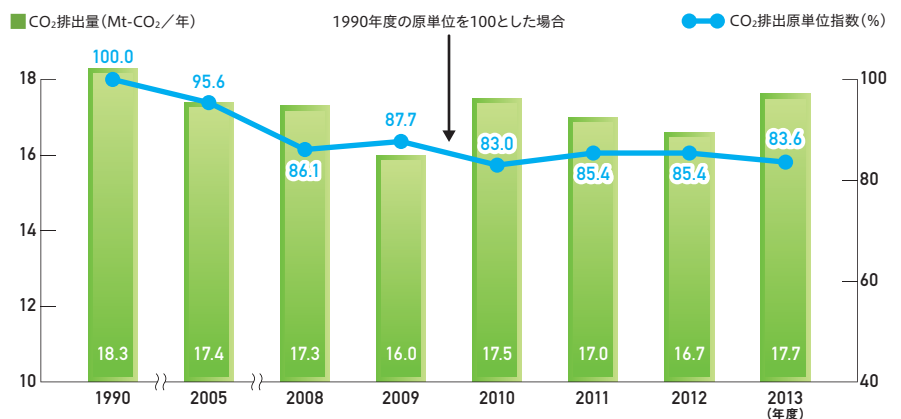
▲ガスタービン納入の状況

鉄鋼事業部門(神戸製鋼) | エネルギー使用量・エネルギー原単位指数の推移(試算値)



エネルギー原単位 Δ 16.7% (1990年度比)

鉄鋼事業部門(神戸製鋼) | CO₂排出量・CO₂排出原単位指数の推移(試算値)



CO₂排出量 Δ 3.0% (1990年度比)

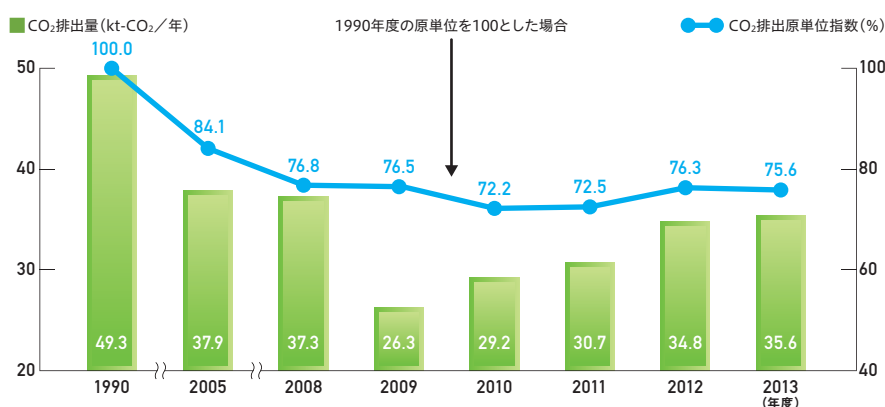
注) コークス製造を含む鉄鋼事業部門合計での試算値。2013年度の購入電力の排出係数は未公表のため、2012年度実績を使用。

■ 溶接事業部門

溶接事業部門では、生産性改善、設備の高効率化やエネルギーロス低減の取り組みなどの効果で、CO₂排出量の低減を図っています。2013年度は西条工場にて老朽化したポンプ、ボイラを高効率の機器へ更新するなどの改善を図りました。

CO₂排出量は1990年度比で27.8%低減、製品1トン当たりの排出原単位も24.4%改善しています。

溶接事業部門(神戸製鋼) | CO₂排出量・CO₂排出原単位指数の推移(試算値)



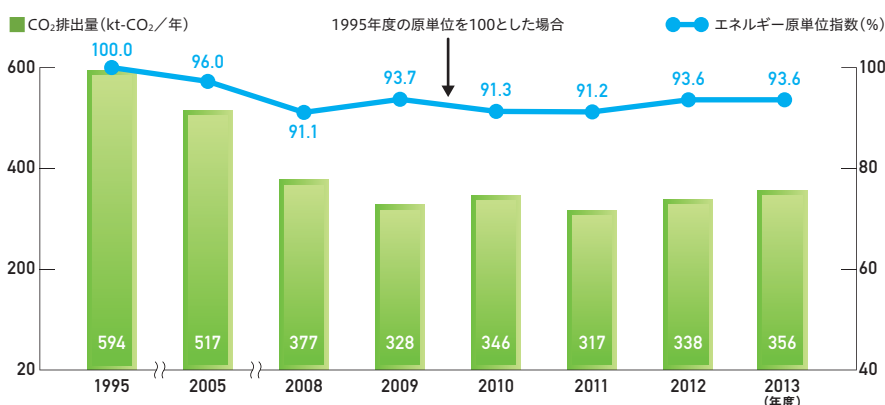
注) 2011年より、KOBELウェルディングワイヤ(株)が、神戸製鋼 福知山工場となったため、合算して集計。

CO₂排出量 Δ 27.8% (1990年度比)

■ アルミ・銅事業部門

アルミ・銅事業部門では、石油系燃料から天然ガスへの燃料転換を順次実施し、合わせて設備集約、効率化を図っています。2013年度は、大安工場にて加熱炉の断熱強化、ボイラ更新を実施しました。CO₂排出量は1995年度比で40%、エネルギー原単位も6.4%低減しています。

アルミ・銅事業部門(神戸製鋼) | CO₂排出量・エネルギー原単位指数の推移(試算値)



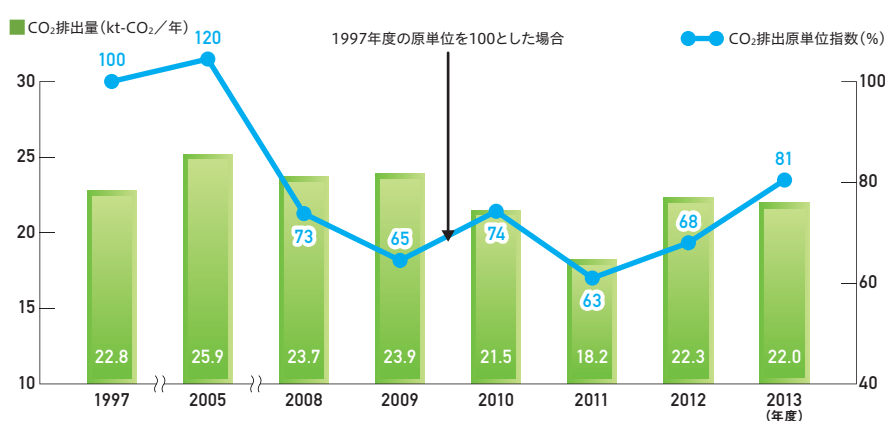
CO₂排出量 Δ 40% (1995年度比)

エネルギー原単位 Δ 6.4% (1995年度比)

■ 機械事業部門

機械事業部門では、省エネルギー型圧縮機やヒートポンプ、石油精製向け圧力容器などの需要が拡大する中、設備の高効率化、生産性改善によるエネルギー効率の改善を図っています。2013年度は、CO₂排出量は1997年度比で3.5%改善、CO₂排出原単位も19%改善しました。

機械事業部門(神戸製鋼) | CO₂排出量・CO₂排出原単位指数の推移(試算値)



CO₂排出量 Δ 3.5% (1997年度比)

加古川製鉄所の取り組み

■ “業界初”製鉄所構内ディーゼル機関車アイドリングストップ化を実現

神鋼物流(株)は、神戸製鋼が加古川製鉄所において同社に運行を委託している構内運搬用ディーゼル機関車の「アイドリングストップ化」を実現しました。これは鉄鋼業界において初めての取り組みになります。

これにより使用する総燃料消費量を約25%削減し、CO₂を約1,100トン/年、燃料コストを約25百万円/年減らすことが可能となりました。

製品の運搬には主にディーゼル機関車の列車が使用されています。構内のレールは総延長約62kmにもおよび、常時30台程度の機関車が溶銑・溶鋼などの高温状態の溶融物および鋼材製品・半製品を24時間365日体制で運搬しています。

製鉄所における機関車の運転は、待機中でも常にアイドリング状態としていることが普通となっていました。これはCO₂の無駄な発生につながるため、地球温暖化防止の観点から問題であり、加えて燃料価格が上昇傾向にある昨今ではコスト面でも負担が大きくなっているという課題がありました。

こうした状況から、神鋼物流(株)では独自でディーゼル機関車の制御系統に改良を施し、アイドリングストップ機能の追加を実現したものです。これまでも鉄道会社でハイブリッド化によるアイドリングストップ化が行われた例はありますが、ディーゼル機関車において自動車と同様にエンジンを完全にストップさせる機能は初めてとなります。



▲ アイドリングストップ機能付きディーゼル機関車

グループ会社の取り組み

神戸製鋼グループ各社においても、生産工程、物流における省エネルギーに取り組んでいます。記載事項の他に、不要時の消灯、空調設備温度管理なども実施しています。

● 取り組み事例

会社名	事業所所在地	取り組み事例
神鋼鋼線工業(株)	兵庫県尼崎市	高周波焼入装置など、各種機器の高効率化(ESCO事業に申請・契約)
	兵庫県加古川市	設備のインバータ化、高効率コンプレッサへの更新
神鋼特殊鋼管(株)	山口県下関市	各種ポンプのインバータ化 加熱設備へのセラミック輻射体導入
神鋼神戸発電(株)	兵庫県神戸市	ファン性能低下抑制改善、冷却水量調整による動力低減活動
神鋼建材工業(株)	兵庫県尼崎市	コンプレッサ運用圧力の見直し、工場照明のLED器具試験設置
神鋼ボルト(株)	千葉県市川市	工場照明、食堂照明のLED化
(株)セラテクノ	岡山県備前市	高効率コンプレッサへの更新、LED照明の導入
日本高周波鋼業(株)	富山県射水市	工場照明のLED化、製鋼工場での高効率電動機への更新
神鋼鋼板加工(株)	千葉県市川市	高効率圧縮機の導入
阪神溶接機材(株)	岡山県岡山市	コンプレッサ運用改善、電気需要の平準化(一部設備の夜間操業)
神鋼ノース(株)	茨城県かすみがうら市	工場蒸気圧力制御の改善
神鋼リードミック(株)	福岡県北九州市	工場外壁への遮熱塗料塗布、工場換気性改善などによる省電力
神鋼アルミ線材(株)	大阪府堺市	熱処理炉ファンのインバータ化
神鋼造機(株)	岐阜県大垣市	シミュレーション技術導入による加工時間のミニマム化などによる省エネルギー
コベルコ シンワ(株)	兵庫県明石市	高効率コンプレッサの導入、照明のLED化
(株)コベルコ科研	兵庫県高砂市	高効率空調設備への更新
PRO-TEC Coating Company	アメリカ オハイオ州	高効率照明への交換
神鋼新確弹簧鋼線(佛山)有限公司	中国 広東省佛山市	工場生産調整による省エネルギー(熱処理炉集中生産)
Kobelco Welding Asia Pacific Pte. Ltd.	シンガポール	高効率照明の導入
唐山神鋼溶接材料有限公司	中国 河北省唐山市	燃料転換
青島神鋼溶接材料有限公司	中国 山東省青島市	高効率照明の導入
Thai-Kobe Welding Co., Ltd.	タイ サムットプラカーン	コンベア、ブロワなどへのインバータ導入
Kobelco Welding of Europe B.V.	オランダ ヘルレン	高効率照明の導入

その他の取り組みは、ホームページをご覧ください。



http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2014/

資源循環の促進

神戸製鋼グループは、限りある資源を有効に活用するために、各事業所において廃棄物の発生を抑制するよう取り組んでいます。さらに、製造工程から得られる副産物などの付加価値を高め、再利用や再資源化を進めています。

廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

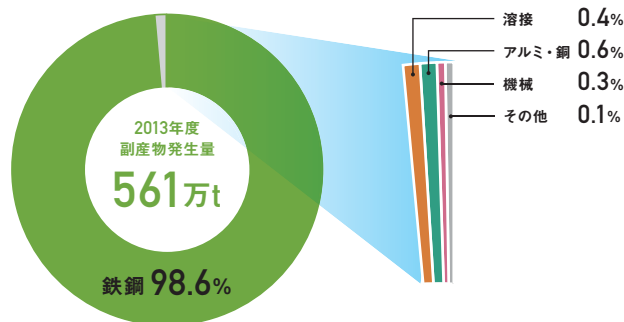
神戸製鋼グループでは、海外グループ会社を含め2013年度に総計561万トンの副産物（発生物）が発生し、そのうち98.6%が鉄鋼関連事業によるものでした。製鉄所では、製鉄工程から副次的に得られる鉄鋼スラグ[※]やダストの再資源化・高付加価値化を進めてきました。2013年度は、神戸製鋼全体で97.7%、神戸製鋼グループ全体では海外グループ会社を含め97.5%を再資源化しています。

また、原料・副原料の使用量の適正化などにより、発生量そのものを削減する根本的な対策を積極的に採り続けています。

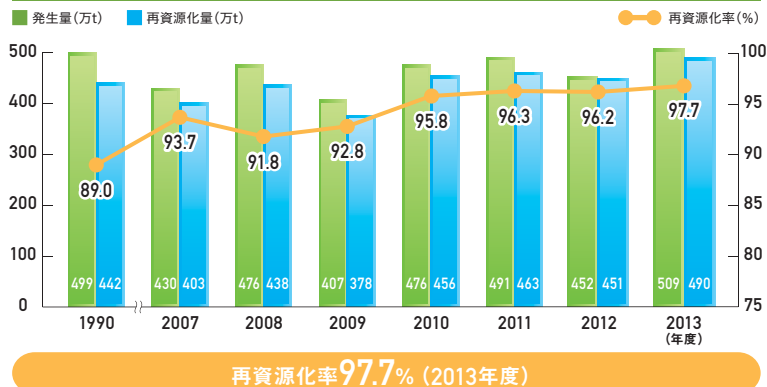
神戸製鋼グループ全体では、海外グループ会社を含め14万トンを最終埋立処分しました。今後も引き続き、廃棄物発生量の抑制対策、再資源化や新規リサイクル技術の開発、高付加価値化を通じて、採集処分量の削減を進め、2015年度の各業界での自主行動計画目標（最終埋立処分量あるいは再資源化に関する数値目標）の達成を目指します。

※ 鉄鋼スラグ：鉄鋼精錬の際に熔融した鉄鉄などから分離・回収する生成物

事業部門別発生量（グループ会社含む）



発生量および再資源化量と再資源化率の推移（神戸製鋼）



リサイクル活動の取り組み

各事業部門・各事業所ごとに、廃棄物の最終埋立処分量の削減を目的としたアクションプログラムを策定し、発生量削減・再利用やリサイクル技術開発・新規用途開発などを通じた高付加価値化に取り組んでいます。

■ 鉄鋼事業部門

発生物のリサイクル

神戸製鉄所、加古川製鉄所、高砂製作所では、スラグおよびダスト類のリサイクル技術の開発、新規リサイクル用途の開発を継続的に行っており、その結果、2013年度の最終埋立処分量は、約10万トンとなりました。

加古川製鉄所では、生産効率のさらなる向上ならびにスラグ・ダストの製鉄所内リサイクルを進めることを目的に、新溶銹処理設備を稼働させました。

2013年度、加古川製鉄所と神戸製鉄所から高炉スラグ[※]が266万トン、製鋼スラグが117万トン、副次的に生成されました。

鉄鋼スラグの新規リサイクル用途開発の一環として、兵庫県淡路島において、約1,000トン規模のスラグ石材を用いた潜堤を設置し、港湾資材としての有効性と海域環境安全性の

評価・実証試験を開始し、今後のリサイクル量拡大につなげていきます。

※高炉スラグ、製鋼スラグ：鉄鋼スラグに分類される生成物で、それぞれ高炉、製鋼工程から生成するもの。P21参照。



▲スラグ石材潜堤施工状況
(兵庫県淡路島)



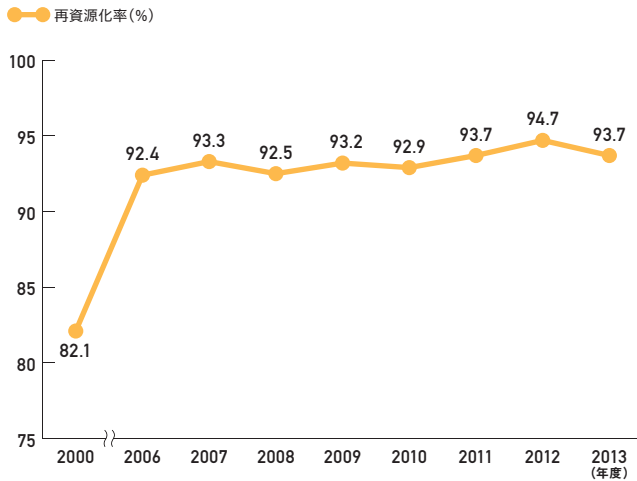
▲期待される効果
(兵庫県家島での海藻類繁茂状況)

■ アルミ・銅事業部門

アルミ・銅事業部門では、アルミ溶解炉から発生する溶解滓の有効利用をはじめ各事業所における優れた廃棄物抑制の取り組みを抽出し、水平展開を図ることで事業部門全体の資源循環率を高める活動を進めています。

長府製造所では、従来より、銅板条製品工程から発生するアルカリ脱脂廃液を産業廃棄物として委託処理しています。2013年度は、廃液処理委託量削減を目的に、減圧蒸留設備を導入しました。この結果、廃液を従来の20%程度にまで濃縮し、処理委託量の大幅削減を実現しました。

再資源化率の推移(真岡製造所)



再資源化率 **93.7%** (2013年度)

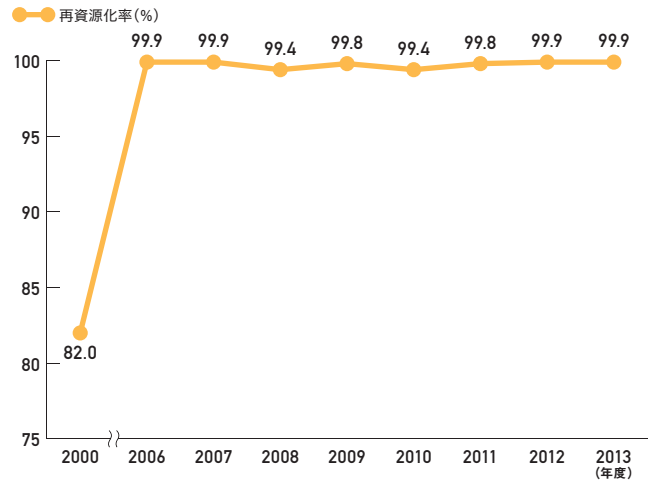
このような取り組みの結果、2013年度の資源循環率は、真岡製造所では93.7%を達成、長府製造所では99.9%という高いレベルを維持しています。

蘇州神鋼電子材料有限公司(中国)では、発生屑の低減および再利用の推進、歩留向上などの取り組みを進め、資源循環率の向上を図っています。



▲ 減圧蒸留設備

再資源化率の推移(長府製造所)



再資源化率 **99.9%** (2013年度)

■ 溶接事業部門

溶接事業部門では、事業所ごとに削減対象とする廃棄物およびその目標値を設定して、各種の対策を推進しています。そのノウハウについては、定期的開催する会議を通じて情報共有を進めています。

最終埋立処分量削減を目的に、溶接材料製造時に発生する

廃フラックス・廃潤滑剤の回収方法改善(廃棄物発生量削減)・再利用を進め、生産原単位の向上を図っています。

Kobe Welding of Korea Co., Ltd.(韓国)では、伸線潤滑剤リサイクル、汚泥の脱水・乾燥などにより、埋立処分量の削減を進めています。

■ 機械事業部門

機械事業部門では、これまで実施してきた各種の対策を確実に定着させることにより、高いレベルでの再資源化率を維持しています。非汎用圧縮機などの産業機械を生産する高砂機械センターでは、廃棄物発生量削減(発生源対策)、リサイクル対策の導入などを進めています。また、汎用圧縮機を生産する播磨工場では、製品梱包材の通い箱化などのリサイク

ルの定着により、最終埋立処分量ゼロを維持しています。Kobelco Stewart Bolling, Inc.(アメリカ)、Kobelco Compressors Manufacturing Indiana, Inc.(アメリカ)では、機械加工に用いた金属製チップを回収し、金属原料として再利用するなどの活動を展開しています。

» TOPICS

高砂製作所 「古紙分別活動の展開」

高砂製作所では、従来から、環境に関する取り組みとして、古紙の分別・紙ごみの削減を行ってきました。さらなる活動推進のため、古紙がどのようにリサイクルされているかをイラストにすることで、個人個人に、“捨てる時にちょっと考えて”もらえるよう工夫しました。活動展開後、リサイクル活用(再生紙原料などとして販売)量が約2倍に増加し、副次的な効果として、一般廃棄物として焼却処理する量の削減も図ることができました。こうした活動が、従業員の環境意識の醸成につながっています。



化学物質の適正管理

神戸製鋼グループは、国内外の基準に合わせた化学物質の適正管理の徹底、有害化学物質使用量の削減、安全性の高い物質への切り替えなどに取り組んでいます。

化学物質管理の徹底

「神戸製鋼グループ 有害化学物質管理方針」を定め、化学物質管理の徹底を図っています。

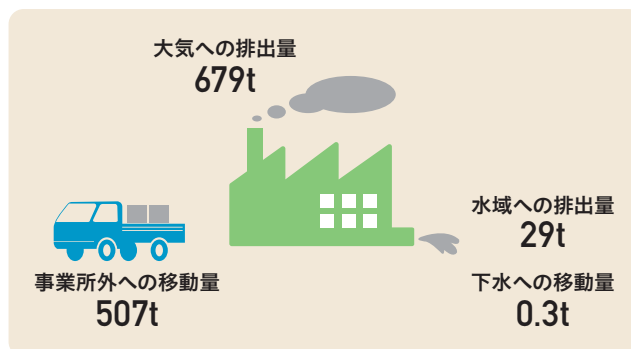
「指定化学物質に係る管理シート」により、化学物質ごとに使用方法、管理方法を明確にして、PRTR法^{※1}に関する移動・排出量の集計に活用すると共に、使用量の削減、排出量の抑制に向けた活動に取り組んでいます。

PRTR法に基づく、神戸製鋼グループ各事業所の届出予定値の合計は、取り扱い物質51種類、排出量^{※2}708トン、移動量^{※3}507トンでした。詳細は、ホームページをご覧ください。



http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2014/

●神戸製鋼グループでの排出量／移動量



※1 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register)

「特定化学物質の環境への排出量等および管理の改善の促進に関する法律」

※2 排出量は、大気・水域への排出量の合計

※3 移動量は、事業所外・下水への移動量の合計

化学物質規制への対応

化学物質規制については、規制強化の動きが日本国内はもとより世界的に進められています。神戸製鋼グループは、これらの法令について適切な対応を実施しています。

また、下記の表に示すように、化学物質排出削減活動をグ

ループ内で継続的に実施すると共に、関連法令に適切に対応するため、関連部署と情報共有や意見交換などを行っています。

廃PCB電気機器の管理

PCB(ポリ塩化ビフェニル)が含まれる使用済みのトランス、コンデンサなどについては、「PCB廃棄物の適正な処理に関する特別措置法」に基づき、専用の保管場所で管理すると共に、処理委託、届出を行っています。

神戸製鋼では、2008年度から処理委託を開始し、2013年度も継続して実施しています。

2013年度、加古川製鉄所において、微量PCBを含有した絶

縁油、当該油付着トランス本体を誤ってPCB不含有として出荷していたことが判明しました。対策として、現物照合確認を確実に実施するため、現地立会いなどの管理ルールを全面的に見直し、関係者全員に教育を実施しました。

また、同様の事象が発生しないよう、事業所およびグループ会社に周知しました。

化学物質の排出削減活動の一例

会社名	事業所所在地	活動例
西条工場	広島県東広島市	油性床面塗料を水性塗料に代替
神戸総合技術研究所	兵庫県神戸市	有機溶剤を多量に使用する実験装置に排ガス処理用の活性炭吸着装置を設置
神鋼建材工業(株)	兵庫県尼崎市	コバルトを含有する塗料を非含有のものに変更
日本高周波鋼業(株)	富山県射水市	真空ポンプの部品洗浄剤のジクロロメタンを非PRTR洗浄剤に代替 製品に塗布する塗料を有機溶剤塗料から水溶性塗料に代替 自動研磨機の研磨液を有機溶剤系から非有機溶剤系に代替
神鋼リードミック(株)	福岡県北九州市	剥離液の長寿命化(不純物の電解除去) 炭化水素系洗浄剤の蒸留再生により、使用量削減
ジャパンスーパー コンダクタテクノロジー(株)	福岡県北九州市	ジクロロメタン洗浄槽の冷却強化、密閉性強化により蒸発量を低減

環境負荷の低減

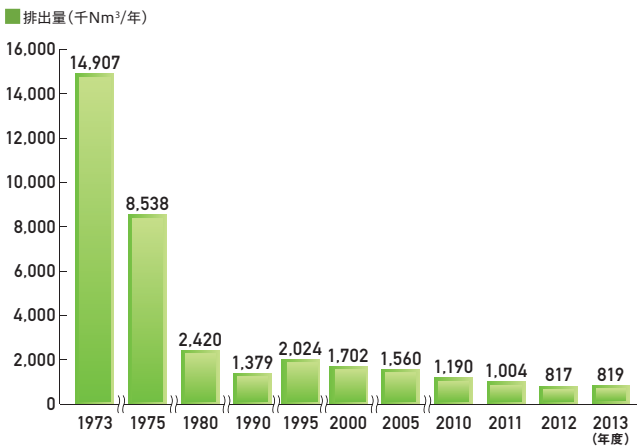
神戸製鋼グループは「環境に配慮した生産活動」を環境経営方針の一つとして位置付け、継続的な生産工程の改善、設備更新や効率の良い最新設備の導入、環境負荷物質の除害設備の導入などあらゆる面で環境に配慮したものづくりを徹底し、大気、水域などへの環境負荷の低減に努めてきました。引き続き、グループ会社も含めて、さらなる低減に取り組んでいきます。

大気汚染対策

ばい煙の排出状況

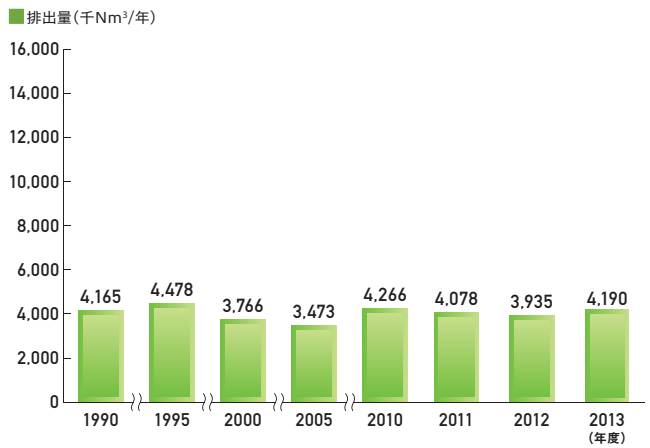
生産工程などで発生するSOx(硫黄酸化物)については、省エネルギー化による燃料の削減や低硫黄燃料の使用、都市ガスへの燃料転換などにより発生を抑制を図ると共に、脱硫などの排ガス対策を行っています。

SOx排出量の推移(神戸製鋼)



一方、NOx(窒素酸化物)については、低NOx燃焼技術の導入や省エネルギー対策により排出量の低減を推進しています。

NOx排出量の推移(神戸製鋼)

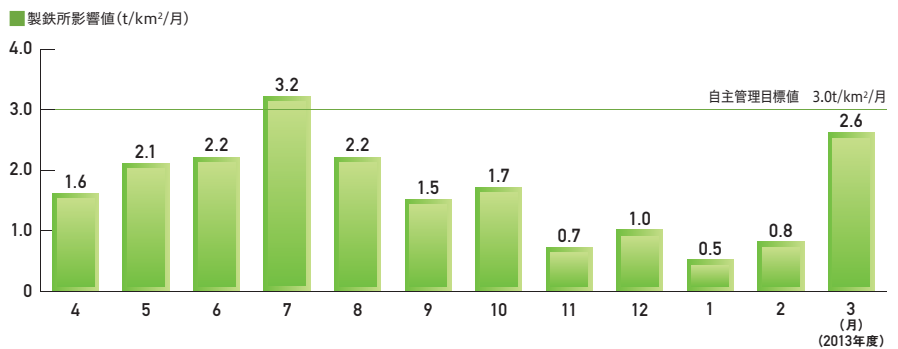


加古川製鉄所における粉じん対策

加古川製鉄所では、近隣3カ所の降下ばいじんに係る製鉄所影響値を3t/km²/月以下とする自主管理目標値を定め、種々の対策を講じてきました。

2013年度は、7月に1カ所で目標値未達成となりました。原因となった発じんの対策を実施し、8月以降は目標値を達成しています。

製鉄所影響値の推移(加古川神鋼ビル)

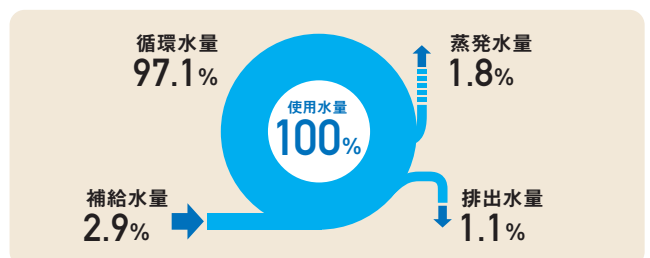


水質汚濁対策

神戸製鋼グループは、生産工程の改善や再生水の利用によって水使用量を削減しています。また、生産工程からの排水はその特性に適した処理システムで浄化し、公共水域への水質汚濁物質の負荷量を低減しています。

製鉄所では、各生産プロセスからの排水を、凝集沈殿、砂ろ過などにより浄化した後、再び所内で使用する“水のリサイクルシステム”を整えており、加古川製鉄所、神戸製鉄所における水のリサイクル率は97.1%に達しています。

●水のリサイクル状況 排出量削減の取り組み(加古川製鉄所)



製品・技術・サービスでの環境への貢献

神戸製鋼グループは、鉄鋼、アルミなどの素材分野や機械、エンジニアリング分野など幅広い分野で、これまでに蓄積した生産技術、エンジニアリング技術やノウハウを活かし、環境に配慮した製品・技術・サービスを提供することで、環境に貢献しています。

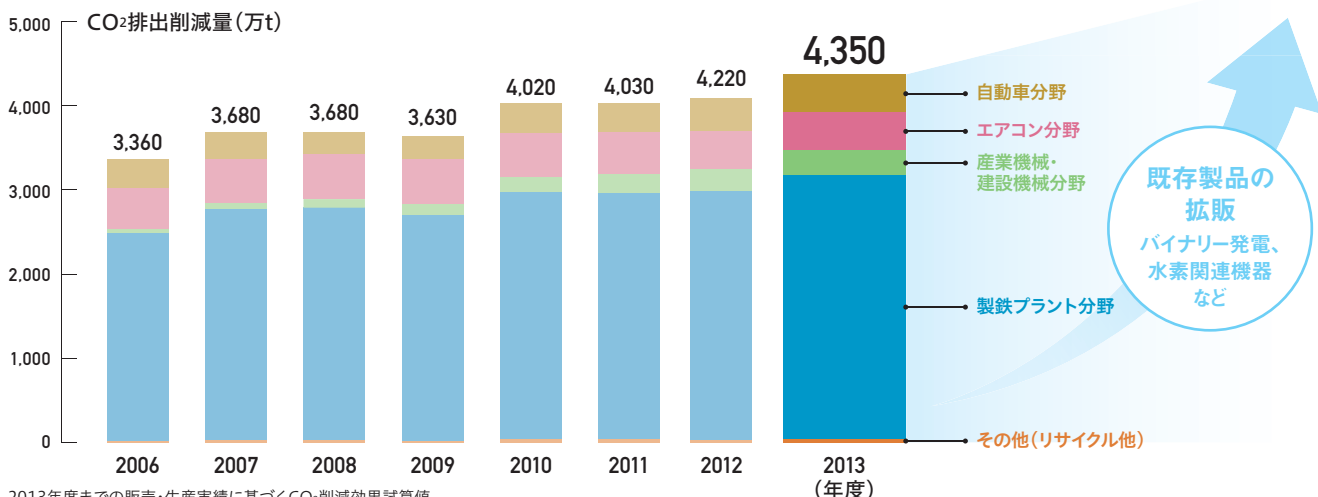
製品を通じたCO₂排出量削減

神戸製鋼グループは、オンリーワンの技術や製品を通じて、社会のさまざまな分野でCO₂排出量削減に貢献しています。



2013年度における神戸製鋼グループ製品によるCO₂排出量削減効果(海外分含む)

約4,350万トン



2013年度までの販売・生産実績に基づくCO₂削減効果試算値。
製鉄プラントの2013年度実績は、生産量が2012年度横ばいとして計算。

素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献

神戸製鋼グループは、省エネルギーや再生可能エネルギーをはじめ、環境保全に役立つさまざまな製品や技術を提供しています。環境に貢献するものづくりが、KOBELCOの使命です。

■ “世界初”の熱交換器用高伝熱チタン板(HEET™)

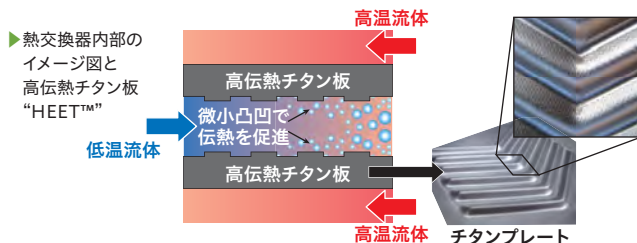
海洋温度差発電の実証事業に高伝熱チタン板を供給

神戸製鋼は、純チタン薄板分野の主要用途であるプレート式熱交換器(PHE)向けの高伝熱チタン板(HEET™)を開発し、沖縄県久米島で行われている発電利用実証事業で使用される海洋温度差発電設備の熱交換器用として供給しました。

この高伝熱チタン板は、チタン薄板の表面に微細な突起を付与することでPHEの熱伝達性能を20%以上向上させると共に、環境・省資源に配慮した製品で、海洋温度差発電設備への採用は純チタン薄板においては世界初となります。これにより、再生可能エネルギーとして注目される海洋温度差発電の実用化へ向けた発電コストの低減の取り組みが大きく前進するものと期待されています。



▲海洋温度差発電設備の外観：写真提供 沖縄県



チタンプレート

■ ヒューム発生量を半減したREGARC™プロセス

低ヒューム&低スパッタを実現した高効率な溶接プロセス

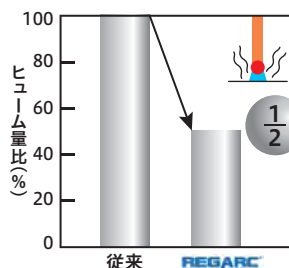
神戸製鋼が開発したREGARC™プロセスは当社独自の電流・電圧波形制御技術と、溶接総合メーカーである当社だからこそできるREGARC™にマッチした最適ワイヤMG-56R(N)などの組み合わせにより、大粒で多量のスパッタが発生しやすい大電流域においてもCO₂溶接とは思えない低ヒューム、低スパッタで高効率な溶接を実現しました。実験では、ワイヤ重量当たりのヒューム発生量1/2という結果が得られています。

近年、建築用鉄骨用に当社のREGARC™機能搭載型ロボットの販売が大幅に伸びています。

※ヒューム：煙状の微細な鉱物性粉じん



▲省スペース型鉄骨溶接システム



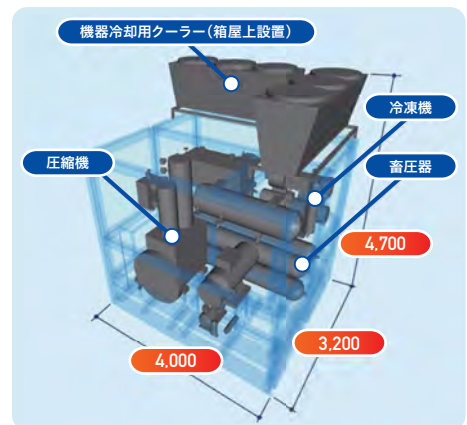
▲ヒューム発生量比較

■ 燃料電池車のための水素供給用ユニット

水素ステーション普及に向けたパッケージ型水素ステーションユニット(商品名:HyAC mini)の開発・販売開始

神戸製鋼は、水素ステーションに必要とされる主要機器の一部を集約させることで、大幅なコストダウンとコンパクト化を可能にした「パッケージ型水素ステーションユニット(商品名:HyAC mini)」を開発しました。

神戸製鋼グループでは、水素ステーション用大容量高圧水素圧縮機(HyAC)、マイクロチャンネル熱交換器(DCHE)、冷凍機などの主要機器および超高压部材用素材を製造しており、加えて、水素充填シミュレーション技術((株)神鋼エンジニアリング&メンテナンスにて開発)も有しています。これらハードおよびソフトを活用して、今後本格的な普及が期待される水素ステーションなどの水素インフラ整備に貢献していきます。



▲イメージ図

■ 工場などの排温水・排蒸気を活用する高効率・小型バイナリー発電システム

“国産初”有効活用が進んでいない110℃~130℃程度の低圧・余剰蒸気に対応した小型バイナリー発電

神戸製鋼は工場排熱や地熱などを利用して発電する、高効率・小型バイナリー発電システム「マイクロバイナリー」シリーズの新機種「MB-125S」を開発し、2013年8月より販売を開始しました。

本機種は従来、有効活用が進んでいない110~130℃程度の低圧・余剰蒸気を利用する「蒸気熱源仕様機」となり、同温度帯に対応する小型バイナリー発電機としては、国産初の商品です。地熱などの再生可能エネルギーを活用した発電に加えて、工場などの排温水・排蒸気を活用した発電への需要をさらに開拓します。



▲「MB-125S」の外観図

■ 天然ガスを利用する還元鉄プラント

voestalpine社 米国HBIプロジェクトにおけるMidrex還元鉄プラントの新規受注

神戸製鋼の米国子会社であるMidrex Technologies, Inc.とSiemens Industry Inc.のコンソーシアムは、voestalpine社から、米国テキサス州コーパスクリスティ市近郊に建設予定の年産能力200万トンの還元鉄プラントを受注しました。

今回受注した還元鉄プラントはMIDREX方式としては世界最大の生産能力となり、生産された還元鉄は、2016年初頭には出荷が開始される予定です。

天然ガスを還元剤とした還元鉄を使用することによって、voestalpine社はCO₂総排出量の削減を図ることが可能となります。



▲ホットブリケットアイアン「HBI」
(還元鉄を塊成化したもの)

■ 藻や微生物を抑制する新抗菌技術

高機能抗菌めっき技術『KENIFINE®(ケニファイン)』の植物プラントへの初採用

神戸製鋼が開発した高機能抗菌めっき技術「KENIFINE®(ケニファイン)」のさまざまな用途を探求することで、現在、飲食品や医療福祉、電機・空調、一般消費財、漁業などの分野で、優れた抗菌技術として利用が広がっています。

兵庫県伊丹市では、大阪府立環境農林水産総合研究所および森村商事株式会社の協力下で、地元経済の活性化や日本の食料自給率の向上などを目指して植物プラントを新設した田中住建株式会社グループの株式会社TJクリエイト様に、ケニファインを農業分野としては初めてご採用いただきました。同社では、本格的な植物プラントを建設するテストプラントで微生物に対する抗菌やその繁殖の温床となる藻の抑制のため、植物プラント内の床や壁などにケニファイン水系コートを塗布しています。今後は、その有効性と使用条件を検証しながら、使用範囲の拡大を進めていただく計画です。



▲株式会社 TJクリエイト



▲植物プラント

■ 液晶や有機ELなど、フラットパネルディスプレイ(FPD)の高機能化に貢献する評価装置

世界初、成膜直後やTFT形成前のプロセス段階でのインライン評価が可能となったFPD向け酸化半導体評価用差動マイクロPCD装置の開発・本格販売開始

(株)コベルコ科研はFPDの薄膜トランジスタ(以下TFT)に用いられる酸化半導体の特性を評価することが可能な差動マイクロPCD装置を開発しました。

本装置の実現により、TFTを形成することなく、インラインでのTFT特性評価が世界で初めて可能となりました。これにより、高輝度化・低消費電力化の実現に向けて注目の高い酸化半導体の歩留向上に貢献します。



▲差動マイクロPCD装置(LTA-2850SPHII/M2)

■ 森林整備に貢献する「カーボン・オフセット」プログラム

コベルコ建機(株)では、環境省が発行する温室効果ガスの排出削減・吸収量の証明であるオフセット・クレジット(J-VER森林吸収クレジット)を林業機械に付加することにより、お客様の機械稼働により生じる温室効果ガスの一部をカーボン・オフセットします。また、オフセット・クレジットの発行者や発行プロジェクトの選択が可能で、施業地域をはじめお客様のご希望の地域の森林整備に貢献できるプログラムです。

このプログラムによる資金は日本国内の森林整備事業に役立てられます。カーボン・オフセットとは、自らが排出する温室効果ガス(CO₂など)の量のうち、どうしても削減できない量の全部または一部を、他の場所で削減された温室効果ガスで埋め合わせ(オフセット)することです。



▲作業中のアセラジオスペックSK75SR-3F

社外からの表彰


神戸製鋼グループの環境に配慮した製品・技術・サービスは、社外からも高い評価を得ています。

■ 西条工場の省エネルギー活動が省エネ大賞「省エネルギーセンター会長賞」を受賞

神戸製鋼は、2013年度省エネ大賞の省エネ事例部門において、「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。省エネルギーセンターが主催する同賞は、省エネルギーに関する取り組みについて、優れた成果を表彰するものです。

西条工場では、省エネルギー活動の一環として、生産工程に欠かせないボイラ設備に着目し、無駄な燃焼排除やエネルギーロスの防止といった地道な取り組みを進めてきました。その結果、省エネルギー化とCO₂排出量削減という大きな成果を達成したことが評価され、今回の受賞となりました。

詳細についてはホームページをご覧ください。

 http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/awards/2014/1189207_13903.html



▲ 省エネ大賞 表彰式

■ フレア護岸が「全建賞」を受賞


神戸製鋼は、国土交通省と共に、全日本建設技術協会主催の「全建賞」を受賞しました。

本賞は、建設技術の活用並びに公共事業の進め方の工夫などにより、優れた成果を得られた事業を表彰するものです。

大分県にある別大国道は、重要な幹線道路ですが、台風に伴う越波の影響などで通行規制が頻発していました。この問題を解決する一つ的手段として、神戸製鋼のオンリーワン製品であるフレア護岸が採用されました。

フレア護岸は、越波を抑制しながら、従来よりも護岸高さを低くでき、景観性や生態系の保護、護岸上部の歩道などへの有効活用といった環境保護への寄与が可能なが評価され、今回の受賞となりました。

詳細についてはホームページをご覧ください。

 http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/awards/2013/1188517_13625.html



▲ 全建賞 受賞式

■ 神戸本社ビルが「神戸市都市デザイン賞(CASBEE建築部門)」を受賞

神戸製鋼本社ビルは、神戸市選定の「第2回神戸市都市デザイン賞(CASBEE建築部門)」を受賞しました。

本賞は、神戸らしい魅力ある空間・環境を形成している建築物の内、環境に配慮した優れた取り組みを表彰するものです。

神戸製鋼本社ビルは、傾斜窓の採用・建物の立体化による熱負荷の抑制、執務室の全照明器具のLED採用、太陽光発電パネル設置によるエネルギー消費の抑制といった、環境に配慮した取り組みが高く評価されて、今回の受賞となりました。

詳細についてはホームページをご覧ください。

 http://www.kobelco.co.jp/releases/2014/1189180_13888.html



▲ 神戸本社ビル

● その他の受賞実績

受賞対象	主催団体	表彰名
加古川製鉄所 エコ通勤	国土交通省	交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰
(株)神鋼環境ソリューション 都心型バイオガスシステムの開発と商品化	環境省	地球温暖化防止活動環境大臣表彰(技術開発・製品化部門)

研究開発での環境への貢献

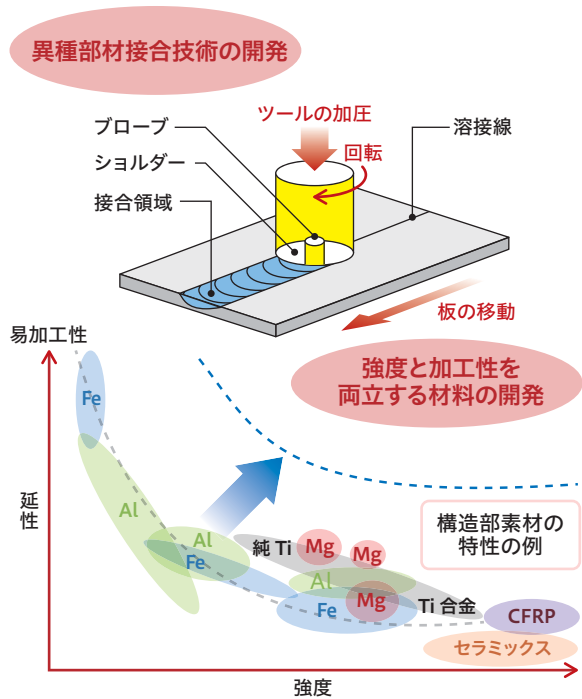
自動車からのCO₂排出量削減に貢献する素材技術の開発

神戸製鋼は、自動車からのCO₂排出削減に資する、材料の軽量化、接合、構造設計技術の研究開発に取り組んでいます。当社グループの強みである高張力鋼板（ハイテン）、アルミなど、多様な素材のそれぞれの長を最大限活用する技術を開発することで、環境負荷低減に貢献していきます。

神戸製鋼は独自開発を進めると共に、新構造材料技術研究組合（略称：ISMA）が推進する経済産業省「革新的新構造材料等技術開発」^(※)にも参画しています。神戸製鋼は材料メーカーとして参画、輸送機器メーカーなどとも協働し、わが国の技術的優位性を活かした実用化開発に取り組めます。

※ 本プロジェクトは、2014年度から独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業となります。

開発の狙い



ISMA実施体制

新構造材料技術研究組合（略称：ISMA）

研究統括：岸 輝雄（東大名誉教授）

1 接合技術開発

- 東レ ● 神戸製鋼所 ● 新日鐵住金 ● JFEスチール ● マツダ・UACJ
- 川崎重工・住友電工・新日鐵住金 ● IHI
- 日立製作所・日立パワーソリューションズ・日立金属・日立メタルプレジジョン・田中貴金属

新たに開発した材料の接合技術（同種材料、異種材料）

革新的チタン材の開発

- 神戸製鋼所
- 新日鐵住金
- 東邦チタニウム

革新的アルミニウム材の開発

- UACJ
- 産総研
- 神戸製鋼所

革新的マグネシウム材の開発金属

- 産総研
- 三協立山
- 住友電気工業
- ニコライトメタル
- 大日本塗料
- 総合車両製作所

革新鋼板の開発

- 神戸製鋼所
- 新日鐵住金
- JFEスチール

CFRPの開発

- 名古屋大学 ● 三菱レイヨン
- カドコーポレーション ● 東洋紡
- スズキ ● タカギセイコー
- IHI ● 本田技術研究所
- 三菱自動車工業 ● 東レ
- 日産自動車 ● アイシン精機
- 福井ファイバータック ● 産総研
- 住友重機械工業 ● 共和工業
- 島津製作所 ● 小松製作所
- トヨタ自動車 ● 東邦テナックス
- 富士重工業

2 個別課題

研究戦略策定、実用化に向けた課題抽出、共通基盤研究など

3 戦略・基盤研究 全組合員

※ ISMAは、自動車を中心とした輸送機器の抜本的な軽量化に向けた技術開発および輸送機器の主要な構造材料である鋼材、アルミニウム材などの高強度化等に係る技術開発の推進を目的とした団体で、2013年10月に設立されました。

環境関連情報の開示

神戸製鋼グループは、環境経営に関わる活動をステークホルダーの皆様へ正しくお伝えするために、環境情報を積極的に公開しています。事業所においては、地域の皆様との対話を定期的を実施するなど、環境コミュニケーションにも取り組んでいます。

環境・社会報告書の発行

神戸製鋼は、環境報告書の第1号を1999年に発行して以来、毎年環境への取り組みを紹介しています。2006年からは社会性の取り組み内容と共に「環境・社会報告書」として発行しています。今後も神戸製鋼グループの環境経営に関わる活動の成果を広くお伝えできるように努めていきます。より詳しい環境データや取り組み事例、過去の報告書は、ホームページをご覧ください。



http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/

展示会への参加

神戸製鋼グループは、展示会への出展などを通じて環境に貢献する製品・技術・サービスを紹介します。

2013年度は、「国際フロンティア産業メッセ2013」、「メッセナゴヤ2013」、「第10回 国際水素・燃料電池展 (FC EXPO 2014)」などに出展しました。

2014年2月26日～2月28日に東京ビッグサイトで開催された「第10回 国際水素・燃料電池展 (FC EXPO 2014)」は、この分野では世界最大規模の展示会です。神戸製鋼グループは、水

素製造・精製装置などの供給側から、高圧水素圧縮機や熱交換器、水素ステーションエンジニアリング、さらには試験装置を含めた、水素社会への取り組みを幅広く紹介しました。



▲ FC EXPO 2014

公開モニターによる環境情報の開示

加古川製鉄所および神戸製鉄所では、製鉄所のばい煙排出量などの環境情報を、各地に設置したモニターを通じてリアルタイムで公開しています。

加古川製鉄所環境情報公開モニター設置場所	加古川市役所、播磨町役場 別府および尾上の地元町内会の公民館
神戸製鉄所環境情報公開モニター設置場所	灘浜サイエンススクエア 灘浜ガーデンバーデン

地域社会とのコミュニケーション

環境保全の取り組みをご理解いただくために、加古川製鉄所、神戸製鉄所にて地域の皆様への現地説明会を実施し、合計126名の方に参加いただきました。

また、環境に関するお問い合わせ窓口として、加古川製鉄所と神戸製鉄所に環境フリーダイヤルを開設しています。今後も皆様の一つひとつのご意見に耳を傾けていきます。

環境会計

神戸製鋼グループは、環境保全活動に継続的に取り組んでいます。環境保全活動に関わる費用と効果を把握し、ステークホルダーの皆様にご理解を深めていただくため、情報を開示しています。

環境関連投資と環境保全効果

神戸製鋼では、環境負荷低減のために環境対策設備の新設や維持管理に継続して投資を行い、さまざまな面から環境対策を進めています。環境保全活動を進めるため、2013年度は以下のような取り組みを実施し、約19億円を投資しました。

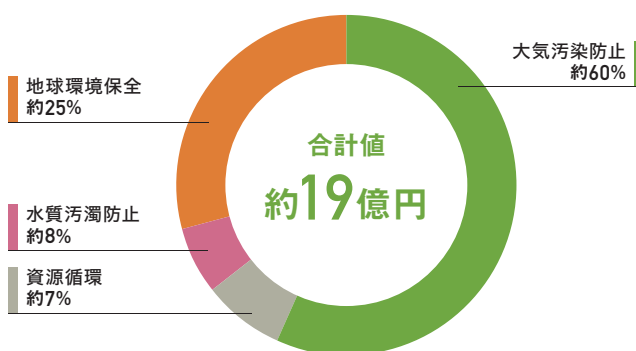
- 新溶銑処理工場への高効率集塵機、廃熱回収ボイラの設置 (加古川製鉄所)
- めっき設備床面の更新 (長府製造所)

また、2013年度の費用額の合計は約342億円で、その内訳は大気汚染防止に約33%、水質汚濁防止に約15%、資源循環に約30%となっています。また、製品・技術・サービスでの環境への貢献として、海洋温度差発電設備の熱交換器や、燃料電池車のための水素供給用ユニットなどの開発など、製品・技術開発に総費用額の約15%にあたる約51億円を投じています。

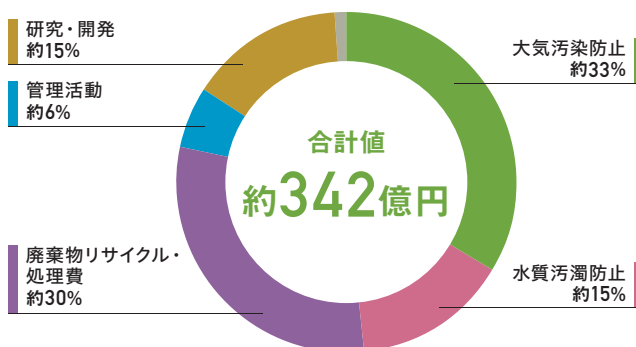
効果の詳細については、P23～25「地球温暖化対策」、P26～27「資源循環の促進」、P30～32「製品・技術・サービスでの環境への貢献」をご覧ください。

今後も、設備更新をはじめ、環境保全に関わる活動を継続的に実施していきます。

2013年度 投資額の内訳



2013年度 費用額の内訳



全員参加による取り組みの展開

神戸製鋼グループの全従業員が、環境に関する意識を高め、常に環境に配慮した行動が行えるよう、環境教育・学習を継続して実施すると共に、環境家計簿(コベルコ エコライフ ノート)やエコオフィス活動などの取り組みを推進しています。

環境意識の向上

■ 神戸製鋼グループ環境会議

神戸製鋼グループは、環境情報の共有化、環境への取り組みの横展開などを図ることを目的に、毎年「神戸製鋼グループ環境会議」を開催しています。

2013年度はグループ会社56社を含め110名が参加し、各事業所での環境負荷低減などの有益な活動事例や失敗事例の発表、法令改正内容の確認などを行いました。



▲ 神戸製鋼グループ環境会議

■ 環境教育・学習

神戸製鋼は、2006年度から環境教育・学習を階層別(事業所の職制ごと)の教育に織り込み、継続的に実施しています。また、イントラネットを利用したe-ラーニングを定期的に行い、従業員の環境意識向上と環境法令の周知徹底を図っています。

■ 環境関連資格取得の推進

環境管理の取り組み強化や環境意識の向上を図るべく、公害防止管理者やエネルギー管理士など事業所ごとに必要な資格取得を推進しています。

リスク管理の徹底

神戸製鋼グループは、事業活動に伴う環境リスクを把握し、リスク低減活動を実施すると共に、日常の管理手順を定め、適切な管理を実施しています。また、環境監査などの活動を通じて、法令遵守の徹底や環境管理の強化に継続して取り組んでいます。

環境管理の向上

神戸製鋼の事業所については、ISO14001などの環境マネジメントシステム(EMS)を導入し、事業所内で内部監査を実施すると共に、外部の認証機関による審査を受けています。また、社内規程に基づき、全社環境統括部門(本社)による書面および現地監査を実施して環境管理レベルの向上を図っています。

グループ会社についても、書面による調査を実施しています。また、環境リスクの大きい事業所にはEMSを導入し、自主的な環境活動を実施すると共に、神戸製鋼本社による現地環境確認調査も実施しています。

現地監査には社外のコンサルタントにも参画いただき、客観的かつ正確な監査に努めています。

現地監査用の確認項目リストは、事業所別に作成しており、2012年度より、監査前に事業所にて自己評価を実施する方法に変更しています。自己評価の結果を事前に確認することで、現地監査を効率よく実施しています。



▲ 環境確認調査((株)セラテクノ 加古川工場)

環境リスクへの対応

神戸製鋼グループの対応として、毎年実施している書面による監査の範囲を広げ、環境データの取り扱いに関する項目の拡充を図りました。

また、グループ全体の環境を含むコンプライアンス意識徹底のさらなる強化を図るため、兵庫県農政環境部環境管理局長を講師として招き、環境講演会を開催しました。環境担当者以外にも幅広く召集し、約150名が参加しました。



▲ 環境講演会

緊急事態対応訓練

各事業所にて、環境リスクを抽出しリスク低減を図ると共に、緊急事態対応の訓練を定期的に行っています。

訓練後は、反省会などで課題を抽出し、PDCAを回しています。

2013年度の行政による指示・指導

神戸製鋼およびグループ会社において、環境法令について重大な違反はありませんでしたが、関係行政から指示や指導を受けました。

● 行政による指示・指導件数

	大気	水質	その他
神戸製鋼	0	2	0
グループ会社	1	1	2

● 行政による指示・指導の事例

- 届出が必要な環境関連設備の届出漏れが判明し、届出書を提出し、従業員へ再教育を実施しました。
- 行政立ち入り時、届出書の記載の不備を指摘され、修正しました。
- 行政の排水立入検査において、pHが規制値を超過しており、改善指示を受けました。原因を調査し、管理方法を見直し、従業員へ教育しました。

海外事業所におけるリスク管理活動

神戸製鋼グループは、グループの環境経営基本方針に則り、世界各地に広がるグループ事業所での環境管理の徹底を図っています。

海外グループ会社の現地環境調査を実施

神戸製鋼グループでは、国内の事業所・グループ会社と同様に海外グループ会社においても、将来的には日本国内に準じた環境管理体制を整備していくこととしています。そのために、2009年度より世界各地の製造拠点を対象として神戸製鋼本社が主体となった「現地環境調査」を行い、現地の環境管理状況を確認しています。

2013年度は中国、韓国、オランダにおいて生産拠点となっているグループ会社6社について、環境管理状況の実態把握と問題点の抽出を現地調査で行い、その結果をもとに必要な是正措置を行いました。2014年度も引き続き、海外事業所の現地調査を継続して実施します。



▲ 水処理設備の確認(中国)



▲ 集じん機の確認(中国)

2013年度現地環境調査対象グループ会社

中国: 青島神鋼溶接材料有限公司、無錫圧縮機股份有限公司
成都神鋼建設機械有限公司、成都神鋼起重機有限公司
韓国: Kobe Welding of Korea Co., Ltd.
オランダ: Kobelco Welding of Europe B.V.

情報共有体制

神戸製鋼グループでは、グローバル環境管理を推進するため、海外グループ会社と神戸製鋼との間での定期的な情報共有体制を構築し、コミュニケーションを図っています。今後もこの取り組みを継続し、環境リスクの低減に努めていきます。

世界各地での取り組み

■ 北米EHSミーティングの開催

米国の神戸製鋼グループを統括するKOBELCO STEEL USA INC. (KSU) では、毎年11月にニューヨークにおいて、EHS (Environment, Health & Safety) ミーティングを開催し、各社の取り組み状況の報告や、識者の講演を行っています。

2013年度は日本からも参加し、神戸製鋼グループの環境管理方針などを説明し、意見交換を行いました。



▲ EHSミーティング

■ グループ会社代表者会議での環境セミナーの開催

神戸製鋼グループでは北米、中国、東南アジア・インドの3地域について、それぞれ現地グループ会社の代表者会議を開催しています。2013年度は中国、東南アジア・インドの2地域の代表者会議に日本から参加し、神戸製鋼グループの環境管理方針などを説明し、意見交換を行いました。今後も世界各国のグループ会社経営者に向けて、環境リスク管理活動の重要性を説明していきます。



▲ 東南アジア・インド代表者会議

TOPICS

海外事業所での環境マネジメントシステム構築

Kobelco Welding of Europe B.V. (KWE) (オランダ) は、2012年9月に環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得しました。KWEはオランダのヘルレンでステンレス鋼用フラックス入りワイヤ・軟鋼用フラックス入りワイヤの製造・販売を目的に1994年に設立されました。

KWEでは、梱包に利用するパレットの再利用、木材のリサイクルなどを実施し資源循環を促進しています。また、油分洗浄に生物系の洗浄剤を用いるなど、化学物質の削減にも努めています。



▲ Kobelco Welding of Europe B.V.

社会性報告

多様なステークホルダーの皆様と、共に生き、共に発展する企業グループを目指します。

社会貢献活動の考え方

お客様・お取引先様、株主様・投資家様、地域社会の皆様、一人ひとりの社員…。
多様なステークホルダーと“信頼”というつながりを創ることが、神戸製鋼グループの社会貢献活動の基本姿勢です。
それぞれのステークホルダーの立場を尊重し、さまざまなご意見・ご指摘に応え、身近な企業市民としてふれあうことで、企業としての社会的責任を果たしてまいります。
神戸製鋼グループは、ステークホルダーの皆様と、共に生き、共に発展する企業体を目指します。

お客様・お取引先様

優れた製品・サービスの提供を通じて、お客様やお取引先様の期待と信頼にお応えします。

P45~46

株主様・投資家様

経営の透明性を高め、グループ全体での企業価値向上を図ることで、健全で良好な関係づくりに努めます。

P47~48

地域社会の皆様

地域に息づく良き企業市民の一人として、各地の事業所を起点に、環境保全活動を支援し、地域社会とふれあい、貢献する活動を続けます。

P49~53

海外の現地社会

海外の文化や慣習を尊重し、その国の企業の一つとして現地社会の発展に貢献する活動を目指します。

P54

社員

社員の人格・個性や人権を尊重し、多様な人材がのびのびと活躍できる職場環境づくりを進めます。

P55~56

ご意見・ご指摘

活動のステップアップ

KOBELCO

HIGHLIGHTS ON SOCIETY

2013年度の活動ハイライト



P45 →

●お客様・お取引先様

ものづくり力を強化する 「ものづくり推進リーダ会議」

ものづくり推進活動を強化するため、各工場の代表者が集まる「ものづくり推進リーダ会議」を定期的に開催。社内外でのものづくりの先進事例や各工場の改善事例の共有化を図っています。



P48 →

●株主様・投資家様

株主の皆様の事業所見学会を実施

株主の皆様に神戸製鋼グループへの理解を深めていただくため、2007年より毎年事業所見学会を実施しています。これまで合計13回開催し、3,535名の皆様に6つの事業所をご見学いただきました。



P43 →

●地域社会の皆様

神戸製鋼ラグビー部の社会貢献活動

神戸製鋼ラグビー部「コベルコスティーラーズ」は、高校ラグビーへの協賛、東日本大震災の復興支援活動など、スポーツを通じた多彩な社会貢献を続けています。



P54 →

●海外の現地社会

マレーシアでの森林保護活動を支援

コベルコ建機(株)は、広島大学と連携し、マレーシアの森林保護活動を支援しています。マレーシア・パソにおいて開催された「森林保護活動植樹祭式典」にグループ社員5名が参加し、小中学生とも交流を深めました。



P55 →

●社員

次世代育成認定マーク『くるみん』を取得

仕事と生活の両立を支援する環境整備を進めています。この取り組みが評価され、2012年11月に次世代育成認定マーク『くるみん』を取得しました。

社会貢献活動クローズアップ1

第1回 KOBELCO 森の童話大賞

～ 森へのおもいを、おはなしに～

「森」と「子ども」2つのキーワードから生まれた新しい環境貢献活動です。

神戸製鋼グループでは、さまざまな環境・社会貢献活動をKOBELCO GREEN PROJECTと名付け、グループ全体として活動していくこととしました。「森」はたくさんの生きもののいのちを育み、私たちの暮らしに豊かな恵みを与えてくれるとても大切な存在です。また、次代を担う「子ども」たちに環境を大切に思う心を育てていきたいというおもいから、「KOBELCO森の童話大賞」をスタートさせました。

絵本を読んで、皆様が森をはじめとする自然や環境におもいを寄せ、その大切さに気づき、豊かな心を育ててもらえることを願っています。

応募総数347件から、12人の受賞者が選ばれました。

「第1回 KOBELCO森の童話大賞」には、21都道府県から合計347件の作品が寄せられ、兵庫県出身の絵本作家・永田萌さんを審査員長に、各賞12名が選ばれました。金賞に選ばれた2作品は、永田萌さん、Rokoさんによる挿絵をつけた絵本になりました。表彰式の会場では、できあがったばかりの挿絵をスクリーンに映しながら、金賞作品が情感豊かに朗読されました。



表彰式や受賞作品の詳細については、KOBELCO森の童話大賞 Webサイトでご覧いただけます。
<http://www.kobelco-mori-ohanashi.jp/>

受賞作「ぼくたち、ふんばってるんだ」を読み聞かせ。

宝塚市内の小学校では、金賞受賞作品「ぼくたち、ふんばってるんだ」を、学校図書館司書の先生が子どもたちに読み聞かせました。同じ宝塚市内の小学6年生(受賞当時)の作品とあって、子ども達は静かに読み聞かせに集中。低学年には、森をイメージする言葉をいくつか挙げてもらい、「ぼくたち、ふんばってるんだ」が森のこけを視点に描いた作品であることを紹介しました。司書の先生は、「触発されて自分も童話を書いてみようと思う児童が出てくるとうれしい」と語っていました。



子どもたちは静かに聴き入っていました

審査員長のコメント



審査員長
永田 萌さん

「KOBELCO森の童話大賞」の審査員長と絵本の挿絵を担当したことは、わたしにとって思い出に残るすばらしい経験でした。

まず子どもたちの力作に感嘆し、発想力の豊かさに驚いたこと。次に挿絵を描くために森の実態や植物についての専門的な知識を深めることができたこと。そして何より神戸製鋼グループが、森の保全と育成に時間をかけて取り組まれている現状を知ったことです。今後もこの事業が継続され、子どもたちの夢見る力と豊かな森が守られ育まれるよう、願ってやみません。

▶ 完成した絵本を兵庫県へ寄贈

2014年3月28日、兵庫県庁において金賞作品の絵本の贈呈式が行われました。式では神戸製鋼の中根義信事務局長から、兵庫県の藤原道生環境部長(当時)に絵本を手渡しました。

約1,700セットの絵本が兵庫県内の全小学校・中学校・高校・特別支援学校1,446校、公立図書館96カ所などに寄贈されました。



小学生の部 金賞

「ぼくたち、ふんばってるんだ」

鶴田 さくらさん

小学生の部
金賞小学6年生◎兵庫県宝塚市
鶴田 さくらさん

コケを部屋で栽培しているくらい好きなので、主人公はすぐに決まりました。地味だけど森の四季とかかわりながら、力強く生きる姿を書こうと思いました。だからコケの細かなところまで絵にくださったのが、とてもうれしかったです。たくさんの人に見てもらいたいです。

あらすじ

四季折々で姿を変える森とふれあう、5歳の双子の女の子の姿を「コケ」の目線で書いた物語。自然の豊かさと厳しさを巧みな表現で伝えています。

▶ 鶴田さん 宝塚市長を表敬訪問

2014年3月31日、小学生の部で金賞を受賞した宝塚第一小学校の鶴田さくらさんが、受賞の報告のため中川市長を表敬訪問しました。訪問では、鶴田さんから受賞作品の絵本を中川市長にプレゼントしました。

今後、宝塚市では絵本を各学校の図書館に並べ、市教育委員会が配置している学校図書館司書による読み聞かせなどに活用されます。



中高生の部 金賞

「森の守り主」

村田 尚紀さん

中高生の部
金賞中学3年生◎兵庫県西宮市
村田 尚紀さん

3年前まで住んでいた仙台では森が身近だったので、募集のテーマに興味を惹かれました。ちゃんとしたストーリーにしたいくて、いろんな資料を調べました。賞をもらえるとは思っていませんでしたが、僕の童話を読んで森や自然に興味を持つ人が増えてくれたらいいと思います。

あらすじ

森の中に芽生えた杉が、身の回りの自然や人間と関わりながら、それぞれの役割について教わり、森の守り主として大木へと成長していく姿を書いたお話。

『ことば』を大切に、感性豊かな子どもを育てる

宝塚市教育委員会
学校教育課 課長
井上 秀清さん

宝塚市では、子どもたちに生きる力を育むため、『言葉を大切に、感性豊かな子どもを育てる』という目標を掲げています。「KOBELCO 森の童話大賞」は、子どもたちの『ことば』を大切に、感性を豊かに育てる貴重な体験であると確信しています。

本市では、市立全学校図書館に特別コーナーを設置し、金賞受賞作品を園児児童に読み聞かせを行うと共に、子どもたちが創作童話に親しめる環境を整え、創作活動を促してまいります。

スポーツを通じた社会貢献

スポーツを通じた社会への貢献は、神戸製鋼グループならではの活動です。ラグビーの普及と強化に向けた高校ラグビーの支援をはじめ、神戸製鋼ラグビー部による地域・社会との交流、多彩なスポーツの支援活動など、次代の選手を育て、スポーツの裾野を広げる独自の活動を続けています。神戸製鋼グループの、スポーツを通じた社会貢献。その一端をご紹介します。社会との共生については、P49～54をぜひご覧ください。

高校ラグビーへの特別協賛活動

男女7人制ラグビーが正式種目となる2016年のリオデジャネイロ・オリンピックに向け、男女高校生の育成・強化をサポートしています。

育て！次世代ジャパン。 「KOBELCO CUP 2013」に特別協賛

神戸製鋼グループが特別協賛する「KOBELCO CUP2013」第9回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会が、2013年8月1日～4日、長野県上田市・菅平で開催されました。

全国9ブロックから選抜されたU17、U18の代表選手によって競われ、レベルの高い試合を通じて技能向上を図ります。気迫あふれるプレーに、大会サポート役として参加したコベルコスティーラーズOB「クラシックスティーラーズ」の指導にも熱が入りました。



気迫あふれるプレーに、大会サポート役として参加したコベルコスティーラーズOB「クラシックスティーラーズ」の指導にも熱が入りました。

女子7人制ラグビーの大会も支援

第3回全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会は、「KOBELCO CUP2013」と共に長野県上田市・菅平で開催され、神戸製鋼グループが特別協賛しました。この大会は日本初の女子高校生による7人制ラグビーの公式試合として2011年から始まり、今年で3回目を迎えました。

神戸製鋼グループは、初心者や未経験者を集めた講習会も開催し、女子ラグビーのいっそうの普及を図っています。



神戸製鋼ラグビー部「コベルコスティーラーズ」の活動

ファンの声援に応えトップリーグで熱戦を繰り広げながら、募金や震災の復興支援などの社会貢献活動を続けています。



ラグビー公式戦初の天覧試合を制する

2013～2014シーズンにおいて、神戸製鋼ラグビー部はプレーオフトーナメント準決勝進出、日本選手権準決勝進出など充実した成果をあげました。中でも白眉となったのは、天覧試合での勝利でした。第51回日本ラグビーフットボール選手権大会2回戦で、神戸製鋼はヤマハ発動機と対戦。ヤマハが1点リードの9対10で前半を終え、天皇・皇后両陛下がハーフタイムに秩父宮ラグビー場へお見えになりました。後半も一進一退の攻防が続く中、試合終了間際のトライとゴールキックで28対26と逆転。ラグビー公式戦では初となる天覧試合で、勝利を収めることができました。



©2014JRFU, Photo by RJP H.Nagaoka

活動



多様なスポーツの支援活動

さまざまなスポーツの場や機会を提供することで、地域の交流や子どもたちの健全な育成に貢献したいと願っています。

スポーツを通じた地域交流を促進する「灘浜スポーツゾーン」

神戸製鋼ラグビー部の拠点に併設された「灘浜スポーツゾーン」は、人工芝グラウンドとテニスコートを整備し、地域の皆様に一般開放しています。

人工芝グラウンドは、ラグビーやサッカーの他、グラウンドゴルフにも利用できるよう用具の一部を貸し出しており、近隣の学校やラグビー・サッカーのクラブチームなど、スポーツを愛する人々の交流の場として役立っています。



新スポーツ「スペースボール」体験を広げます

神戸製鋼は、スポーツNPO法人「SCIX」を支援し、「SCIX」が考案したオリジナル・スポーツ「スペースボール」の体験を広げています。

「スペースボール」は、ラグビーやサッカーのように「スペース(空間)」を活かしてボールをつないでいくことで、子どもたちの身体能力や状況判断能力を養うことができるスポーツです。神戸製鋼ならではの財産であるラグビーに関わる人材や設備を活用し、近隣の小学生を神戸製鋼灘浜グラウンドに招いて、「スペースボール」を指導しています。



「日本せきずい基金」に募金を贈呈

神戸製鋼ラグビー部は、2013年8月26日、NPO法人「日本せきずい基金」に対し、昨シーズンの試合会場で実施した募金活動、2013年7月14日に実施した「コベルコラグビーフェスティバル2013」における収益金の一部、およびジャパンラグビートップリーグ「キャプテン会議」の活動の一つである「1点10円募金」活動での募金額の、合計225,887円を寄附しました。

せきずい損傷はラグビー選手にとっておこりやすいケガということもあり、ラグビー部は11年前から同基金への寄付を続けています。



東日本大震災への支援活動を続けます

2013年6月18日、神戸製鋼ラグビー部は、2012-2013シーズンのファンクラブ会員年会費の一部、昨シーズンの試合会場で実施した募金活動などの合計1,128,486円を、日本

赤十字社兵庫県支部を通じて東日本大震災義援金として寄贈しました。神戸製鋼ラグビー部は、その他、福島県いわき市でラグビースクール生を対象にラグビークリニックを開催するなど、被災地の皆様と寄り添うさまざまな支援活動を続けていきます。



優れた製品・サービスの提供

神戸製鋼グループの企業理念の一つ『信頼される技術、製品、サービスの提供』を実践するため、「ものづくり力」強化のためのさまざまな取り組みを通じて、国内外のお客様・お取引先様に信頼され、満足される「優れた製品・サービス」を提供していきます。

ものづくり推進部の活動

ものづくり推進部は、2010年4月の設立以来、神戸製鋼グループのものづくり力強化に向け、『情報共有』『シナジー発揮』『人材育成』などに取り組んできました。

今後は、『品質力の強化』『調達力の強化』『省エネ』などの課題にも取り組み、神戸製鋼グループ全体のものづくり力の強化により、信頼される製品、サービスの提供に努めていきます。

■ 神戸製鋼グループ内での連携強化

各工場の代表者が参加する『ものづくり推進リーダ会議』を通じて、全社施策に関わる意見交換や優れた事例の情報共有を図ると共に、個別の要素技術に関わる専門技術者同士の交

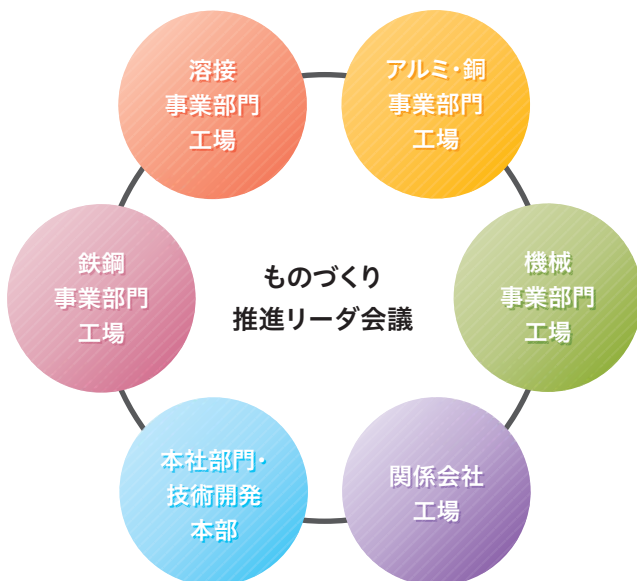
流の場である『生産技術交流会』を通して、グループ全体での技術レベルの向上を図っています。

■ ものづくり推進リーダ会議

神戸製鋼グループでのものづくり推進活動の窓口として各工場に「ものづくり推進リーダ」(工場長、副工場長クラス)を設置し、「ものづくり推進リーダ」が集まる『ものづくり推進リーダ会議』を定期的に行っています。ここでは、社内外での先進事例の紹介、ものづくり推進部が中心となって推進中の施策の進捗状況の報告や新たな施策に関する討議、共通課題の抽出などを行っています。

紹介した事例については、それぞれの工場における改善活動の参考にしてもらい、要望があれば紹介事例の工場との交流会なども個別に企画しています。

さらに、ものづくり推進部は、討議を通して得られたものづくり推進リーダからの意見や要望を踏まえて、今後取り組むべき施策の検討を進めています。



▲優れた事例の共有



▲課題の討議

■ 生産技術交流会

神戸製鋼グループで共通性の高い技術分野については、同じ技術分野の技術者同士の交流の場として『生産技術交流会』を設けています。

『生産技術交流会』は、現在、右図に示す7つの技術分野について分科会を設けて活動を行っています。

生産技術交流会の各分科会には事業部門や会社の枠を超えて、その分野の技術者が参加して、「情報共有」「人材育成」「事業貢献」の3つの課題に取り組んでいます。

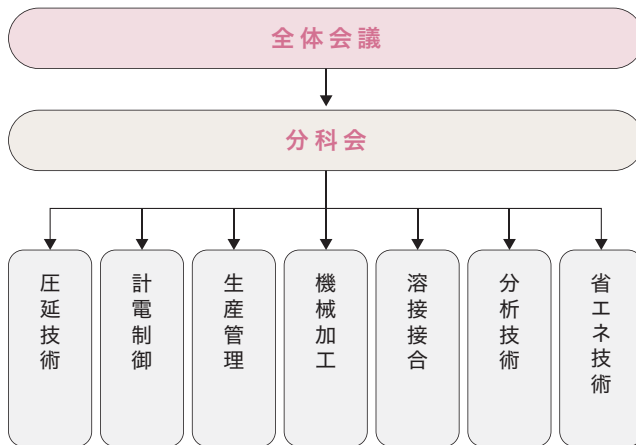
情報共有は、講演会の開催を通じて行っています。講演会は分科会ごとに年に1～2回程度、関連事業所の持ち回りで開催しており、優れた取り組み事例を参加者が相互に紹介しています。

人材育成については、その技術分野で獲得しておくべき要素技術を分科会で整理し、基盤となる技術を習得するための「勉強会」を開催しています。例えば、生産管理分科会では、合宿形式で各工場の取り組み事例を学ぶ若手勉強会を開催しています。この勉強会では、各工場での課題と解決のための取り組み内容を参加者同士で相互に紹介することを通じて、参加者の知識・知見を高めると共に、各事業所における生産管理の取り組みレベルの向上を図っていきます。

事業貢献については、技術分野の共通課題に取り組むプロジェクトチームを組み、活動しています。例えば、省エネ技術分科会では、グループ内に点在していた専門家を集結し、改善チームを編成して各事業所を訪問して、省エネルギーを推進するためのさまざまな活動を行っています。従来、事業所単独で取り組んでいた改善活動に、新たな知見を加えることにより、さらに効果的な改善案を立案できるようになってきています。

加えて、各分科会の推進リーダーが一堂に会する場として、生産技術交流会全体会議を年に2回開催しています。生産技術交流会全体会議では、各分科会がそれぞれの活動を紹介して、情報共有をしています。

● 生産技術交流会



● 生産技術交流会の取り組み

狙い	活動
情報共有	講演会
人材育成	勉強会
事業貢献	プロジェクト活動



▲機械加工分科会の講演会



▲生産管理分科会の若手勉強会



▲省エネ改善のための設備測定



▲生産技術交流会全体会議

株主・投資家の皆様との関わり

神戸製鋼グループは、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。その中で、株主の皆様への利益還元はもちろんのこと、株主・投資家の皆様をはじめとするあらゆるステークホルダーとのコミュニケーション、経営の透明性の向上を重要課題と認識し、適正かつ迅速な情報開示と、幅広い情報公開を進めています。

株主還元

神戸製鋼は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付け、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。

成果の配分につきましては、当社の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮することとし、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、各期の業績および配当性向などを勘案して決定していきます。

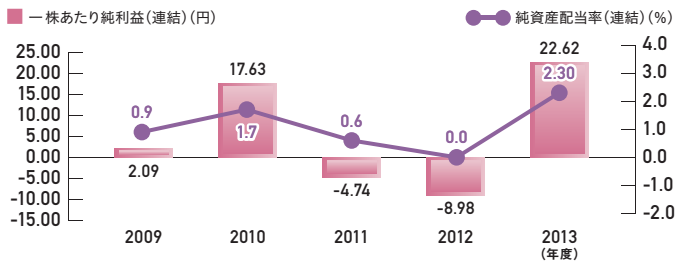
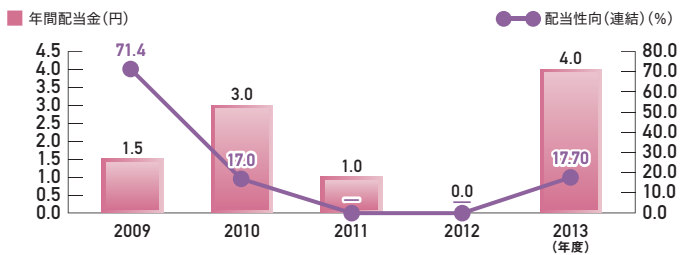
内部留保資金につきましては、将来の成長のために必要な投資などに充てることを通じて、収益力の向上に努めると共に、財務体質の改善・強化を進めています。

また、業績に応じた利益配分を考慮する上で、基準とする配当性向につきましては、当面の間、連結純利益の15%から25%程度を目安としています。

剰余金の配当につきましては、会社法第459条第1項および第460条第1項に基づき、取締役会の決議によって定める旨を定款に定めています。

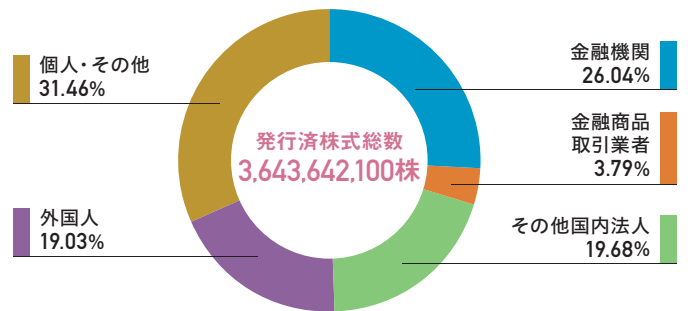
これに基づき、定款に定める基準日である中間期末および期末に、年2回の配当を取締役会決議により実施することを基本としています。それ以外を基準日とする配当を行う場合には、別途取締役会にて基準日を設定した上で行います。

配当金の推移



株主の状況

所有者別株式分布 (2014年3月31日現在)



情報開示

株主や投資家の皆様へ長期的かつ安定的に信頼・支援いただくために、説明責任の遂行が極めて重要であると考え、企業情報や財務情報の適時・適切な開示に努めています。

情報開示に関しては、法定開示基準の遵守、証券取引所の定める適時開示に関する規則に則った開示はもちろんのこと、適時開示に関する規則に該当しない場合でも、投資判断に関わると考えられる開示可能な情報については積極的に、迅速かつ継続的に発信することにより、神戸製鋼グループの経営状況や事業活動状況を十分にご理解いただき、適正な企業価値評価を得ることを目指しています。



▲株主の皆様へ

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

■ 株主の皆様とのコミュニケーション

株主総会を、株主の皆様と直接コミュニケーションする場としてとらえ、できるだけ多くの方にご出席いただくために、招集通知の早期発送や株主総会開催にあたって、集中日を回避するなどの工夫をすると共に、インターネット（携帯電話を含む）を通じて議決権を行使いただける環境を整えています。

また、株主の皆様が多様な事業を営む神戸製鋼グループに対する理解を深めていただく機会として、2007年度より株主の皆様を対象とした見学会を開催しています。これまでに合計13回の開催を数え、3,535名（同伴者様含む）をご招待いたしました。これまでにご覧いただいた事業所は以下の通りです。

- 加古川製鉄所（鉄鋼：兵庫県加古川市）
- 神戸製鉄所（鉄鋼：兵庫県神戸市）
- 高砂製作所（鉄鋼[鉄鋼・チタン]、機械：兵庫県高砂市）
- 真岡製造所（アルミ[アルミ板]：栃木県真岡市）
- 神戸総合技術研究所（兵庫県神戸市）
- コベルコ建機（株）GEC・五田市工場（広島県広島市）

今後も、さまざまな事業所をご覧いただき、理解を深めていただけるよう、見学会を開催していきます。新たな事業所での開催や、開催機会の増加なども検討していきます。

株主見学会の様子



▲加古川製鉄所



▲加古川製鉄所



▲高砂製作所



▲高砂製作所



▲コベルコ建機（株）GEC・五田市工場



▲コベルコ建機（株）GEC・五田市工場

■ 機関投資家の皆様とのコミュニケーション

国内の機関投資家や証券アナリストの皆様を対象に、神戸製鋼の経営方針や経営成績および財務状況をご理解いただく機会として、年4回の決算説明会を開催しています。

また、国内外の機関投資家や証券アナリストの皆様との個別面談を行い、継続的なコミュニケーションに努めています。

■ 個人投資家の皆様とのコミュニケーション

個人投資家の皆様には、神戸製鋼Webサイト（<http://www.kobelco.co.jp>）を通じて、半年に1度株主の皆様へ送付する「株主の皆様へ」などの発行物の他、アニュアルレポートや有価証券報告書、この環境・社会報告書など幅広い情報を提供しています。

2012年に更新したWebサイトでは、新着ニュースの掲載や、冊子の閲覧だけでなく、身近な生活を支える神戸製鋼グループの製品・技術をわかりやすく検索いただけるようなレイアウト構成や、映像で製造現場をご紹介するなど、より深くご理解いただけるような工夫を凝らしました。

また、この他にも、海外の投資家の皆様にも神戸製鋼グループを知っていただけるよう、英語版や中国版のWebサイトを開設しています。

神戸製鋼グループは、株主・投資家の皆様から末永く信頼を得られるよう、今後も情報開示およびコミュニケーションの質的向上に努めていきます。



▲神戸製鋼Webサイト

社会との共生

神戸製鋼グループでは、それぞれの事業所が、地域の一員として多彩な社会貢献活動を行っています。良き企業市民として、社会への責任を果たすこと。そんな心が、それぞれの事業所で働く一人ひとりに息づいているのです。次世代の育成や地域の方々との交流、清掃活動、地域と協調した環境保全活動…社会と共に生きる、神戸製鋼グループの活動にふれてください。また、スポーツを通じた社会貢献活動について、P43～44でご報告しています。合わせてご覧ください。

次世代の育成支援

未来を担う地域の子どもたちの成長をサポートする活動に、2006年度より継続して取り組んでいます。

■ コベルコ地域社会貢献基金2013

年々広がる、地域の子どもたちへの支援活動

神戸製鋼は、創立100周年を機に「コベルコ地域社会貢献基金」を設立。2006年度より、未来を担う地域の子どもたちを対象に、グループの事業所や研究所が立地する自治体の施設や団体の活動を支援しています。2013年度は新たにグループ会社2社が参加し、対象地域がさらに広がりました。



▲自社で製作した「アルミ製運搬用カート」(かすみがうら市)



▲「プランター」を使って緑化・美化環境教育(真岡市)



▲児童たちを安全に誘導するための各種備品(東広島市)



▲天体観測用の望遠鏡や学習用のタブレット端末(藤沢市)



▲柔らかい素材のサッカーボールなどの遊具(福知山市)

● 2013年度コベルコ地域社会貢献基金支援実績

事業所名	支援先	支援内容
神戸本社(兵庫県神戸市)	子ども会	ポップコーン製造機、かき氷製造機の購入費
	母子生活支援施設	パソコン、デジタルカメラ、折りたたみ椅子の購入費
神戸総合技術研究所(兵庫県神戸市)	青少年育成協議会	青少年フェスティバルの運営費
神戸製鉄所(兵庫県神戸市)	地域交流団体	カブト虫の幼虫、飼育箱、木工クラフト材料などの購入費
	自然保護団体	紙芝居作成代、印刷費用、ラミネートなどの購入費
加古川製鉄所(兵庫県加古川市)	子育てサークル	野外活動費、備品購入資金など
	ボランティア団体	活動備品の購入費
	ソフトボール協会	活動備品の購入費、運営企画補助
高砂製作所(兵庫県高砂市)	学童保育所の管理運営団体	学童保育所で使う備品の購入費とイベント運営費
播磨工場(兵庫県加古郡播磨町)	障がい児の社会交流を支援する団体	イベントで使う備品の購入費
	ボランティア団体	環境学習用品の購入費
藤沢事業所(神奈川県藤沢市)	宇宙少年団	天体観測用備品の購入費
福知山工場(京都府福知山市)	幼稚園	キッズ用サッカーボールやブロックなどの購入費
茨木工場(大阪府茨木市)	幼稚園	三輪車、ブロックなどの購入費
西条工場(広島県東広島市)	住民自治組織	誘導棒、腕章、帽子などの購入費
真岡製造所(栃木県真岡市)	小・中学校	緑化美化活動用の機材の購入費
大安工場(三重県いなべ市)	子育て支援センター	遊具・備品の購入費
長府製造所(山口県下関市)	児童デイサービスセンター	発達支援のための物品の購入費
	保育園	遊具・備品の購入費
神鋼ノース(株)(茨城県かすみがうら市)	高等学校	アルミ製搬送用カートの購入費
神鋼造機(株)(岐阜県大垣市)	幼稚園・保育園	大型遊具の購入費
※神鋼建材工業(株)(兵庫県尼崎市)	保育園	木製玩具の購入費
コベルコクレーン(株)(兵庫県明石市)	小学校	運動会などの行事で使うテントの購入費
神鋼機器工業(株)(鳥取県倉吉市)	保育園・幼稚園	知育玩具、遊具などの購入費
※ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー(株)(福岡県北九州市)	北九州市立図書館	科学系書籍の購入費

黄色の網かけは、グループ会社の支援内容

※は、2013年度から新規に参加したグループ会社

地域貢献・地域交流

各地の事業所では、地域社会の良き一員として、地域行事への参加や地域に貢献するさまざまな活動を行っています。

■ 灘浜サイエンススクエア、神戸製鉄所 兵庫県

開館10周年を迎えた灘浜サイエンススクエア

神戸製鋼の地域交流施設・灘浜サイエンススクエアが、2014年4月で開館10周年を迎えました。

主に小学生を対象として、年間約200校の校外学習を受け入れており、うち約150校は隣接する神戸製鉄所の工場見学を行っています。授業の一環として、工業生産の様子を見学することにより、知識と理解が深まっていきます。

好奇心あふれる子どもたちで連日にぎわいをみせる同施設は、2014年度中に来館者がのべ60万人を突破する見込みです。



▲工場見学前の説明に聞き入る小学生たち

■ 藤沢事業所 神奈川県

神鋼祭(神鋼まつり)を開催

地域住民の方々と従業員やその家族などの交流の場として、2013年8月に開催しました。

神鋼祭は、町内会へ感謝の気持ちを伝え、同時に従業員の親睦も図る目的で1973年から継続実施しています。

41回目を迎えた今回は、子どもたちに好評の大道芸やサンパショーなど盛りだくさんの内容で、約1,000人が来場しました。



▲今や藤沢の夏の風物詩

■ 神鋼不動産(株) 兵庫県

体験型創作活動「HAT神戸の未来をかたちにしよう」を開催

神鋼不動産(株)は、「HAT神戸地区のまちびらき」および「なぎさ小学校開校」15周年を記念し、体験型創作活動「HAT神戸の未来をかたちにしよう」を開催しました。

HAT神戸は、阪神淡路大震災からの復興のシンボルとして、神戸市の東部新都心として開発された地域で、2013年に15周年を迎えました。神鋼不動産(株)は、この節目にふさわしい活動として、なぎさ小学校の6年生(174名)を対象に美術家の田窪恭治氏を先生に迎え、4日間の体験型創作活動を開催しました。できあがった作品は、12月に兵庫県立美術館で縦9m×横13.5mの壮大なジオラマとして展示されました。



▲こんな未来が完成

■ 神鋼アルミ線材(株) 大阪府

春と秋、交通安全を願い、正門前で安全誘導

4月と9月にそれぞれ1週間、朝・昼の2回、正門前で構内に入出入りする人々と歩行者の安全誘導を20年以上にわたって継続実施しています。運送車両の出入りなどで近隣のご理解・ご協力の元で操業を行っているため、全国交通安全週間のタイミングで安全誘導を実施することで、地域に貢献したいと考えています。

特に4月は、新1年生の登下校の安全確保を意識しており、小学校や保護者の方々からも喜ばれています。



▲地元小学生とことばをかわす社員

■ コベルコ建機(株) 広島県

「第10回 中学生レスキューロボットコンテスト」に協賛

2014年2月16日、コベルコ建機・五日市工場にて、広島大学主催「コベルコ建機カップ第10回中学生レスキューロボットコンテスト」が開催され、広島県内の中学校11校14チーム、61名が参加しました。

本コンテストは、大規模都市災害における救助活動を題材に、ロボット技術と人間との関わりについて理解を深めることを目的としています。実際に制作したレスキューロボットでの救助活動を行い、「技術面」「救助の安全性」「アイデア」などの観点から審査した結果、英数学館中学校の「RAD」チームがレスキュー大賞を受賞しました。



▲競技の様子



▲中学生の自作ロボット

■ 福知山工場 京都府

福知山市土木課主催の植樹活動に参加

2013年11月、福知山市土木課が主催する植樹活動に従業員有志が参加し、芝桜を植樹しました。この活動は2012年度から行われ、初年度には福知山市の10大ニュースにとりあげられるなど地元の注目を集めています。

植樹エリアは9号線バイパス沿いで長田野工業団地の入口にあたり、春の開花時期には、通勤や仕事で往来する人々の目を楽しませています。2012年度からの5年間で、1万㎡への植樹が予定されています。



▲苗木を植える様子

■ 藤沢事業所 神奈川県

41年目の「かぶと松・ハツ嶋供養祭」を開催

藤沢事業所の敷地内にある「かぶと松」は貴重な鎌倉史跡で、この辺りを統治していた武士が「後三年の役」での戦勝を記念し、松の根元にかぶとを埋めたことに由来しています。また、鎌倉攻めでの戦死者を葬った「ハツ嶋」を合祀し、1973年から41年連続で「かぶと松・ハツ嶋供養祭」を開催しています。

2013年10月18日の供養祭では、近在のお寺の住職による供養・地域住民と従業員による焼香などが行われました。参拝者にはお赤飯と粗品、お子様にはお菓子とジュースがふるまわれ、地域の恒例行事として親しまれています。



▲供養祭の様子

■ 長府製造所 山口県

約4,200名が参加した「長府フェスタ2013」

長府製造所では、「長府フェスタ」を2000年から開催しており、地域社会にもすっかり定着しています。2013年10月20日に行われた「長府フェスタ2013」は、OBや地域の方々も含め約4,200名が来場しました。

恒例の部署別対抗玉入れ・綱引きで汗を流し、マグロ解体ショーや平家太鼓、地元高校の吹奏楽部による生演奏でも大いに盛り上がりました。



▲豊浦高校吹奏楽部による演奏



▲綱引きに夢中

近隣清掃活動

地域社会に貢献するための取り組みとして、神戸製鋼グループは清掃活動を重視しています。その活動は、事業所周辺から街や自然環境にも広がっています。

■ 真岡製造所 栃木県

地域の環境保全に貢献する河川清掃活動

真岡製造所では、1998年から鬼怒川の清掃活動を行っています。また、もおか環境パートナーシップ会議の一員として、2008年からは大久保川の清掃活動も実施しています。いずれものべ100名を超える従業員や家族などが年1回ずつ参加しており、地域の環境維持に貢献できるやりがいを感じています。

なお、鬼怒川の清掃活動は、2002年11月に国土交通省下館工事事務所長より『功労者表彰』を受けました。



▲大久保川を清掃中

■ 神鋼ケアライフ(株) 兵庫県

地域の皆様と交流するホーム納涼会

有料老人ホームを理解してもらい、地域の皆様との親交を深める一環として、毎年8月にホーム納涼会を開催しています。

各地のホーム構内を舞台にやぐらやちようちんを飾り付け、屋台なども設営して地域の皆様と入居者・職員家族の親睦交流を図ります。中でも最も古くからあるドマーニ神戸では17年続いており、それぞれ地域に定着した行事となりました。



▲地域との交流の様子



▲職員手作りの神輿

■ 加古川製鉄所 兵庫県

「第23回神鋼加古川フェスティバル」を開催

2013年10月27日、恒例となった神鋼加古川フェスティバルが開催されました。前日までの台風による影響が心配されましたが、当日は8年ぶりの快晴に恵まれ、約8万人の方々の来場があり、終始盛況でした。

メインステージではテレビ番組で人気の戦隊ヒーローが登場し、子どもたちの大声援を受けました。他にもたくさんの催しがあり、楽しい一日となりました。



▲楽しい一日の幕開け

■ 神鋼造機(株) 岐阜県

西濃地域の河川クリーン作戦に参加

神鋼造機(株)は、岐阜県西濃建設業協会主催の河川クリーン作戦に参加し、会社近郊を流れる揖斐川の河川敷を清掃しました。この活動は、地域の清掃ボランティア活動として年1回行われており、2010年より参加しています。今では40名を超える従業員有志が参加しています。

河川クリーン作戦には地元企業や一般市民も参加しており、神鋼造機(株)も地域の一員としての役割を果たしています。



▲河川敷での清掃の様子

■ 藤沢事業所 神奈川県

事業所周辺の清掃活動

従業員有志による藤沢事業所の外周道路の清掃活動を、年7回実施しています。地域社会との共生に関する活動として、ISO14001取得を機に始まった活動で、2008年から6年間にわたり継続中です。

地元の自治会から好評を得ており、参加者からは「感謝の言葉が活動の励みになる」「普段からごみが落ちているのが気になるようになった」などの声があがっています。



▲外周道路をいつもきれいに

■ 三和鉄鋼(株) 愛知県

工場周辺のごみゼロ運動

三和鉄鋼(株)は、犬山工場周辺の道路や側溝の清掃活動を毎月1回行っています。各部署や関連会社から5~6名が集まり、4年継続中です。

工場周りの県道沿いの歩道や植え込み、側溝には通行車両からのポイ捨てが多いため、毎月の清掃活動は地元住民からも好評を得ています。



▲目指せ、ごみゼロ!

■ コベルコシステム(株)、神鋼不動産(株) 兵庫県

須磨海岸のクリーンアップ作戦

クリーンアップ関西では、「国際ビーチクリーンアップ in SUMA」と称し、毎年須磨海岸の清掃活動を行っています。ごみを拾うだけではなく、集めたごみの種類の分析による国や自治体のごみの減量への取り組みの効果検証や、漂流してきたごみの状況把握も行われています。この活動に、コベルコシステム(株)と神鋼不動産(株)の社員有志とその家族が参加。須磨海岸のクリーンアップに努めました。

数千人が一斉に清掃を開始すると、漂流物などはほとんど見当たらなくなりました。参加者からは「ごみを拾うだけではなく、どうしたらごみをなくすことができるのかと考えるきっかけになった」といった声も聞かれました。



▲海岸清掃に集まった社員と家族たち



▲小さなごもていねいに収集

■ 神鋼メタルプロダクツ(株) 福岡県

「安全・環境の日」に工場周りを清掃

毎月、工場の第一稼働日を「安全・環境の日」とし、役員、管理職を始めとする従業員約30名が参加して、工場周辺の道路のごみ拾いと雑草抜きを実施しています。

この取り組みは1998年から16年間継続しており、工場の恒例行事として定着しています。



▲工場周辺の清掃の様子

■ 神戸本社 兵庫県

HAT神戸周辺の美化を図る清掃活動

神戸製鋼の神戸本社は、2013年3月、神戸市臨海部のHAT神戸に移転しました。これを機に、本社ビル勤務を中心とするグループ社員の有志が、2013年7月より週に一度の本社周辺の清掃活動を始めました。

社員有志は、岩屋駅・灘駅から本社に至る通通勤路を中心として地域の美化に役立っています。地元にお住まいの方や駅員の方から「ありがとう」と声をかけていただくこともあり、励みになります。



▲本社ビル前を清掃中

■ 神鋼物流(株) 兵庫県

歩道・グリーンベルトの清掃活動

神鋼物流(株)の関西物流センター尼崎業務室では、有志10人程度が集まり、事業所周辺の歩道・グリーンベルトの清掃活動を毎週1回実施。2008年より継続しています。

この一帯はタバコのポイ捨てや車からのごみ投棄が多く、美観が損なわれていましたが、清掃活動により改善が見られるようになりました。



▲週1回の清掃活動



▲いつも通る道を美しく

社会と共生・協調する環境貢献

神戸製鋼グループは、環境の側面からも社会との共生・協調を目指しています。2013年度からはKOBELCO GREEN PROJECTと称し、さまざまな環境貢献活動をグループ全体で推進。生物多様性への取り組みとしての森林整備活動、次代を担う子どもたちへ環境教育などを行っています。

■ KOBELCO GREEN PROJECT

森林整備活動

神戸製鋼グループは、2011年秋から兵庫県内2カ所で「森林整備活動」を実施しています。「KOBELCOの森」は、グリーンピア三木(三木市)にある里山放置林(約2ha)で、全神戸製鋼労働組合連合会とパートナーシップを組み、森林整備活動に取り組んでいます。

また、六甲山系油コブシ(神戸市灘区)周辺の0.6haのエリアを「ECOWAYの森」と名付け、春と秋の2回、森林整備活動を行っています。2カ所の森林で、これまでにのべ1,000人を越えるグループ従業員が参加し、整備活動に汗を流しています。2年にわたる活動により、整備が進み、森は少しずつ明るさを取り戻しています。

茨木工場では、大阪府が事業者(企業など)と森林所有者の仲人となって森づくりへの参画を進める「アダプトフォレスト制度」を活用し、市内銭原地区において、農地保全ならびに里山保全活動を開始しました。活動開始にあたり、2014年3月20日大阪府公館において、大阪府、茨木市、銭原自治会、神戸製鋼所労働組合、茨木工場など関係者による調印式が行われました。同制度で森林と農地の二つを対象とした保全活動を同時に進める取り組みは、府内で初めての事例となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。



http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/forest/



▲子どもも森林整備に参加しました



▲整備が進んで明るい森に変わっています



▲茨木市銭原の森 保全活動 調印式

児童館出前エコ教室

神戸製鋼では、次代を担う子どもたちに環境を大切にする心を育てていきたいという思いから、地域の環境貢献活動の一環として、神戸市が主催する「神戸子どもエコチャレンジ21倶楽部」に参画しています。この活動は、未来を担う子どもたちが、楽しみながら、遊びながら、体を動かしながら、環境の大切さを学ぶことを目的としており、神戸製鋼は2011年度から児童館で環境教育を実施する「児童館出前エコ教室」を展開しています。

出前エコ教室では、マジックショー、クイズ大会、エコカルタ遊びなどを通じて、子どもたちに環境や電気の大切さ、鉄の便利さを体感しながら学んでもらっています。2013年度は、二宮児童館(中央区)、雪御所児童館(兵庫区)、東須磨児童館(須磨区)、泉台児童館(北区)の4カ所で開催し、約140名の子どもたちが参加しました。

楽しく遊びながら「エコ」を学びました。



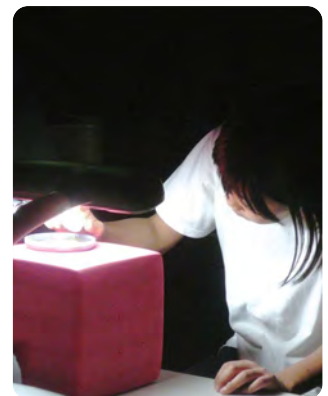
二宮児童館 館長代理 森 松美 さん

「エコ」と聞いてもなかなか子どもたちにはピンとこないのが現状です。そんな中で、自分の手を使ってライトをつける、鉄道模型を走らせるなど電気を作る体験を実際にさせていただき、楽しく遊びながら学べるとてもありがたい活動でした。

その他にも、実験やかるた遊びなど、多くのことを取り入れていただきました。いつもにぎやかな子どもたちも息をひそめて見入り、みんなが飽きることなく長時間楽しんでいました。これを機に、少しでも節電などのエコ活動にも目を向けてくれることを願っています。



▲手回し発電機で模型列車を走らせて競争



▲磁石で動く不思議なスライムに興味津々

海外での社会貢献

グローバルに事業展開する神戸製鋼グループの事業所は、世界の各地でその国・地域の一員として、現地社会に貢献する活動を続けています。

■ PRO-TEC Coating Company アメリカ

資源ごみの回収・リサイクルを支援

プロテック社は、地元の自治体などと共に、普通ごみとして埋め立てできない資源ごみ(携帯電話、使用済み潤滑油、電子機器、薬物など)の回収を支援しています。この活動は、アメリカ・オハイオ州のオタワグランドルフ高等学校で行われているもので、年に1回、ボランティアがごみの回収・整理を行います。

地域社会への奉仕活動の一環として、プロテック社の環境保全担当者が支援を呼びかけ、寄付金の他にプロテック社の社員がボランティアとして参加しました。持ち込まれる資源ごみは驚くほど多く、イベントの最後にはリサイクル用の箱がいっぱいになりました。

■ コベルコ建機(株) 中国

地域に貢献する2013夏季ごみ拾い活動

コベルコ建機(株)のCSR委員会は、2013年9月、四川省成都市温江区で年に一度のごみ拾い活動を行いました。現地のコベルコ建機グループを中心に、計39名の従業員がボランティアとして参加しました。

活動開始にあたり、CSR活動責任者からごみ拾い活動に参加した従業員たちに謝意を伝え、「環境保全を自分から始めよう」という環境保全活動の理念を参加者一人ひとりに訴えていました。



▲ごみ拾いに集まったボランティア社員たち



▲一人ひとりが地域貢献の主役

■ Singapore Kobe Pte. Ltd. シンガポール

地域社会に貢献する会社周辺の清掃活動

シンガポール・コウベ社では、従業員220名のうち、75名が参加し、会社周辺や近隣の道路の清掃活動を行っています。地域の一員として社会に貢献するための活動で、2013年10月から実施しています。

周辺環境の美化のため、社員は積極的にこの活動に参画しており、「地域の環境意識も高めることにつながる」と地域社会から喜ばれています。



▲年に4回、会社周辺の道路を清掃



▲側溝の中までいねいに

■ コベルコ建機(株) マレーシア

マレーシアの森林保護活動植樹を支援

マレーシア・パソにおいて、FRIM・UPM・広島大学の共同主催で、「マレーシア森林保護活動植樹祭式典」が開催されました。

コベルコ建機(株)は、CSR活動の一環としてマレーシア森林保護活動に支援しており、今回スポンサー代表としてグループ社員5名が本式典へ参加し、小中学生とも交流を深めました。この活動を契機にマレーシアの現地従業員が中心となり、地道な活動が計画されています。今後もグローバルな地域活動を支援していきます。



▲植樹イベントに参加



▲森林見学のルートも整備

■ Midrex Technologies, Inc. アメリカ

難病の子どもたちの夢をかなえる「メイク・ア・ウィッシュ」に協賛

「メイク・ア・ウィッシュ」は、難病と闘う子どもたちの夢をかなえる米国のボランティア団体です。子どもたちに生きる力や病気と闘う勇気を持ってもらうため、ミドレックス社はノースカロライナ州中西部の組織委員会に参画し、募金活動や夕食会への参加などを推進。地域社会と共に本活動を支援しています。

2013年、「メイク・ア・ウィッシュ」は、ノースカロライナ州中西部で240件以上の子どもたちの願いを実現することができました。



▲「プロのアメフトチームのコーチになりたい」という願いをかなえた少年

社員が働きやすい職場環境

神戸製鋼は、社員の人格・個性を尊重し、活力溢れた魅力ある職場環境を実現していくための各種人事諸制度や人材育成施策を展開しています。また、「社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊ぶ」という神戸製鋼グループの企業理念を実現するために、グループ各社とさまざまな形で連携を強めています。

仕事と生活の両立支援

神戸製鋼は、仕事と生活の両立を図るための環境整備に積極的に取り組んでいます。これまでの取り組みが評価され、2012年11月に次世代育成認定マーク『くるみん』を取得しました。



▲くるみんマーク

- 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定と実行
- 年次有給休暇の取得率向上や生産性向上等、総実労働時間縮減に向けた取り組みの展開
- 育児・介護に関する法定を上回る支援の拡大

近年の主な取り組み

- 育児休業期間の延長(子が満3才に達するまで)
- 育児のための就業時間等配慮期間の拡大(子が小学校を卒業するまで)
- 介護休業期間の延長(最大3年間まで)
- 子の看護・家族の介護休暇の有給化
- 育児・介護のための在宅勤務日制度の導入
- 育児・介護支援提携サービスの提供
- 福利厚生制度における育児メニューのポイント優遇
- 職場見学会の実施

神戸製鋼では、両親や親戚などのサポートを受けずに夫婦だけで育児をしている世帯が全体の約25%となっており、子育て世代の社員の生活に育児が占める割合は大きくなっています。女性社員のみならず男性社員も子育てに積極的に参画できる環境整備(各種制度の新設や制度運用の定着活動)に取り組んでいます。

人権尊重の取り組み

神戸製鋼グループは、差別のない、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

公正採用選考ルールや男女雇用機会均等法など人権に関する諸法令を遵守すると共に、グループ各社の人事担当者や、新入社員、新任管理職など各階層への人権研修を通じて、人権に関する取り組み方針の浸透や人権意識の啓発に努めています。

ハラスメント防止の取り組み

神戸製鋼グループは、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントのような不当な「いじめ」「嫌がらせ」を容認しません。「セクシュアルハラスメント防止マニュアル」の作成・周知や相談窓口の設置など、ハラスメント防止のための体制整備を進めています。

また、ハラスメント事案を生じさせない職場づくりをテーマとする管理職、監督職への各種研修の実施などに鋭意取り組んでいます。グループ全体としても問題事案を防止するために教育・研修の展開や、体制の整備に努めています。

▶セクシュアルハラスメント防止マニュアル



女性の活躍推進への取り組み

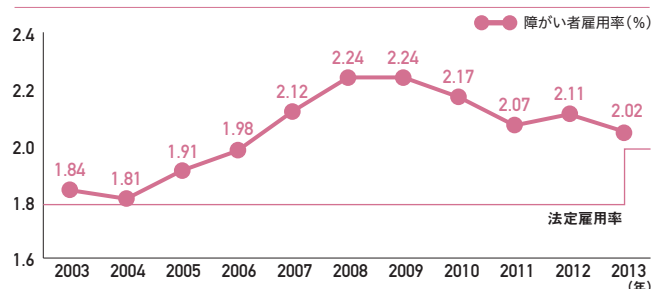
近年、女性社員の採用数が増加する中、神戸製鋼は女性が自らの能力を十分に発揮できる環境づくりを推進しています。仕事と生活の両立支援に積極的に取り組むとともに、キャリア形成や能力開発について心理的な側面も含め支援しています。2014年6月よりダイバーシティを支援する組織を社内に新設し、女性社員のさらなる活躍推進に向けた取り組みを拡大していきます。

障がい者雇用への取り組み

神戸製鋼グループは、障がい者雇用を積極的に推進すると共に、個々人が持てる能力を十分に発揮でき、安心して働ける職場環境の整備に努めています。

神戸製鋼の2013年の障がい者雇用率は2.02%と、法定雇用率(2.0%)を上回っていますが、引き続き雇用率アップに向けた取り組みを継続していきます。

障がい者雇用率推移(神戸製鋼)

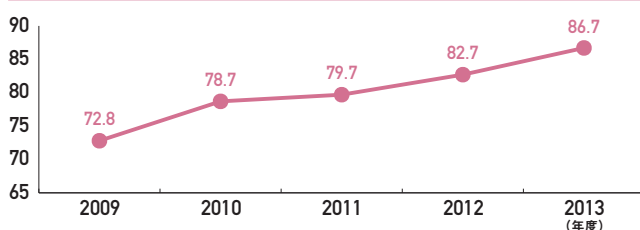


高齢者雇用への取り組み

神戸製鋼は、停年退職後の再雇用制度として「熟練社員再雇用制度」を導入しています。グループ会社などでの再雇用者を含め、ベテラン層の有する技術・技能を引き続き活用することで、技能継承の円滑な推進や本人の働き甲斐の実感を通じて、職場活力の維持・向上を図っています。

また、グループ各社でも同様の取り組みを進めています。

停年退職者に占める再雇用者の割合推移(神戸製鋼)



安全衛生管理

安全衛生管理方針

「安全衛生は事業経営の基盤であり、全ての事業活動に優先する」という理念のもと、安全で安心して働くことのできる、活気溢れた職場の実現に向け、さまざまな安全衛生活動を行っています。

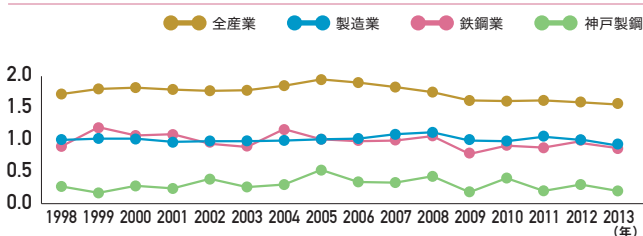
安全衛生管理計画で目指す姿

- 法令・社内ルールを正しく理解し、それを確実に遵守できる組織・体質を作り上げる。
- 生産・品質・人・組織・環境などに応じた“変化”を見逃すことなく速やかに対応する。
- 自らはもとより、職場の仲間の安全を守り、健康を気遣う風土をつくる。

安全管理

神戸製鋼は、1979年から中長期的な視点で労働災害を減らす取り組みを始めた結果、労働災害は減少し、度数率も低位で推移していました。2014年度も引き続き、従業員の生命と健康を守ることが企業の社会的責任を果たす上でも特に重要であるという認識のもと、神戸製鋼グループ・協力会社一体となったさらなる安全管理活動の向上を図っていきます。

休業災害度数率推移



衛生管理

衛生面では、健康に配慮した職場環境をつくり上げることを目標とし、『こころ』と『からだ』の両面の管理体制を充実し、“予防”への活動展開を一層強化して取り組むことにしています。

『こころ』の面では、産業カウンセラーや専門医師による「なんでも相談室」の充実や、全ての従業員に対するメンタルヘルス教育などを進めています。

『からだ』の面では、職場環境の変化へも確実に対応して、職業性疾病の防止に努めることはもちろんのこと、定期健康診断の受診徹底とそのフォローを着実にを行うことにより、生活習慣病の予防に努めていくことにしています。

また、インフルエンザの問題に対しても、安全・安心を確保するための予防対策の徹底や新型インフルエンザ対策に取り組んでいます。

人材育成

ものづくり力を支える技能継承活動、QCサークル活動

製造現場のものづくり力を支える技能をベテランから若手へ伝える「技能継承」。グループ各工場では、実務を通じた教育訓練(OJT)に加え、「技能道場」と呼ぶ教育訓練場などを活用した教育訓練(OFF-JT)を通じて若手のレベルアップを図ると共に、誰がどのような技能をどのレベルで保有しているかを示す技能マップを用いて計画的な技能継承を進めています。

また、神戸製鋼グループでは、ものづくり力がグローバルな競争の源泉になるという考えのもと、現場の改善活動(QCサークル活動)を積極的に推進しています。

特に、年に1回、「KOBELCO QCサークル大会」を開催し、神戸製鋼グループ全体の横串を通じた情報共有や啓発を図り、活動レベルの底上げを目指しています。

人材育成のための諸制度

神戸製鋼は、社員が仕事への誇りと働き甲斐を持つことを人材育成の目標としています。そのためには、社員一人ひとりが、具体的目標を持ち、日々成長していくことが重要です。社員自らのたゆみなき研鑽による成長を会社は全面的に支援します。

具体的には、上司と部下の間で業務目標と将来のキャリアプランについて話し合う場を設け、本人の希望と事業上の必要性を勘案しつつ、育成的見地からのジョブ・ローテーションを実施しています。また、自律的なキャリア形成を促進するため、人材公募制度も実施しています。

また、社員の能力開発支援として、OJT教育を補完するためのオフライン研修も実施しています。最近では、選択型研修の拡充による自己啓発への支援強化や、若手社員の基礎教育の強化、中堅社員の課題解決力や専門性の向上に力を入れています。

防災への取り組み

神戸製鋼グループは、グループを挙げて法令の遵守や設備事故対策、自然災害への備えに努めています。災害時における防災体制の整備、防災訓練などを継続的に実施し、事故の未然防止や災害時の被害の最小化に積極的に取り組んでいます。今後とも従業員一人ひとりの防災意識を高め、グループ全体で防災活動を進めていきます。

2013年度 全社防災管理方針

1 設備事故の防止

2 自然災害への備え強化

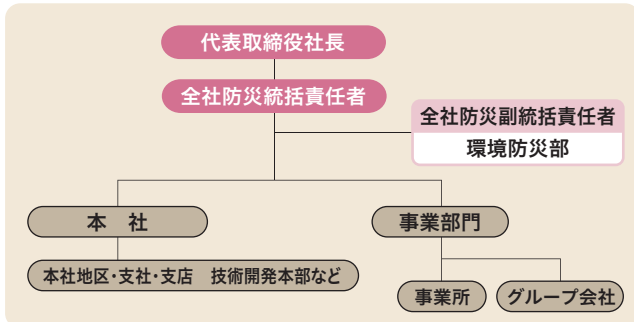
3 法令の遵守

「人命の尊重、企業活動の継続、地域の安心の実現」

■ 全社防災管理体制

神戸製鋼グループは、社長、全社防災統括責任者のもと、本社、事業部門、事業所、グループ会社それぞれにおいて、防災管理活動を推進しています。

● 全社防災管理体制



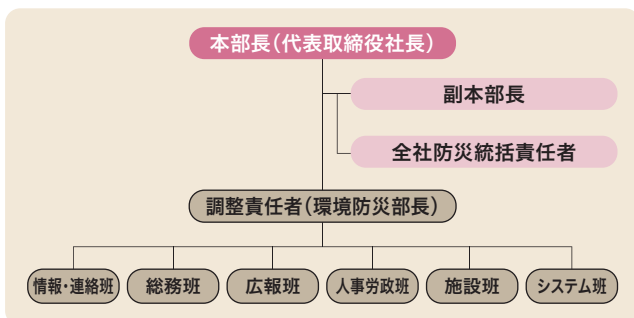
■ 災害時の対応体制

大規模な地震などの緊急時には、東京本社または神戸本社に総合災害対策本部を設置し、救援や復旧などにあたります。

東日本大震災の際は、安否状況の確認や被災事業所を支援する本部を東京本社に設置し、支援物資の手配・輸送など、早期の操業再開をサポートしました。

今後もよりスムーズに対応できるように、教育・訓練などを継続して行います。

● 災害時の総合災害対策本部組織図



■ 神戸製鋼グループ防災会議

神戸製鋼グループは、防災情報の共有化、災害防止の取り組み強化を目的に、毎年「神戸製鋼グループ防災会議」を開催しています。2013年度は、グループ会社50社を含め116名が参加し、最新の法改正内容の確認や事業所の取り組み事例報告の他、新たに策定した「中期防災計画(2013～2015年度)」の説明を行いました。

参加者は、日頃の地道な防災活動の重要性を再確認しました。



▲神戸製鋼グループ防災会議

■ 現地防災確認調査

防災関係法令遵守の確認や設備事故につながるリスク低減を目的に、事業所の現地防災確認調査を実施しています。

2013年度も引き続き、グループ会社の防災確認調査を実施しました。その結果、重大な法令違反はありませんでしたが、設備の管理面などの不備を是正しました。

今後も神戸製鋼グループ全体の防災管理体制の強化を図っていきます。



▲現地防災確認調査((株)神鋼環境ソリューション 技術研究所)

事業所の防災対策

設備事故の未然防止に努めてきましたが、2013年度も火災の発生などをなくすことはできませんでした。それぞれについて原因究明を行い、対策を講じています。

今後も再発防止に取り組み、事故事例の情報共有を図り、類似事故の防止活動の水平展開など、グループ全体で設備事故防止に努めていきます。

●2013年度の各事業所の設備事故発生件数

事業所名	件数	事業所名	件数	事業所名	件数	事業所名	件数
神戸製鉄所	0	茨木工場	1	真岡製造所	0	播磨工場	0
加古川製鉄所	2	西条工場	0	長府製造所	0	神戸総合技術研究所	0
藤沢事業所*	0	福知山工場	0	大安工場	0	高砂製作所	0

※藤沢事業所は、生産センター藤沢工場、技術センター、グループ会社拠点の総称

●2013年度の設備事故

日時・場所	内容
2013年7月 加古川製鉄所	高温の焼結釜により、搬送用コンベアが焼損。
2013年11月 茨木工場	看板設置作業中、看板に取り付けられた針金がクレーンのトロリーに接触し、飛散した火花が集じん機内の堆積ダストに着火。
2014年3月 加古川製鉄所	製鋼工場で、バッグからの地金抜き取り作業中に、地金が割れ、内部の未凝固部が流出。水蒸気破裂により、地金が飛散し、周辺資材を一部焼損。

事業所における防災活動

神戸製鋼グループは、各事業所において定期的な防災訓練を実施しています。

2014年1月に神戸総合技術研究所では、市消防11名の訓練立会のもと、協力会社・関係会社も含め研究所全体(873名が参加)で大規模地震発生を想定した総合防災訓練を実施しました。大規模地震発生時の初動対応を主眼に置き、屋内からの退避、消火栓、エンジンポンプを利用した放水、構内救急車を利用した救護、固定電話・携帯電話に頼らない点呼と伝令といった訓練を実施しました。

また、コベルコ建機(株)の広島と大垣の事業所では、地域の

消防大会にも出場し、防災意識の向上に努めています。2013年度は、大垣事業所が大垣消防組合主催「事業所初期消火競技大会」の屋内消火栓の部、消火器の部に出場しました。大垣事業所では、全従業員の防災意識向上を図るため、これまで大会に出場したことの無い従業員を中心に出場しています。今後も出場を継続すると共に、全従業員の防災意識の向上に努めていきます。



▲大垣消防組合主催「事業所初期消火競技大会」

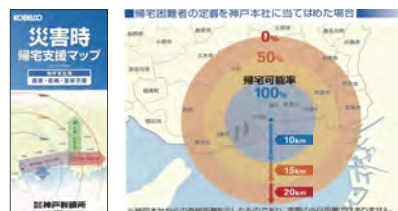
コベルコ1.17ウォーク

第8回「コベルコ1.17ウォーク」を、2014年1月25日に神戸本社地区で開催し、143名が参加しました。本イベントは地震などの発生で交通機関が不通になったとの想定のもと、通勤経路の確認を目的としています。

神戸本社では、阪神淡路大震災の教訓を生かして、歩行者目線に立った折りたたみ式の地図を作成しています。コベルコ1.17ウォークではその地図を携帯し、途中にある想定津波浸

水区域などの危険箇所やコンビニ、トイレなど災害発生時に役立つポイントを実際に歩いて確認しました。

また、神戸本社、東京本社にて実施している帰宅訓練と合わせて今後も継続していきます。



▲神戸本社災害時帰宅支援マップ

地域・社会の皆様から信頼・安心される企業グループを目指し、防災活動に取り組んでまいります。

全社防災統括責任者(常務執行役員) 水口 誠

神戸製鋼グループでは、「設備事故の防止」、「自然災害の備え強化」、「防災関連法令の遵守」を3つの基本方針として、防災管理活動を推進しております。

2013年度は、他社や過去の災害事例を参考に、事故対策を着実にを行い、防災力向上に努めてきました。また、大規模地震・津波、局地的豪雨など自然災害に関しては、「想定外」を「想定内」とすべく、ハード・ソフトの充実、さまざまな状況を想定した訓練の実施など防災・減災の備えを積み重ねてきました。

今後も一つひとつの活動を確実にを行い、地域・社会の皆様から信頼・安心される災害に強い企業グループを目指してまいります。



各事業所の 環境保全への取り組み

神戸製鋼の全事業所および主なグループ会社の事業所における環境保全の取り組みについて、各事業所の責任者よりご報告します。一つひとつの現場が常にチャレンジし、新たな努力を積み重ねることで、神戸製鋼グループの環境保全活動は進歩していきます。

1 事業所名・グループ会社名

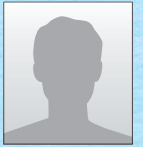
所在地

T E L

F A X

主要製品

事業所長・環境責任者からのコメント



氏名

■ 社内事業所

■ グループ会社

鉄鋼事業部門

- 1 加古川製鉄所
- 2 神戸製鉄所
- 3 高砂製作所
- 4 神鋼建材工業株式会社 本社・工場
- 5 神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所
- 6 神鋼鋼線工業株式会社 ロープ事業部 尾上事業所
- 7 神鋼特殊鋼管株式会社 本社・下関事業所
- 8 神鋼ボルト株式会社 本社工場
- 9 株式会社セラテクノ 明石工場
- 10 株式会社セラテクノ 備前工場
- 11 株式会社テザックワイヤロープ 本社・二色浜製造所
- 12 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所
- 13 関西熱化学株式会社 加古川工場
- 14 神鋼神戸発電株式会社 神鋼神戸発電所
- 15 日本エアロフォージ株式会社 本社工場

アルミ・銅事業部門

- 22 真岡製造所
- 23 長府製造所
- 24 大安工場
- 25 神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社工場
- 26 神鋼アルミ線材株式会社 本社工場
- 27 神鋼ノース株式会社 本社・霞ヶ浦工場
- 28 神鋼リードミック株式会社 本社工場
- 29 株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

機械事業部門

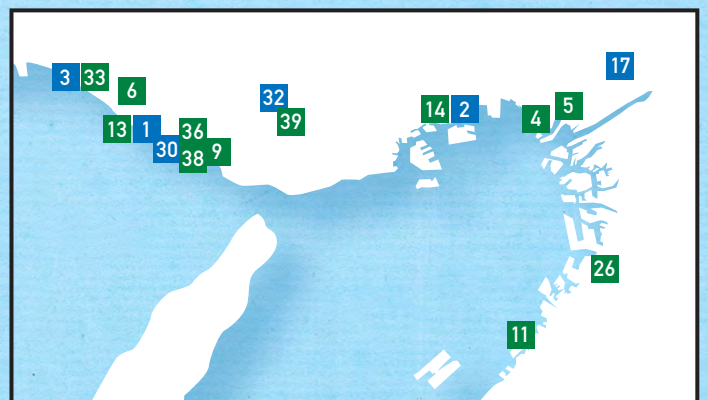
- 30 播磨工場
- 31 神鋼造機株式会社 本社

溶接事業部門

- 16 藤沢事業所
- 17 茨木工場
- 18 西条工場
- 19 福知山工場
- 20 神鋼アクテック株式会社 日高工場
- 21 阪神溶接機材株式会社 岡山工場

本社

- 32 神戸総合技術研究所
- 33 株式会社コベルコ科研ターゲット事業本部
- 34 コベルコ建機株式会社 広島事業所
- 35 コベルコ建機株式会社 大垣事業所
- 36 コベルコクレーン株式会社 大久保事業所
- 37 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 門司工場(線材工場)
- 38 株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所
- 39 株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所
- 40 神鋼機器工業株式会社 本社




1 加古川製鉄所

所在地 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町1
TEL 079-436-1111 FAX 079-436-1400

主要製品 厚板、熱延鋼板、冷延鋼板、表面処理鋼板、線材

所員一丸となって、生産基盤である「安全・環境・防災」のより一層の強化に取り組むと共に、社会環境や事業環境の変化に対応し、省エネルギー、廃棄物削減などに取り組んでおります。高品質で特徴のある製品の提供により社会に貢献すると共に、環境負荷低減活動、各種コミュニケーションを通じて地域の皆様との共生を図ってまいります。




所長 柴田 耕一郎

2 神戸製鉄所

所在地 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2
TEL 078-882-8030 FAX 078-882-8290

主要製品 線材、棒鋼

神戸に生まれ育った都市型製鉄所として、常に地域との共生を意識して環境保全活動に取り組んでいます。今後も、人材育成により環境・防災に強い組織をつくり、安全で安心していただける製鉄所を目指してまいります。




所長 藤井 晃二

3 高砂製作所

所在地 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2-3-1
TEL 079-445-7111 FAX 079-445-7231

主要製品 鑄鍛鋼製品、チタン、鉄粉、産業機械、圧縮機、エネルギー・原子力機器

特色あるオンリーワン製品を世界中に供給することで、社会に貢献しています。今後も、「安全・環境・防災・コンプライアンス」を常に意識し、環境負荷低減活動を継続しながら、環境に配慮したもののづくりを行ってまいります。




所長 竹内 正道

4 神鋼建材工業株式会社 本社・工場

所在地 〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46番地
TEL 06-6418-2621 FAX 06-6418-6701

主要製品 ガードフェンス、高欄、グレーチング、アンチスリップ鋼板、アルミ道路資材

2008年より「エコアクション21」のEMS(環境マネジメントシステム)認証を受け、2012年には全支店・営業所に活動を広げて全社一丸となって取り組んでいます。今後ともこの活動を通じて、環境負荷低減、地域社会の環境保全を目的に継続的な改善に努めてまいります。




製造副本部長 梶原 政徳

5 神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所

所在地 〒660-0091 兵庫県尼崎市中浜町10番地1
TEL 06-6411-1071 FAX 06-6411-9644

主要製品 PC鋼材、PC鋼材加工品、めっき鋼線・ばね用鋼線

この夏も電力の安定供給に大きな不安があります。昨年度、当所はESCO事業に申請・契約し、高効率や省エネルギータイプへの設備更新を多数実施致しました。すでに大きな省エネルギー効果が発揮されており、今後も引き続き、計画推進し、確実に成果に繋がってまいります。




常務取締役 橋本 力男

6 神鋼鋼線工業株式会社 ロープ事業部 尾上事業所

所在地 〒675-0027 兵庫県加古川市尾上町今福128番地
TEL 079-424-2681 FAX 079-424-2686

主要製品 一般ワイヤーロープ、特殊ワイヤーロープ、ロープ加工品、その他線材二次製品

当事業所では省エネルギー・省資源の推進を環境方針に定め、活動しています。特に2013年度は、エネルギー原単位の低減を図ることができました。今後も「エコアクション21」活動を推進し、さらなる環境負荷低減に努めていきます。




常務取締役 前田 真一

7 神鋼特殊鋼管株式会社 本社・下関事業所

所在地 〒752-0953 山口県下関市長府港町13-1
TEL 083-246-3781 FAX 083-245-1092

主要製品 継目無ステンレス鋼管、精密細管、特殊管、チタン管

持続可能な発展を目的として環境負荷低減活動に取り組み、2013年度は省エネルギーなどのハード対策に加えて、ソフト対策として協力会社の環境管理活動の強化に取り組み、効果を上げました。今後も継続的改善活動に取り組む所存です。




取締役 下関事業所長 尾島 義憲

8 神鋼ボルト株式会社 本社工場

所在地 〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17番地
TEL 047-328-6551 FAX 047-328-6558

主要製品 高力ボルト(トルコン、ハイテン)

2007年の「エコアクション21」認証取得後、継続して工場、営業所一体となって活動を展開しています。内製化のために2012年に稼働を開始した線材の表面処理は順調に立ち上がり、150kmほど離れた外注先への往復輸送のためのエネルギー削減に大いに貢献しています。




製造部長 三谷 芳弘

9 株式会社セラテクノ 明石工場

所在地 〒673-0037 兵庫県明石市貴崎5丁目11番70号
TEL 078-923-8678 FAX 078-923-8397

主要製品 耐火レンガ、各種不定形耐火物

省エネルギー、産業廃棄物削減を中心に「エコアクション21」活動に積極的に取り組んでいます。ピーク電力の低減やリサイクル推進による産廃削減などの活動により、環境負荷の低減、地域社会の環境保全を目的に継続的な改善に努めてまいります。




工場長 多田 秀徳

10 株式会社セラテクノ 備前工場

所在地 〒705-0033 岡山県備前市穂浪2835番地の7
TEL 0869-67-0011 FAX 0869-67-1346

主要製品 耐火レンガ、各種不定形耐火物

「エコアクション21」活動を通じて、省エネルギー・節水・産業廃棄物の発生抑制並びにリサイクルなどに積極的に取り組んでいます。また、地域の皆様との共存共栄を大切にする工場を目指して、環境負荷低減のための継続的改善にも従業員が一丸となって取り組んでまいります。




工場長 中野 豊

11 株式会社テザックワイヤロープ 本社・二色浜製造所

所在地 〒597-8501 大阪府貝塚市二色中町11番1
TEL 072-432-9251 FAX 072-432-2339

主要製品 鋼索、鋼線

当製造所は海が隣接しており、工場排水に最大の注意を払って管理しております。2013年度は、廃塩酸を再利用するようになりました。また、工場内照明を省エネルギータイプに更新し電力使用量を削減しました。本年度も、廃棄物の再利用および省エネルギー活動に注力していきます。




常務取締役 二色浜製造所長 前田 真一

12 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所

所在地 〒934-8502 富山県射水市八幡町3丁目10番15号
TEL 0766-84-3181 FAX 0766-84-3468

主要製品 特殊鋼鍛鋼品(ダイス鋼・プラスチック金型用鋼・その他精密鍛造材)、特殊鋼圧延鋼材

環境負荷低減のため、海に面する製造所であることから、排水に係るリスク低減に重点を置いて活動しています。地域社会の皆様と理解される製造所となるよう環境レポートの発刊、自治体の見学会、美化運動への参加などコミュニケーションの向上に努めています。




常務取締役 富山製造所長 久留島 靖章

13 関西熱化学株式会社 加古川工場

所在地 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町7番地
TEL 079-436-1500 FAX 079-435-1626

主要製品 コークス、コークス炉ガス、化成品

加古川工場は、「安全で安心な工場づくり」を目標に掲げ、大気汚染・水質汚濁の防止はもとより、廃棄物の再生利用や省エネルギー活動など、環境負荷低減に努め、製鉄所と一体となって地域社会から信頼される企業を目指しています。




工場長 石川 邦夫

14 神鋼神戸発電株式会社 神鋼神戸発電所

所在地 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2番地
TEL 078-882-8036 FAX 078-882-8037

主要製品 電力卸供給事業

エネルギーの安定供給を通じて、皆様から信頼される発電所を目指しています。神戸の美しい山並と港に囲まれた都市型発電所として、環境保全活動に従業員全員で取り組むと共に、設備保全の徹底による安定稼働を図っていきます。



取締役 三木 尚司

15 日本エアロフォージ株式会社 本社工場

所在地 〒713-8013 岡山県倉敷市玉島乙島字新湊8264番7
 TEL 086-523-0135 FAX 086-523-0137
 主要製品 航空・発電用チタン合金/ニッケル合金大型鍛造品



代表取締役社長
岡野 正之

2013年4月より稼働を開始し、2014年度にはいよいよ航空機機体部品の生産を開始する予定です。世界最大の大型油圧鍛造プレス機と革新的技術により、鍛造部品の軽量化とレアメタル使用量の削減に寄与する事業を目指します。また倉敷市との環境保全協定を遵守すると共に、地域清掃活動への参加を年度計画に織り込み、地域からの信頼を増す取り組みを続けています。

16 藤沢事業所

所在地 〒251-8551 神奈川県藤沢市宮前100-1
 TEL 0466-20-3111 FAX 0466-20-3115
 主要製品 フラックス入りワイヤ、溶接ロボットシステム



工場長
長谷川 章

環境に配慮した活動では、環境に係る設備の総点検、省エネルギー対策、廃棄物の減量化、化学物質の適正管理などを重点実施事項として推進します。また全員参加による事業所周辺清掃活動など地域との共生・協調を通して、EMS(環境マネジメントシステム)に対する意識の向上を目指します。

17 茨木工場

所在地 〒567-0879 大阪府茨木市東宇野辺町2-19
 TEL 072-621-2111 FAX 072-621-2015
 主要製品 被覆アーク溶接棒、フラックス入りワイヤ、配合溶剤



工場長
植田 幸雄

廃棄物の発生量抑制・有害物化、粉じんに関する環境対策に継続して取り組んでいます。2014年度は老朽化設備の計画的な保全に努め、不要な廃棄物を抑制し、環境リスクの低減に向けた活動を展開していきます。

18 西条工場

所在地 〒739-0024 広島県東広島市西条町御園宇6400-1
 TEL 082-423-3311 FAX 082-420-0038
 主要製品 被覆アーク溶接棒



工場長
池上 浩司

環境負荷の少ない事業活動を目指して、「エコアクション21」を活用しながら環境経営を推進しています。2013年度はエネルギー単位の削減において、大きな成果を上げることができました。2014年度もエネルギー・廃棄物・排水・化学物質の削減をさらに進めていきます。

19 福知山工場

所在地 〒620-0853 京都府福知山市長田野町3-36
 TEL 0773-27-2131 FAX 0773-27-6358
 主要製品 ソリッドワイヤ



工場長
迫 勝幸

2013年度は、廃棄物のリサイクル率向上や工場外への化学物質漏えい防止強化実施など環境負荷低減に取り組んできました。これからも、繰り返し教育を通じて、従業員への環境に対する意識向上に努め、廃棄物量の削減、再資源化に対して、あらゆる策を実行し、環境負荷低減に取り組んでいきます。

20 神鋼アクテック株式会社 日高工場

所在地 〒669-5302 兵庫県豊岡市日高町岩中682
 TEL 0796-42-1212 FAX 0796-42-1218
 主要製品 溶接用裏当て材・高機能材脱炭フィルター



工場長
村田 忠博

さらなる環境に配慮した生産・販売活動へのスパイラルアップを目指し、2012年下期から本社・営業部門も加わった「エコアクション21」活動を実施中です。特にエネルギーコストが高騰しており省エネルギーへの取り組み強化が喫緊の課題です。

21 阪神溶接機材株式会社 岡山工場

所在地 〒709-2105 岡山県岡山市北区御津伊田1028-12
 TEL 0867-24-4181 FAX 0867-24-4340
 主要製品 サブマージアーク溶接フラックス



社長
山本 英樹

原料系廃棄物の発生源対策と、社内での再資源化に取り組みます。一方、公害防止協定の協定値の緩和について市と協議を進めています。環境に配慮した生産活動は収益力向上にも繋がるとの考えで推進してまいります。

22 真岡製造所

所在地 〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘15(第2工業団地)
 TEL 0285-82-4111 FAX 0285-84-0231
 主要製品 アルミ板・条



所長
藤井 拓己

環境に配慮した製品の提供による社会貢献および、生産活動においても省エネルギー、廃棄物削減に取り組んでいます。2014年度はエネルギー転換によるCO₂削減や、廃棄物の再資源化活動によるリサイクル率のさらなる向上、環境負荷低減活動を計画しており、引き続き地域・社会との共生に努めていきます。

23 長府製造所

所在地 〒752-0953 山口県下関市長府港町14-1
 TEL 083-246-1211 FAX 083-246-1271
 主要製品 アルミ押出材、アルミ加工品、伸銅板・条



所長
磯野 誠昭

山口県エコファクトリー認定事業所として、廃棄物削減や環境負荷の低減、および地域との協調・共生に継続的に取り組んでいます。2014年度は、さらなる省エネルギー活動を従業員一丸となって推進していきます。

24 大安工場

所在地 〒511-0284 三重県いなべ市大安町梅戸1100
 TEL 0594-77-0330 FAX 0594-77-2249
 主要製品 アルミ・マグネシウム鋳造品、アルミ・マグネシウム鍛造品



工場長
桂 俊弘

2013年度は高効率ボイラの採用、照明のLED化、グリーンカーテンの設置など地道な省エネルギー活動に取り組みました。製品では、アルミサスペンション部品が自動車の軽量化によるCO₂削減に貢献しています。今後も環境に配慮した生産活動と製品での環境への貢献に努めてまいります。

25 神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社工場

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
 TEL 093-381-1331 FAX 093-381-3833
 主要製品 銅合金管、モールド、複合材、熱加工品



取締役 工場長
行壽 啓之

2013年度は、省エネルギーを主眼に夏季、冬季のピーク電力抑制のための操業調整、および蒸気漏れの削減に取り組まれました。2014年度は、エア漏れの削減を重点とした省エネルギーおよびめっき廃液の削減を重点とした廃棄物の削減に取り組んでまいります。

26 神鋼アルミ線材株式会社 本社工場

所在地 〒593-8315 大阪府堺市西区菱木2丁目2153番地の1
 TEL 072-271-1481 FAX 072-271-1486
 主要製品 アルミ合金線・棒、アルミ線棒加工品



取締役 社長
河野 克彦

2013年度も前年同様、省エネルギー活動の継続を実施いたしました。また、夏季休日振替も行い電力需要のピーク削減にも参加しました。お客様、地域社会の皆様からお認めいただけるよう2014年度も環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。

27 神鋼ノース株式会社 本社・霞ヶ浦工場

所在地 〒315-8523 茨城県かすみがうら市上稻吉1758-1
 TEL 0299-59-4111 FAX 0299-59-4597
 主要製品 建設仮設材・自動車部材などアルミ加工品



社長
遠山 茂幸

2011年度より継続実施中の環境関連活動「①省エネルギー、②省資源、③活人化、④品質歩留、⑤棚卸削減」を2014年度もさらにブラッシュアップし推進すると共に、地域の皆様とのコミュニケーションを大切に、社会との共生を図ってまいります。


アルミ・銅事業部門

28 神鋼リードミック株式会社 本社工場

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
TEL 093-381-1337 FAX 093-381-3352

主要製品 電子部品・半導体・集積回路部品

当社では、「地球にやさしい会社」を目指し、地球環境の保全を配慮して、資源の保護、環境影響の防止のための4R活動を推進しています。2014年度は「洗浄油のリユース・リサイクル」「特管廃棄物排出量の低減」などの環境管理活動に重点的に取り組みます。




社長
伊賀 史幸

29 株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

所在地 〒257-0015 神奈川県秦野市平沢65番地
TEL 0463-82-3111 FAX 0463-83-1920

主要製品 空調用、給水・給湯用銅管および銅合金管

当工場は緑と名水で知られる秦野に立地する銅管トップメーカーとして、本年度も歩留向上とエネルギー原単位向上を推進すると共に、新冷媒対応の高性能小径伝熱管の開発などを通じて、さらなる環境負荷低減活動に取り組んでまいります。



工場長
田口 昌利


機械事業部門

30 播磨工場

所在地 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島41
TEL 079-436-2101 FAX 079-436-2199

主要製品 空気圧縮機、冷凍機および蒸気関連部品

「地球温暖化対策」「循環型社会構築」などの環境保全活動が重要課題であるとの認識のもと、①環境に配慮した生産活動、②製品・技術・サービスでの環境への貢献、③社会との共生・協調の実践により、企業価値を向上し社会に貢献してまいります。




工場長
松村 昌義

31 神鋼造機株式会社 本社

所在地 〒503-8505 岐阜県大垣市本今町1682番地の2
TEL 0584-89-3121 FAX 0584-87-0020

主要製品 試験機、動力伝達装置、発電装置

総合機械メーカーとして、世界に通じる第一級のQCD工場を目指し、環境に配慮したものづくりと製品・サービスの提供に取り組みます。また、環境リスクの適正な管理と改善により、環境管理レベルのさらなる向上に努めると共に、地域社会との共生を実現する企業として社会に貢献してまいります。



代表取締役社長
米谷 剛人


本社

32 神戸総合技術研究所

所在地 〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台1丁目5-5
TEL 078-992-5600 FAX 078-992-5532

主要製品 —

神戸総合技術研究所は省エネルギー・省資源など、環境に配慮した新製品・新技術の研究開発を通じて、社会に貢献していきます。「エコアクション21」を活用したCO₂・上水・廃棄物排出量の削減にも全員参加で取り組んでおり、環境配慮製品の購入も浸透しつつあります。




開発業務部長
佐伯 公三

33 株式会社コベルコ科研 ターゲット事業本部

所在地 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3番1号
TEL 079-445-9020 FAX 079-445-9025

主要製品 スパッキングターゲット材

当事業本部では、省エネルギー型のディスプレイ材料、薄膜2次電池材料などにおいて独自の商品を提供し、製品製造時の「環境に優しいものづくり」はもちろん、これらを組み込んだ製品を通じて省エネルギーや工程省略など社会の環境改善に貢献していくことを目指します。




ターゲット事業本部長
小宮 幸久

34 コベルコ建機株式会社 広島事業所

所在地 〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港2丁目2番1号
TEL 082-943-5321 FAX 082-943-5322

主要製品 建設機械

新工場移転後、有機溶剤の使用量を半減しましたが、2013年度も削減活動を継続し、前年度比約2割の改善ができました。製品では、排ガスの新基準に適合した製品を順次上市しました。今年度も、エネルギーと有機溶剤使用量のさらなる削減、さらに環境に優しい製品の開発に引き続き取り組んでまいります。




生産本部長
平山 正史

35 コベルコ建機株式会社 大垣事業所

所在地 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番7号
TEL 0584-89-3104 FAX 0584-87-0014

主要製品 建設機械

世界一のミニショベル工場を目指して、現在競争力の強化に努めています。生産性の向上による使用電力の削減、塗着効率を上げることで廃塗料の削減を図ると共に、地域の皆様との共生を目指し環境保全に努めてまいります。




事業所長
秋山 健

36 コベルコクレーン株式会社 大久保事業所

所在地 〒674-0063 兵庫県明石市大久保町八木740
TEL 078-936-1331 FAX 078-936-1390

主要製品 クレーンなど土木建設機械、その他諸機械

当事業所では低燃費・低騒音・軽量化を目指した製品開発や、生産性向上による電力・燃料などの効率的な使用を基本とした生産活動に加え、廃棄物発生量の削減活動などを通じて環境負荷低減に取り組んでいきます。




人事総務部長
丹波谷 至邦

37 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 門司工場(線材工場)

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2-2-1
TEL 093-391-2835 FAX 093-391-2847

主要製品 超電導線材

北九州市にある線材工場では、「エコアクション21」活動として、CO₂排出量、水使用量、廃棄物排出量、化学物質使用量の削減、グリーン調達、環境に配慮した製品の6つのテーマにスタッフ、現場一同で取り組んでおります。




線材工場長
池谷 大

38 株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所

所在地 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島19番地
TEL 079-436-2500 FAX 079-436-2506

主要製品 プロセス機器

当製作所も建設後40年近くが経過し、今後はさらに老朽化対策が重要となってきますが、今年度もコンプライアンスを徹底すると共に、所員全員で安全で働きやすい職場環境の構築を目指します。また、省エネルギー活動についても地道な活動を展開し、電力、燃料などの省エネルギーを推進していきます。




所長
今中 照雄

39 株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所

所在地 〒651-2241 兵庫県神戸市西区室谷1丁目1番4号
TEL 078-992-6500 FAX 078-997-0550

主要製品 —

技術研究所では、廃棄物の発生量削減や再資源化量向上の推進に取り組んでおります。また、排水基準遵守に対して、巡回点検などによる適正管理の遂行、万が一に備えて全所員参加の緊急事態対応訓練などを実施しています。環境関連企業として、地域の環境保全に配慮した運営に努めております。




センター長
高橋 正光

40 神鋼機器工業株式会社 本社

所在地 〒682-0014 鳥取県倉吉市海田東町112番地
TEL 0858-26-8111 FAX 0858-48-1077

主要製品 高圧ガス容器などのプレス加工品・製品

海、山に囲まれた倉吉の自然豊かな地域との共存を目指し、特に工場排水に注意を払って管理すると共に、密接した地域の皆様に配慮した操業を心掛けております。2014年度も省エネルギー、省資源の推進により、継続して環境負荷軽減に取り組んでまいります。



常務取締役
泉谷 雅人

読者の 皆様からの評価

神戸製鋼グループは、ステークホルダーとの対話に基づき環境・社会貢献活動を行っています。その一環として、「環境・社会報告書 2013」について、読者の皆様から自由な評価や感想をいただきました。その一部をご紹介します。神戸製鋼グループは、これからも、読者の皆様の「声」を活かして、双方向の環境・社会報告書づくりを進めてまいります。

1 環境経営の 基本方針について

- 環境対策を実施する上で6つの実施事項を設定し、それを基に活動をする方針を取っており、今後の展開としてその6つの項目に沿って活動を正しく行っているのかという点も含めて楽しみです。
- 環境負荷が与える経営への影響を考慮した上で長期方針や中期方針を定めてあり、きちんと影響を重要視して課題を特定しているので、何かあった時でも的確に対処できるのかなと思います。

2 環境マネジメント体制について

- 全生産拠点での環境マネジメントシステム認証取得に加え、独自の管理活動もあるということで、環境問題への意識の高さがうかがえました。
- 事業ごとに取り組みを決定することによって、現場にまでより情報・方針の伝達が早くなり、適切に運営されやすくなるのが読み取れました。

3 バリューチェーンを通じた 環境負荷の削減について

- バリューチェーンの各部分での取り組みを、原料調達からお客様に届くまでといった順番に並べて記載しており、わかりやすかったです。
- 質の高い製品の上に環境負荷の低減という付加価値をつけることによって、顧客に最高のサービスを提供しているのが素晴らしいと感じました。

4 地球温暖化対策について

- エネルギーの総使用量・CO₂排出量の推移をグラフで表してわかりやすかったです。さらにそれを部門ごとに分けているのが非常に効率的で良いと感じました。
- 製品の輸送手段を従来のトラックから船舶や鉄道にモーダルシフトしており、輸送に関しては特に注意して運用していると思うので、今後はさらなる精度を高めることも必要だと思います。
- CO₂排出量が前年比で2.3%削減されていますが、どのような対策をしたのか具体的に記載してほしいです。

5 資源循環の促進について

- 発生した廃棄物のほとんどを再資源化できており、環境にしっかり配慮されていると思います。
- 特に鉄鋼事業部門において鉄鋼スラグの再資源化に注力するなどして環境配慮に気を配りながら目標管理していますが、その他の部門に関してもこれと同じくらい注力している部門があるかどうか気になります。

6 化学物質の適正管理について

- 有害化学物質管理方針を定め、それに則って管理を行っているので問題はないと思います。化学物質の排出量は、過年度との比較があるとよりわかりやすいのでは。

7 環境負荷の低減について

- SOxの排出量は1975年から1980年に一気に減り、NOxは微量ながら減ったり増えたりを繰り返して、まだまだこれからの活動次第で変わってくると思います。

8 製品・技術・サービスでの 環境への貢献について

- グラフにしてエネルギーの総使用量・CO₂排出量を表してわかりやすかったです。さらにそれを部門ごとに分けているのが非常に効率的で良いと感じました。
- 環境技術の研究開発について、コスト面を含めた中期、長期の技術目標を設定している点が良いと感じました。コスト面に関しては数値化した方が良いのでは。

9 環境関連情報の開示について

- 環境・社会報告書を通じて、神戸製鋼グループの環境に対する役割やその成果が組織的に検証されていると思います。
- 第三者のコメントをいただいていることで貴社の公平性、正当性を確認することができました。これらの意見を重要な項目としてとらえて、経営の中に取り入れてほしいと思います。

10 全員参加の取り組みについて

- 「コベルコ エコライフ ノート」など、非常にユニークなものを使って従業員の学習に取り組んでいるのがわかります。
- 社員一人ひとりが環境経営に取り組んでおり、中でも「環境家計簿」というものがとてもおもしろいと感じました。社外にも広めていけるような取り組みをしてはいいかかと思えます。

11 環境リスク管理について

- 国内に加え、海外でも環境監査を実地されていることは、見ている側が安心できました。それがどのくらいの頻度で行われているのかが明記されていればより良いものになると思います。
- 2013年に海外事業所のインドで現地調査を実施し、そこで発見された問題とその解決策を考えたことは、国内だけでなく海外もきちんと状況を把握しているということの証だと思えます。

12 社会貢献活動について

- 自ら環境保護の活動をするだけでなく、出前エコ教室など地域の子どもたちに環境教育を施す活動をしている点が非常に素晴らしいと感じました。
- スポーツを通じた社会貢献活動としてラグビー選手が実際に被災地に赴いて支援することなどは、子どもたちだけでなくそこに住む方々にも勇気を与えられると思います。今後も継続すべき点です。

13 生物多様性の保全について

- 新入社員の教育の場として森林整備活動を行うなど、会社全体として環境に対する高い関心がうかがえます。



▲ 神戸製鋼グループ 環境・社会報告書 2013

編集 後記

(株)神戸製鋼所
CSR委員会

「環境・社会報告書2014」の発行にあたっては、製造業ならではの「ものづくり」を通じた環境と社会への貢献活動について、幅広いステークホルダーの皆様からわかりやすくお伝えすることを意識しました。巻頭特集では人々の身近なところでより良いくらしや社会

に貢献しているグループの製品と技術を「KOBELCO with LIFE」というタイトルで紹介しています。また、環境報告ページの特集としてアルミの原料調達から製品の使用までの環境負荷低減を「アルミのバリューチェーン」として紹介し、社会性報告ページ

の特集として「第1回KOBELCO森の童話大賞」と「スポーツを通じた社会貢献活動」をクローズアップしています。今後も読者の皆様から忌憚のないご意見を賜り、内容の充実にも努めてまいります。

COMMENT

[第三者コメント]



神戸製鋼グループ 「環境・社会報告書2014」を読んで

京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長・教授

酒井 伸一

PROFILE

酒井 伸一(さかい・しんいち)

1984年京都大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。同大学助手、助教授を経て2001年より国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長。2005年より京都大学教授、2010年環境保全センター長、2011年学内改組により現職。廃棄物資源循環学会元会長。中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会専門委員等。著書に『ゴミと化学物質』(岩波新書)など。

2011年の3.11東日本大震災以降、エネルギー需給のあり方や安全のあり方など、大きな課題に日本社会は直面しています。神戸製鋼グループ「環境・社会報告書2014」の巻頭特集“KOBELCO with LIFE”では、「エネルギーを創るコベルコ」「災害を防ぐコベルコ」と称して、事業と社会の接点を明確に伝えておられます。以前より、神戸地区で140万kWという規模のIPP発電事業を推進し、直近では栃木で120万kWのガス発電事業を推進する宣言を行っており、社会的意義の大きな事業としての展開には拍手を送りたいと思います。「あべのハルカス」でのバイオガス発電事業も紹介されていますが、こうした再生可能エネルギーとのバランスを強く意識した事業展開ターゲットが明確に視野に入ってくることを期待しています。「乗り物を軽くするコベルコ」で燃費向上やCO₂排出量削減に間接的に貢献という視点も、アルミのバリューチェーン活用という説明とともに極めて説得性のある話です。であるがゆえに、製品を通じたCO₂排出量削減4,350万トンといった主張は、丁寧に根拠の紹介を含めて公開していく姿勢があると、より望ましいところです。

今回の「環境・社会報告書2014」では、コンプライアンスの徹底、事業活動を通じた環境への貢献、ステークホルダーとのつながりづくりの3点を編集方針として取り上げられたとのこと。企業使命としての取

益に加えて、ルールや規制との接点はコンプライアンスの徹底で丁寧に報告されています。環境報告に併せたCSR報告としての展開に舵を切られているわけですが、その姿勢はCSV(Creating Shared Value)に繋がる可能性を有しておられるように思えます。つまり、社会的意義の高い企業の事業という趣旨で「共通価値の創造」という高みに到達できる事業展開をみせつつあるという意味です。今回の“KOBELCO with LIFE”には、地球社会の持続性に貢献できる要素が多く含まれており、そうした側面での指標や説明に繋がっていくことが期待できます。つまり、バウンダリや時間軸をにらみながら社会の持続性に資する構想と準備を期待したいと思います。神戸製鋼グループの場合、企業の持続性と社会の持続性が同じベクトルにのる兆しがみえており、これはその企業に関係するすべての方にとって大きな喜びに繋がる物語です。

以上、おしなべて良好なパフォーマンスが得られていることを的確に報せているいい環境・社会報告書です。企業運営にかかる理念と経営に、環境の視点が明示的にビルトインされていることで達成できているものと拝察します。こうした動きを継続していただくこととともに、さまざまな社会との接点で、幅広い技術集団としての神戸製鋼グループの知見が活かされていくことを願っています。



KOBELCO

株式会社神戸製鋼所

神戸本社 〒651-8585 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2-4

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9-12

発行：(株)神戸製鋼所 CSR委員会

ホームページはこちらをご覧ください。
http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/